

学 則

同 志 社 大 学

(2021年4月1日改正)

目 次

第1章 総 則	1
第2章 学 部	2
第1節 修業年限, 学年, 学期及び休業日	2
第2節 学部学科等の組織	2
第3節 教育課程及び履修方法	4
第4節 試 験	6
第5節 卒業及び学位の授与	6
第6節 収容定員及び職員組織	7
第7節 入学, 転入学, 編入学, 休学, 留学, 退学, 除籍及び再入学	9
第8節 科目等履修生, 聴講生及び外国人留学生	11
第9節 学 費	12
第3章 附属施設	13
附 則	13
別表Ⅰ 学 費	20
別表Ⅰの2 履修料	22
別表Ⅰの3 聴講料	23
別表Ⅰの4 外国人留学生(特別学生) 入学金及び研修料	23
別表Ⅰの5 入学検定料	25
別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表	26
全学共通教養教育科目	26
日本語・日本文化教育科目	32
神学部	33
文学部	38
社会学部	57
法学部	77
経済学部	89
商学部	94
政策学部	100
文化情報学部	105
理工学部	109
生命医科学部	137
スポーツ健康科学部	146
心理学部	150
グローバル・コミュニケーション学部	153
グローバル地域文化学部	159
国際教育インスティテュート	169
教育職員免許状を得るための課程	172

同志社大学学則

1948年4月1日	制定	1978年4月1日	改正	2003年4月1日	改正
1950年4月1日	改正	1979年4月1日	〃	2004年4月1日	〃
1951年4月1日	〃	1980年4月1日	〃	2005年4月1日	〃
1952年4月1日	〃	1981年4月1日	〃	2006年4月1日	〃
1954年4月1日	〃	1982年4月1日	〃	2007年4月1日	〃
1955年4月1日	〃	1983年4月1日	〃	2008年4月1日	〃
1959年4月1日	〃	1984年4月1日	〃		(規則名変更)
1960年4月1日	〃	1985年4月1日	〃	2009年4月1日	〃
1961年4月1日	〃	1986年4月1日	〃	2010年4月1日	〃
1962年4月1日	〃	1987年4月1日	〃	2011年4月1日	〃
1963年4月1日	〃	1988年4月1日	〃	2012年4月1日	〃
1964年4月1日	〃	1989年4月1日	〃	2013年4月1日	〃
1965年4月1日	〃	1990年4月1日	〃	2014年4月1日	〃
1966年4月1日	〃	1991年4月1日	〃	2014年11月1日	〃
1967年4月1日	〃	1992年4月1日	〃	2015年4月1日	〃
1968年4月1日	〃	1993年4月1日	〃	2016年4月1日	〃
1969年4月1日	〃	1994年7月1日	〃	2016年5月1日	〃
1970年4月1日	〃	1995年4月1日	〃	2017年4月1日	〃
1971年4月1日	〃	1996年4月1日	〃	2017年10月1日	〃
1972年4月1日	〃	1997年4月1日	〃	2018年4月1日	〃
1973年4月1日	〃	1998年4月1日	〃	2019年4月1日	〃
1974年4月1日	〃	1999年4月1日	〃	2020年4月1日	〃
1975年4月1日	〃	2000年4月1日	〃	2021年4月1日	〃
1976年4月1日	〃	2001年4月1日	〃		
1977年4月1日	〃	2002年4月1日	〃		

第1章 総 則

第1条 本大学は、教育基本法にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、あわせてキリスト教的教育の特色を発揮し、国家社会に有用な人物を養成することを目的とする。

第1条の2 本大学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 点検及び評価に関する規程は、別に定める。

3 本大学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

第1条の3 本大学は、教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。

第2条 本大学に、学部、大学院その他の教育研究組織を置く。

2 大学院に関する学則は、別にこれを定める。

第2条の2 本大学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部において学科毎に定め、別表Ⅱに記載する。

第2章 学 部

第1節 修業年限、学年、学期及び休業日

第3条 学部の修業年限は、4年とする。

2 在学年限は、8年を超えることができない。

第4条 削除

第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月20日まで

秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

第6条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 「国民の祝日に関する法律」に定める休日

(3) 創立記念日 11月29日

(4) キリスト降誕日 12月25日

(5) 夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。

2 前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

第2節 学部学科等の組織

第7条 本大学に、次の学部学科を置く。

神 学 部

神 学 科

文 学 部

英 文 学 科
哲 学 科
美 学 芸 術 学 科
文 化 史 学 科
国 文 学 科
社 会 学 部
社 会 学 科
社 会 福 祉 学 科
メ デ ィ ア 学 科
産 業 関 係 学 科
教 育 文 化 学 科
法 学 部
法 律 学 科
政 治 学 科
経 済 学 部
経 済 学 科
商 学 部
商 学 科
政 策 学 部
政 策 学 科
文 化 情 報 学 部
文 化 情 報 学 科
理 工 学 部
インテリジェント情報工学科
情報システムデザイン学科
電 気 工 学 科
電 子 工 学 科
機 械 シ ス テ ム 工 学 科
機 械 理 工 学 科
機 能 分 子 ・ 生 命 化 学 科
化 学 シ ス テ ム 創 成 工 学 科
環 境 シ ス テ ム 学 科
数 理 シ ス テ ム 学 科
生 命 医 科 学 部
医 工 学 科
医 情 報 学 科

医生命システム学科

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

心理学部

心理学科

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学科

第7条の2 削除

第7条の3 本大学にキリスト教文化センターを置く。

2 キリスト教文化センターに関する規程は、別に定める。

第7条の4 本大学にハリス理化学研究所を置く。

2 ハリス理化学研究所に関する規程は、別に定める。

第7条の5 削除

第7条の6 本大学に歴史資料館を置く。

2 歴史資料館に関する規程は、別に定める。

第7条の7 本大学に日本語・日本文化教育センターを置く。

2 日本語・日本文化教育センターに関する規程は、別に定める。

第7条の8 本大学に全学共通教養教育センターを置く。

2 全学共通教養教育センターに関する規程は、別に定める。

第7条の9 本大学に国際教育インスティテュートを置く。

2 国際教育インスティテュートに関する規程は、別に定める。

第7条の10 本大学に免許資格課程センターを置く。

2 免許資格課程センターに関する規程は、別に定める。

第7条の11 本大学に学習支援・教育開発センターを置く。

2 学習支援・教育開発センターに関する規程は、別に定める。

第7条の12 本大学にグローバル教育センターを置く。

2 グローバル教育センターに関する規程は、別に定める。

第7条の13 本大学に文部科学省共同利用・共同研究拠点として、赤ちゃん学研究センターを置く。

2 赤ちゃん学研究センターに関する規程は、別に定める。

第3節 教育課程及び履修方法

第8条 各学部学科の教育課程及び履修方法は、別表Ⅱにこれを定める。

第8条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用によ

り行うものとする。

2 本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本大学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第8条の3 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第9条 学生は、所属学部学科の規定に従って、一定単位数の授業科目を履修しなければならない。

2 教育職員免許状を得るための資格及び司書、司書教諭、学芸員の資格を得たい者は、特に指定された授業科目を履修しなければならない。

3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本大学が定める。

4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

第9条の2 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が学部の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で認定することができる。

2 第27条の2により留学した大学において単位を修得した者には、前項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

3 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、前2項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

第9条の3 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項の単位数は、前条第1項、第2項及び第3項と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の4 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学又は短期大

学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学において修得したものとして認定することができる。

- 2 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
- 3 前2項の単位数は、転入学及び編入学の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第9条の2第1項、第2項及び第3項並びに前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の5 第8条の2第2項の授業の方法により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。

第9条の6 本大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

- 2 本大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

第10条 削除

第4節 試 験

第11条 履修した授業科目については、春学期及び秋学期の終りに定期試験を行う。また臨時に試験を行うことがある。

第12条 削除

第13条 試験の成績は、A、B、C、D及びFで評価し、D以上の成績を合格とする。ただし、学部の定めるところにより、特定の授業科目については試験の成績を、合格又は不合格で評価することができる。

第14条 疾病その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は、その授業科目の試験日の翌日から起算して3日以内に願い出れば、追試験を行うことがある。

第5節 卒業及び学位の授与

第15条 本大学に4年以上在学し、学部学科所定の教育課程に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に卒業の認定を行い、卒業した学部学科の種類により次の学士の学位を授与する。

ただし、在学期間に関しては、学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績で修得したと認められる者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

学士（神学、英文学、哲学、美学芸術学、文化史学、国文学、社会学、社会福祉学、メディア学、産業関係学、教育文化学、法学、政治学、経済学、商学、政策学、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、グローバル・コミュニケーション学、グローバル地域文

化学，国際教養)

2 前項に規定する学位には，「学士（神学）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

第6節 収容定員及び職員組織

第16条 各学部の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

学部学科別	入学定員	編入学定員	収容定員
神学部	63名		252名
神学科	63名		252名
文学部	705名		2,820名
英文学科	315名		1,260名
哲学科	70名		280名
美学芸術学科	70名		280名
文化史学科	125名		500名
国文学科	125名		500名
社会学部	442名		1,768名
社会学科	90名		360名
社会福祉学科	98名		392名
メディア学科	88名		352名
産業関係学科	87名		348名
教育文化学科	79名		316名
法学部	893名		3,572名
法律学科	683名		2,732名
政治学科	210名		840名
経済学部	893名		3,572名
経済学科	893名		3,572名
商学部	893名		3,572名
商学科	893名		3,572名
政策学部	420名		1,680名
政策学科	420名		1,680名
文化情報学部	294名		1,176名
文化情報学科	294名		1,176名
理工学部	756名	20名	3,064名
インテリジェント情報工学科	83名	2名	336名
情報システムデザイン学科	83名	2名	336名
電気工学科	80名	2名	324名
電子工学科	86名	2名	348名
機械システム工学科	96名	2名	388名
機械理工学科	70名	2名	284名
機能分子・生命化学科	83名	2名	336名
化学システム創成工学科	83名	2名	336名
環境システム学科	51名	2名	208名

数理システム学科	41名	2名	168名
生命医科学部	265名		1,060名
医工学科	100名		400名
医情報学科	100名		400名
医生命システム学科	65名		260名
スポーツ健康科学部	221名		884名
スポーツ健康科学科	221名		884名
心理学部	158名		632名
心理学科	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学部	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学科	158名		632名
(うち英語コース)	85名		340名)
グローバル地域文化学部	190名		760名
グローバル地域文化学科	190名		760名
計	6,351名	20名	25,444名

第17条 本大学に、教授、准教授、助教及び助手を置く。

2 本大学に、特別任用教授、特別任用助教（有期研究員）及び特別任用助手（有期研究員）を置くことができる。

3 本大学に、客員教授、客員准教授及び客員助教を置くことができる。

第17条の2 本大学に、実験講師を置く。

第18条 本大学に、学長を置く。

2 学長は、本学を代表するとともに、校務をつかさどり、教職員を統括する。

3 学長は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。

4 学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の2 本大学に、副学長を置く。

2 副学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の3 本大学に、学部長を置く。

2 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

第18条の4 本大学に、機構長、部長、所長、館長、室長等を置く。

第18条の5 本大学に、学長補佐を置くことができる。

2 学長補佐に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の6 本大学に、その事務を遂行するため、職員を置く。

2 事務組織に関する規程は、別に定める。

第19条 本大学の各学部に教授会を置く。

2 教授会は、学部に関する次の事項を審議する。

(1) 学生の入学、退学、休学、卒業等に関する事項及び学位の授与に関する事項

- (2) 教育課程に関する事項
 - (3) 教員の人事に関する事項
 - (4) 学則，学部諸規程に関する事項
 - (5) その他学部長がつかさどる教育研究に関する事項
- 3 教授会は，学長から諮問された事項について審議する。
- 4 教授会は，学生の入学，卒業及び学位の授与，その他教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- 5 教授会の組織及び運営に関する事項は，各学部教授会において定める。
- 第19条の2** 本大学に部長会を置く。
- 2 大学及び各学部に共通する重要事項は，部長会で審議する。
- 3 部長会に関する規程は，別に定める。
- 第19条の3** 本大学に大学評議会を置く。
- 2 大学評議会は，本学の中長期的方針に関わる事項を審議し，その達成状況を検証する。
- 3 大学評議会に関する規則は，別に定める。
- 第19条の4** 本大学に大学教授会を置く。
- 2 大学教授会は，大学の重要な事項に関し学長の諮問に応じる。

第7節 入学，転入学，編入学，休学，留学，退学，除籍及び再入学

- 第20条** 入学の時期は，学年の始めとする。ただし，学部が必要とするときには，入学の時期を学期の始めとすることができる。
- 第21条** 学部第1年次に入学することができる者は，次の各号のいずれかに該当しなければならない。
- (1) 高等学校卒業者
 - (2) 中等教育学校卒業者
 - (3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により，これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
 - (4) 高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって，本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認められたもの
 - (5) 大学への入学に関し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として，学校教育法施行規則第150条に規定された者
- 第22条** 前条の資格を有する入学志願者について，高等学校卒業程度の入学試験を行い，入学を許可する。
- 第23条** 学部第2年次及び第3年次では，第2項又は第3項の各号のいずれかに該当する入学志願

者について選考を行い、転入学又は編入学を許可することがある。

2 第3年次に転入学又は第2年次若しくは第3年次に編入学することができる者は、次のとおりとする。

- (1) 大学第2年次修了者
- (2) 短期大学卒業生
- (3) 高等専門学校卒業生
- (4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- (5) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第155条第2項又は同第177条に規定された者並びに文部省令第1号により大学への編入学を認められた者
- (6) 高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3 第2年次に転入学することができる者は、次のとおりとする。

- (1) 大学第1年次修了者
- (2) 外国の大学において前号に準じる課程を修了した者

4 第3年次に転入学又は編入学することを許可された転入学学生及び編入学学生の修業年限は2年とし、在学年限は6年を超えることができない。

5 第2年次に転入学又は編入学することを許可された転入学学生及び編入学学生の修業年限は3年とし、在学年限は7年を超えることができない。

第24条 入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Iの5に定める入学検定料を納入しなければならない。

2 災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。

3 前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。

第25条 入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

2 本大学の複数の学部・学科・コース（以下「学部等」という。）の入学許可を得て、一方の学部等の学費を納入した者が、もう一方の学部等へ入学を希望する場合は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の学部等の学費に振替を認めることがある。

3 前項の振替の詳細は、別に定める。

第26条 保証人は2名とし、その1名は父又は母（父母のいない者は、これにかわる親戚等）とする。

2 保証人は、その学生の在学中は、本人にかかわる一切の事件につき、連帯の責任を負わなければならない。保証人が転籍、転居等をしたときは、その旨直ちに届け出なければならない。

3 保証人が死亡したとき、又はその資格を失ったときは、あらたに保証人を定めて届け出なければならない。

ならない。

第27条 学生が疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとするときは、保証人連署のうえ、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願い出て、許可を得なければならない。

2 休学期間は、1年又は半年とする。

3 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

4 休学期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限、在学年限には算入しない。

第27条の2 学生は、在学中当該学部教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学に留学することができる。

2 留学の期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限及び在学年限に算入できる。

3 留学の取扱いについては、別にこれを定める。

第28条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により、退学しようとするときは、保証人連署のうえ、その旨願い出なければならない。

第29条 学長は、学力劣等にして成業見込みなしと認める者、又は出席常でない者を、当該学部教授会の審議を経て、諭旨退学させることがある。

第30条 学長は、品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該学部教授会において懲戒の対象となりうると認められたときには、けん責、停学又は退学に処することができる。

2 前項の懲戒に関する規程は、別に定める。

第30条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。ただし、第1号については、該当学年末（秋学期入学者は春学期末）、また第2号並びに第3号については、該当学期末に除籍する。

(1) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

(2) 在学期間が第3条第2項並びに第23条第4項及び第5項に規定する在学年限を超える者

(3) 学費未納で履修科目の登録をしていない者

第30条の3 退学者及び前条第1項第1号又は第3号により除籍された者が、保証人連署のうえ、再入学を願い出た場合は、それを許可することができる。

なお、除籍された者が再入学を願い出る場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。

第30条の4 再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

第8節 科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

第31条 各学部を設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認めた者につき、科目等履修生とすることができる。

2 科目等履修生のうち、他の大学の学生で、協定に基づき本大学の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。

第32条 科目等履修生が履修した授業科目について試験を受け合格したときは、所定の単位を与える。

2 前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。

第33条 削除

第34条 削除

第35条 各学部を設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、聴講生とすることができる。

第36条 聴講生に関する内規は、別に定める。

第36条の2 外国人留学生に関する内規は、別に定める。

第9節 学 費

第37条 在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。ただし、春学期の学費を納入するときに、当該年度の秋学期の学費も納入することができる。

2 外国人留学生（特別学生）研修料は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

3 履修料及び聴講料は、所定の期間内に納入しなければならない。

第38条 学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、研修料を含む。）、教育充実費、実験実習料、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Ⅰから別表Ⅰの4にこれを定める。

2 協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本大学から1学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

3 休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

4 第31条第2項に定める、協定に基づき本大学の授業科目を履修するため、他の大学から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。

5 いったん納入した学費は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

6 履修科目の登録に際して実験実習料を要する科目及びその実験実習料については、別に定める。

7 退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、当該学期の学費を徴収する。

8 第30条第1項に基づく停学に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第39条 やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費（特別在籍料及び休学在籍料を除く。）を延納又は分納することができる。

2 前項の学費の延納又は分納の詳細は、別に定める。

第39条の2 本大学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、授業料及び入学金の減免を行う。

2 前項の授業料及び入学金の減免の詳細は、別に定める。

第39条の3 災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することがある。

2 前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

第3章 附属施設

第40条 図書館を設け、学生の自由な研究に資する。

2 大学には学部研究室、実験室、研究所等を設ける。

第41条 寄宿舎を設け、通学に不便な者等一部学生を入舎させる。

第42条 学生支援機構保健センターを設け、教職員及び学生の保健医療に当る。

附 則

1 この学則は、2005年4月1日から施行する。

2 第27条第3項の規定は、1989年度入学生から適用する。

3 第9条に規定する教育職員免許状を得るための資格（高等学校地理歴史・公民科）については、1990年度入学生から適用する。

4 第7条、第16条は、知識工学科設置、機械工学科、機械工学第二学科の機械システム工学科、エネルギー機械工学科への名称変更及び工業化学科、化学工学科の機能分子工学科、物質化学工学科への改組転換により1994年4月1日から改正施行する。

5 第7条は、学部第2部を1997年度入学生から学生募集停止及び文学部第1部、法学部第1部、経済学部第1部、商学部第1部の文学部、法学部、経済学部、商学部への名称変更により1997年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部英文学科、文化学科国文学専攻、法学部法律学科、政治学科、経済学部、商学部昼間主コース、夜間主コースを設置。これにともなう学部、学科の収容定員増加変更により1997年4月1日から改正施行する。

なお、各学部の第2部は、当該学部の第2部に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（1997年4月1日改正）

6 第7条、第16条は、神学部神学科、経済学部経済学科、商学部商学科の学科名明示により、1999年4月1日から改正施行する。（1999年4月1日改正）

7 第7条、第16条は、文学部社会学科新聞学専攻のメディア学専攻への名称変更、政策学部政策学科、工学部情報システムデザイン学科及び環境システム学科の設置により2004年4月1日から改正施行する。（2004年4月1日改正）

8 第7条は、文学部の改組・再編による文化学科、社会学科及び各学科内の専攻の廃止、それに伴

う文学部哲学科，心理学科，美学芸術学科，文化史学科，国文学科及び社会学部社会学科，社会福祉学科，メディア学科，産業関係学科，教育文化学科の設置並びに文化情報学部文化情報学科の設置により 2005 年 4 月 1 日から改正施行する。

第 16 条は，文学部の改組・再編に伴う学部・学科の設置及び文化情報学部の設置並びに法学部及び経済学部の昼間主コース，夜間主コースの廃止により 2005 年 4 月 1 日から改正施行する。

なお，廃止する文化学科及び社会学科の各専攻並びに法学部及び経済学部の昼間主コース及び夜間主コースは，2005 年度より学生募集を停止する。ただし，各学科・専攻及びコースは，当該学科・専攻及びコースに在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし，教育課程に関する規程は，従前によるものとする。(2005 年 4 月 1 日改正)

- 9 第 13 条に規定する試験の成績評価は，2004 年度第 1 年次入学生から適用し，2003 年度以前の入学生については，従前の規程による。
- 10 第 15 条に規定する学位は，2005 年度第 1 年次入学生から適用し，2004 年度以前の入学生については，従前の規程による。
- 11 第 30 条の 3 に規定する再入学は，2004 年度第 1 年次入学生から適用する。
- 12 第 8 条の別表Ⅱの各学部教育課程表は，2005 年度第 1 年次入学生から適用し，2004 年度以前の入学生については，別に定めるもののほか，従前の教育課程表による。
- 13 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち，入学金，授業料，教育充実費及び実験実習料については，2005 年度入学生に適用する。2004 年度以前の入学生については，従前の学費による。
- 14 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち，休学在籍料については，2003 年度以降在学の学生に適用する。ただし，2002 年度以前の入学生のうち，従前の学費による休学中の学費が休学在籍料を下回る場合は，その額とする。

附 則

- 1 この学則は，2006 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条及び第 16 条は，工学部知識工学科の名称変更により，改正・施行する。なお，知識工学科は，2006 年度より学生募集を停止する。ただし，当該学科は，当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし，教育課程に関する規程は，従前によるものとする。
- 3 第 8 条の別表Ⅱの各学部教育課程表は，2006 年度第 1 年次入学生から適用し，2005 年度以前の入学生については，別に定めるもののほか，従前の教育課程表による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち，入学金，授業料，教育充実費及び実験実習料については，2006 年度入学生に適用する。2005 年度以前の入学生については，従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は，2007 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 16 条は，文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース，夜間主コースの廃止により，改正・施行する。なお，文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース及び夜間主コースは，2007 年度より学

生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2007年度第1年次入学生から適用し、2006年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2007年度入学生に適用する。2006年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2008年4月1日から施行する。
- 2 第7条は、理工学部数理システム学科、生命医科学部医工学科、医情報学科、医生命システム学科及びスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科の設置並びに工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により、改正・施行する。

第16条は、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止、理工学部数理システム学科、生命医科学部及びスポーツ健康科学部の設置並びにこれにともなう学部・学科の収容定員変更及び工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により改正・施行する。

なお、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コース並びに工学部は、2008年度より学生募集を停止する。ただし、各学部・学科及びコースは、当該学部・学科及びコースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2008年度第1年次入学生から適用し、2007年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2008年度入学生に適用する。2007年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2009年4月1日から施行する。
- 2 第7条は、心理学部心理学科の設置及びこれに伴う文学部心理学科の廃止により、改正・施行する。

第16条は、心理学部心理学科の設置及びこれに伴う文学部心理学科の廃止並びに学部・学科の収容定員変更により改正・施行する。

なお、文学部心理学科は、2009年度より学生募集を停止する。ただし、文学部心理学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2009年度第1年次入学生から適用し、2008年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

- 4 第 38 条第 1 項の別表 I に定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2009 年度入学生に適用する。2008 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2010 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表 II の各学部教育課程表は、2010 年度第 1 年次入学生から適用し、2009 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 3 第 38 条第 1 項の別表 I に定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2010 年度入学生に適用する。2009 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2011 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条及び第 16 条は、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科の設置により、改正・施行する。
- 3 第 8 条の別表 II の各学部人材養成目的及び教育課程表は、2011 年度第 1 年次入学生から適用し、2010 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2012 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表 II の各学部人材養成目的及び教育課程表は、2012 年度第 1 年次入学生から適用し、2011 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2013 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条は、グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。
第 16 条は、学部・学科の収容定員変更、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止並びにグローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。
なお、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2013 年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第 8 条の別表 II の各学部人材養成目的及び教育課程表は、2013 年度第 1 年次入学生から適用し、2012 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2014年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2014年度第1年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

この学則は、2014年11月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2015年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2015年度第1年次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2015年度入学生に適用する。2014年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2016年4月1日から施行する。
- 2 留学生別科は、2016年度より学生募集を停止する。ただし、当該組織に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2016年度第1年次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2016年度入学生に適用する。2015年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

この学則は、2016年5月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2017年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2017年度第1年次入学生から適用し、2016年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料につい

ては、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

この学則は、2017年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2018年度第1年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2018年度入学生に適用する。2017年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2019年度第1年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2019年度入学生に適用する。2018年度以前の入学生については、従前の学費による。
なお、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020年4月1日以降に再入学する学生に適用する。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019年4月1日以降に派遣を決定する学生に適用する。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、理工学部エネルギー機械工学科の名称変更により改正・施行する。
なお、理工学部エネルギー機械工学科は、2020年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2020年度第1年次入学生から適用し、2019年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2020年度入学生に適用する。2019年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2021年度第1年次入学生から適用し、2020年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

別表 I 学 費

入学金，授業料，教育充実費及び実験実習料

(年額)

		入 学 金	授 業 料	教育充実費	* 実験実習料
神 学 部 文 学 部 社 会 学 部 法 学 部 経 済 学 部 商 学 部 政 策 学 部 グ ローバル 地 域 文 化 学 部	第 1 年次	200,000 円	870,000 円	149,000 円	
	第 2 年次		895,000 円	157,000 円	
	第 3 年次		900,000 円	165,000 円	
	第 4 年次		905,000 円	173,000 円	
文化情報学部	第 1 年次	200,000 円	925,000 円	160,000 円	30,000 円
	第 2 年次		952,000 円	169,000 円	30,000 円
	第 3 年次		959,000 円	178,000 円	30,000 円
	第 4 年次		966,000 円	187,000 円	70,000 円
理 工 学 部 (数理システム 学科を除く) 生命医科学部	第 1 年次	200,000 円	1,231,000 円	225,000 円	78,000 円
	第 2 年次		1,266,000 円	237,000 円	109,000 円
	第 3 年次		1,281,000 円	249,000 円	140,000 円
	第 4 年次		1,296,000 円	261,000 円	140,000 円
理 工 学 部 (数理システム 学科)	第 1 年次	200,000 円	1,231,000 円	225,000 円	20,000 円
	第 2 年次		1,266,000 円	237,000 円	20,000 円
	第 3 年次		1,281,000 円	249,000 円	30,000 円
	第 4 年次		1,296,000 円	261,000 円	90,000 円

スポーツ健康科学部	第1年次	200,000円	925,000円	160,000円	50,000円
	第2年次		952,000円	169,000円	80,000円
	第3年次		959,000円	178,000円	100,000円
	第4年次		966,000円	187,000円	100,000円
心理学部	第1年次	200,000円	973,000円	168,000円	25,000円
	第2年次		1,001,000円	177,000円	30,000円
	第3年次		1,009,000円	186,000円	55,000円
	第4年次		1,017,000円	195,000円	90,000円
グローバル・コミュニケーション学部	第1年次	200,000円	973,000円	168,000円	
	第2年次		1,001,000円	177,000円	
	第3年次		1,009,000円	186,000円	
	第4年次		1,017,000円	195,000円	

*実験実習料については、文化情報学部、理工学部、生命医科学部、スポーツ健康科学部及び心理学部のみ徴収する。

- (1) 授業料、教育充実費及び実験実習料については、各々2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- (2) 4年を超えて在籍した場合(再修生)の学費は、第4年次の学費を適用する。
- (3) 転入学生及び編入学生の入学金は、200,000円とし、授業料、教育充実費及び実験実習料は、転入学又は編入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生に限り、入学金は2分の1とする。
- (4) 再入学生の入学金は、100,000円とし、授業料、教育充実費及び実験実習料は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度4月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

特別在籍料

ダブルディグリープログラムによる留学期間	特別在籍料
1 年	300,000 円
1 学期	150,000 円

休学在籍料

休 学 期 間	休学在籍料
1 年	120,000 円
半 年	60,000 円

- ・ 母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表 I の 2 履 修 料

履 修 登 録 料	全 学 部	25,000 円
履 修 料 (1 単位につき)	神, 文, 社会, 法, 経済, 商, 政策, グローバル地域文化学部	20,000 円
	文化情報, スポーツ健康科学部	21,000 円
	理工, 生命医科学部	28,000 円
	心理, グローバル・ コミュニケーション学部	22,000 円

- (1) 履修料の総額が当該年度の第 1 年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超えるときは、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、2 分の 1 とする。
- (3) 学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部に併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 3 聴 講 料

聴講登録料	全 学 部	25,000 円
聴 講 料 (1 単位につき)	神, 文, 社会, 法, 経済, 商, 政策, グローバル地域文化学部	13,000 円
	文化情報, スポーツ健康科学部	14,000 円
	理工, 生命医科学部	19,000 円
	心理, グローバル・ コミュニケーション学部	15,000 円

- (1) 聴講料の総額が当該年度の第 1 年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超えるときは、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、2 分の 1 とする。
- (3) 学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 4 外国人留学生 (特別学生) 入学金及び研修料

(年額)

	入 学 金	研 修 料
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 政策学部 グローバル地域文化学部	25,000 円	400,000 円
文化情報学部 スポーツ健康科学部	25,000 円	420,000 円
理工学部 生命医科学部	25,000 円	560,000 円
心理学部 グローバル・コミュニケーション学部	25,000 円	440,000 円
グローバル教育センター 日本語・日本文化教育センター	25,000 円	600,000 円

- (1) 研修料については、2 分の 1 を春学期学費及び秋学期学費とする。なお、年度内の在学期間が 7

月以内の場合、研修料は半額とする。

- (2) 特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
- (3) 期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第4条第2項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
- (4) 秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
- (5) 特別学生が、年度内に20単位（グローバル教育センター及び日本語・日本文化教育センターは、30単位）を超えて学科目登録をする場合は、超過する分1単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録する場合は学則別表Ⅰの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録する場合は大学院学則別表Ⅰの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録する場合は専門職大学院学則別表Ⅰの2に定める履修料相当額を、グローバル教育プログラム科目、日本語・日本文化教育プログラム科目及び日本語・日本文化教育科目を登録する場合は学則別表Ⅰの2に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。
- (6) 研修料の総額が当該年度の第1年次の授業料を超えるときは、その額にとどめる。
- (7) 外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しない場合がある。

別表 I の 5 入学検定料

区 分		金 額
一般選抜入学試験 推薦入学試験 転入学試験 編入学試験		35,000 円
大学入学共通テストを利用する入学試験	個別学力検査を課す場合	25,000 円
	個別学力検査を課さない場合	15,000 円
アドミッションズオフィス方式による入学者選抜	第 1 次審査	25,000 円
	第 2 次審査	10,000 円
推薦選抜入学試験 自己推薦入学試験 その他特別入学試験		35,000 円
推薦選抜入学試験における二段階選考 自己推薦入学試験における二段階選考 その他特別入学試験における二段階選考	第 1 次選考	10,000 円
	第 2 次選考	25,000 円
外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験 外国人留学生転入学試験 外国人留学生編入学試験	書類選考及び学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
グローバル・コミュニケーション学部 (日本語コース) 入学試験	書類選考及び学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
国際教育インスティテュート (国際教養コース) 入学試験		15,000 円

別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表

全学共通教養教育科目

科 目	履修単位	スタンフォード大学科目	
		AKP科目	2
		KCJS科目	2
		チュービンゲン大学科目	2
○同志社科目		日本近現代史	2
建学の精神とキリスト教	2	世界近現代史	2
旧約聖書とキリスト教	2	世界の宗教	2
新約聖書とキリスト教	2	Intercultural Studies	2
キリスト教の歴史 1	2	EUキャンパス特別講義	2
キリスト教の歴史 2	2	Freshman “Go Global” Program	2
同志社の歴史	2	Mid-college “Be Strong” Program	4
○キャリア形成支援科目		Introduction to Japanese Culture in the	2
キャリア開発と学生生活	2	Global Context	
キャリア開発の課題と方法	2	Introduction to Japanese Society in the	2
労働市場の動向とキャリア形成	2	Global Context	
インターンシップ入門	2	Introduction to the Nature of Japan and	2
メガトレンドを読む	2	Asia in Global Context	
SDGsで考える社会課題とキャリア形成	2	Humanities and Global Issues	2
働くということ	2	Social Sciences and Global Issues	2
キャリア形成とインターンシップ	2	Natural Sciences and Global Issues	2
○国際教養科目		Japan in Modern World History	2
国際教養基礎論 1	2	International Relations in the Postwar	2
国際教養基礎論 2	2	Era	
比較言語文化論 1	2	Issues in Japanese Culture	2
比較言語文化論 2	2	Democracy and Politics : A Comparative	2
地域言語文化論 1	2	Perspective	
地域言語文化論 2	2	Education in the Age of Globalization	2
メタ言語文化論 1	2	Issues in Intercultural Communication	2
メタ言語文化論 2	2	Economy and Business in the Global	2
ジョイント・セミナー比較文化論	4	Context 1	
日本とアジア 1	2	Economy and Business in the Global	2
日本とアジア 2	2	Context 2	
		Principles of Economics	2

Environmental Economics and Sustainability	2	Japan Today 1	2
Critical Social Issues in Contemporary Japan 1	2	Japan Today 2	2
Critical Social Issues in Contemporary Japan 2	2	クリエイティブ・ジャパン科目	2
The Divisions of Identity in Society	2	○人文科学系科目	
Statistics for the Social Sciences and Humanities	2	宗教学(1)	2
Introduction to Computer Science and Information Technology	2	宗教学(2)	2
Human Science in the Global Age	2	哲学(1)	2
Introduction to Quantitative Data Analysis	2	哲学(2)	2
Conservation of Japanese Nature and Environment	2	倫理学(1)	2
Mathematics and its History	2	倫理学(2)	2
Science of Natural Disasters	2	論理学(1)	2
Advanced Seminar 1	2	論理学(2)	2
Advanced Seminar 2	2	論理的思考の基礎(1)	2
Advanced Seminar 3	2	論理的思考の基礎(2)	2
○クリエイティブ・ジャパン科目		論理的思考の応用(1)	2
京都科目	2	論理的思考の応用(2)	2
日本の伝統と美	2	芸術学(1)	2
日本の伝統と文化	2	芸術学(2)	2
日本の伝統と芸能	2	日本史(1)	2
日本の伝統と能楽	2	日本史(2)	2
日本の伝統と芸術	2	東洋史(1)	2
Japanese Thought and Religion 1	2	東洋史(2)	2
Japanese Thought and Religion 2	2	西洋史(1)	2
Tradition and Art in Japan 1	2	西洋史(2)	2
Tradition and Art in Japan 2	2	考古学(1)	2
クールジャパン科目	2	考古学(2)	2
		日本語(1)	2
		日本語(2)	2
		日本文学(1)	2
		日本文学(2)	2
		ドイツ文学	2
		フランス文学	2

中国文学	2	○プロジェクト科目	
スペイン文学	2	プロジェクト科目 1	2
ラテンアメリカ文学	2	プロジェクト科目 2	2
ロシア文学	2	○外国語教育科目	
コリア文学	2	英語	
○社会科学系科目		コミュニケーション・イングリッシュ 1	1
法学 1	2	コミュニケーション・イングリッシュ 2	1
法学 2	2	アナリティカル・リーディング 1	1
政治学 1	2	アナリティカル・リーディング 2	1
政治学 2	2	イングリッシュ・セミナー 1	1
経済学 1	2	イングリッシュ・セミナー 2	1
経済学 2	2	イングリッシュ・セミナー 3	2
商学	2	イングリッシュ・ワークショップ 1	1
○自然・人間科学系科目		イングリッシュ・ワークショップ 2	1
数学 1	2	イングリッシュ・ワークショップ 3	2
数学 2	2	アカデミック・イングリッシュ A	2
データサイエンス 1	2	アカデミック・イングリッシュ B	2
データサイエンス 2	2	プロフェッショナル・イングリッシュ A	2
物質の科学 1	2	プロフェッショナル・イングリッシュ B	2
物質の科学 2	2	プレ・イングリッシュ・プラクティクム	4
地球と宇宙の科学 1	2	イングリッシュ・プラクティクム 1	4
地球と宇宙の科学 2	2	イングリッシュ・プラクティクム 2	4
生命の科学 1	2	言語文化研究 1	2
生命の科学 2	2	言語文化研究 2	2
科学史・科学論 1	2	現代地域事情・上級講読(英語圏) 1	2
科学史・科学論 2	2	現代地域事情・上級講読(英語圏) 2	2
環境の科学	2	サマープログラム・英語 A	4
心理学 1	2	サマープログラム・英語 B	3
心理学 2	2	サマープログラム・英語 C	2
○複合領域科目		スプリングプログラム・英語 A	4
複合領域科目 1	2	スプリングプログラム・英語 B	3
複合領域科目 2	2	スプリングプログラム・英語 C	2

スプリングプログラム・英語 D	1	ドイツ語会話初級 1	1
セメスタープログラム・英語 I	4	ドイツ語会話初級 2	1
セメスタープログラム・英語 II	4	ドイツ語会話中級 1	1
Intensive Courses for TOEFL(Practice)	1	ドイツ語会話中級 2	1
Intensive Courses for TOEFL(Tutorial)	1	ドイツ語会話上級 1	1
(英語以外の外国語)		ドイツ語会話上級 2	1
ドイツ語		フランス語	
ドイツ語入門 I	2	フランス語入門 I	2
ドイツ語入門 II	2	フランス語入門 II	2
ドイツ語応用 1	1	フランス語応用 1	1
ドイツ語応用 2	1	フランス語応用 2	1
ドイツ語応用 3	1	フランス語応用 3	1
ドイツ語応用 4	1	フランス語応用 4	1
ドイツ語インテンシヴ I	3	フランス語インテンシヴ I	3
ドイツ語インテンシヴ II	3	フランス語インテンシヴ II	3
ドイツ語インテンシヴ III	3	フランス語インテンシヴ III	3
ドイツ語インテンシヴ IV	3	フランス語インテンシヴ IV	3
ドイツ語インテンシヴ V	2	フランス語インテンシヴ V	2
ドイツ語インテンシヴ VI	2	フランス語インテンシヴ VI	2
ドイツ語文化事情 1	2	フランス語インテンシヴ VII	2
ドイツ語文化事情 2	2	フランス語インテンシヴ VIII	2
ドイツ語表現法 1	2	フランス語文化事情 1	2
ドイツ語表現法 2	2	フランス語文化事情 2	2
言語文化原典演習(ドイツ語) 1	2	フランス語表現法 1	2
言語文化原典演習(ドイツ語) 2	2	フランス語表現法 2	2
現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 1	2	言語文化原典演習(フランス語) 1	2
現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 2	2	言語文化原典演習(フランス語) 2	2
サマープログラム・ドイツ語 A	4	現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 1	2
サマープログラム・ドイツ語 B	3	現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 2	2
スプリングプログラム・ドイツ語	3	サマープログラム・フランス語	4
セメスタープログラム・ドイツ語 I	4	スプリングプログラム・フランス語	3
セメスタープログラム・ドイツ語 II	4	フランス語会話初級 1	1

フランス語会話初級 2	1	中国語会話中級 1	1
フランス語会話中級 1	1	中国語会話中級 2	1
フランス語会話中級 2	1	中国語会話上級 1	1
フランス語会話上級 1	1	中国語会話上級 2	1
フランス語会話上級 2	1	スペイン語	
中国語		スペイン語入門 I	2
中国語入門 I	2	スペイン語入門 II	2
中国語入門 II	2	スペイン語応用 1	1
中国語応用 1	1	スペイン語応用 2	1
中国語応用 2	1	スペイン語応用 3	1
中国語応用 3	1	スペイン語応用 4	1
中国語応用 4	1	スペイン語インテンシヴ I	3
中国語インテンシヴ I	3	スペイン語インテンシヴ II	3
中国語インテンシヴ II	3	スペイン語インテンシヴ III	3
中国語インテンシヴ III	3	スペイン語インテンシヴ IV	3
中国語インテンシヴ IV	3	スペイン語インテンシヴ V	2
中国語インテンシヴ V	2	スペイン語インテンシヴ VI	2
中国語インテンシヴ VI	2	スペイン語文化事情 1	2
中国語インテンシヴ VII	2	スペイン語文化事情 2	2
中国語インテンシヴ VIII	2	スペイン語表現法 1	2
中国語文化事情 1	2	スペイン語表現法 2	2
中国語文化事情 2	2	言語文化原典演習(スペイン語) 1	2
中国語表現法 1	2	言語文化原典演習(スペイン語) 2	2
中国語表現法 2	2	現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 1	2
言語文化原典演習(中国語) 1	2	現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 2	2
言語文化原典演習(中国語) 2	2	サマープログラム・スペイン語	4
現代地域事情・上級講読(中国語圏) 1	2	スプリングプログラム・スペイン語 B	3
現代地域事情・上級講読(中国語圏) 2	2	スペイン語会話初級 1	1
サマープログラム・中国語	4	スペイン語会話初級 2	1
スプリングプログラム・中国語	1	スペイン語会話中級 1	1
中国語会話初級 1	1	スペイン語会話中級 2	1
中国語会話初級 2	1	スペイン語会話上級 1	1

スペイン語会話上級 2	1	ロシア語応用 3	1
ロシア語		ロシア語応用 4	1
ロシア語入門 I	2	ロシア語インテンシヴ I	3
ロシア語入門 II	2	ロシア語インテンシヴ II	3
ロシア語応用 1	1	ロシア語インテンシヴ III	3
ロシア語応用 2	1	ロシア語インテンシヴ IV	3
ロシア語応用 3	1	ロシア語インテンシヴ V	2
ロシア語応用 4	1	ロシア語インテンシヴ VI	2
ロシア語インテンシヴ I	3	ロシア語文化事情 1	2
ロシア語インテンシヴ II	3	ロシア語文化事情 2	2
ロシア語インテンシヴ III	3	ロシア語表現法 1	2
ロシア語インテンシヴ IV	3	ロシア語表現法 2	2
ロシア語文化事情 1	2	言語文化原典演習(ロシア語) 1	2
ロシア語文化事情 2	2	言語文化原典演習(ロシア語) 2	2
ロシア語表現法 1	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2
ロシア語表現法 2	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2
言語文化原典演習(ロシア語) 1	2	サマープログラム・ロシア語	3
言語文化原典演習(ロシア語) 2	2	スプリングプログラム・ロシア語	3
現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2	ロシア語会話初級 1	1
現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2	ロシア語会話初級 2	1
サマープログラム・ロシア語	4	ロシア語会話中級 1	1
ロシア語会話初級 1	1	ロシア語会話中級 2	1
ロシア語会話初級 2	1	ロシア語会話上級 1	1
ロシア語会話中級 1	1	ロシア語会話上級 2	1
ロシア語会話中級 2	1	イタリア語	
ロシア語会話上級 1	1	基礎イタリア語 I	1
ロシア語会話上級 2	1	基礎イタリア語 II	1
ロシア語		基礎イタリア語 III	1
ロシア語入門 I	2	基礎イタリア語 IV	1
ロシア語入門 II	2	○保健体育科目	
ロシア語応用 1	1	スポーツ・健康の科学 A	2
ロシア語応用 2	1	スポーツ・健康の科学 B	2

スポーツ・健康の科学 C	2	日本語 1(口頭表現B V)	1
スポーツ・パフォーマンス 1	1	日本語 1(口頭表現B VI)	1
日本語・日本文化教育科目		日本語 1(口頭表現B VII)	1
日本語 1(読解A VI)	1	日本語 1(口頭表現B VIII)	1
日本語 1(読解A VII)	1	日本語 1(口頭表現B IX)	1
日本語 1(読解A VIII)	1	日本語 1(文法 I)	1
日本語 1(読解A IX)	1	日本語 1(文法 II)	1
日本語 1(読解B VI)	1	日本語 1(文法 III)	1
日本語 1(読解B VII)	1	日本語 1(文法 IV)	1
日本語 1(読解B VIII)	1	日本語 1(文法 V)	1
日本語 1(読解B IX)	1	日本語 1(文法 VI)	1
日本語 1(語彙VI)	1	日本語 1(文法 VII)	1
日本語 1(語彙VII)	1	日本語 1(文法 VIII)	1
日本語 1(語彙VIII)	1	日本語 1(文法 IX)	1
日本語 1(語彙IX)	1	日本語 2(読解A VI)	1
日本語 1(文章表現 III)	1	日本語 2(読解A VII)	1
日本語 1(文章表現 IV)	1	日本語 2(読解A VIII)	1
日本語 1(文章表現 V)	1	日本語 2(読解A IX)	1
日本語 1(文章表現 VI)	1	日本語 2(読解B VI)	1
日本語 1(文章表現 VII)	1	日本語 2(読解B VII)	1
日本語 1(文章表現 VIII)	1	日本語 2(読解B VIII)	1
日本語 1(文章表現 IX)	1	日本語 2(読解B IX)	1
日本語 1(口頭表現A I)	1	日本語 2(語彙VI)	1
日本語 1(口頭表現A II)	1	日本語 2(語彙VII)	1
日本語 1(口頭表現A VI)	1	日本語 2(語彙VIII)	1
日本語 1(口頭表現A VII)	1	日本語 2(語彙IX)	1
日本語 1(口頭表現A VIII)	1	日本語 2(文章表現 III)	1
日本語 1(口頭表現A IX)	1	日本語 2(文章表現 IV)	1
日本語 1(口頭表現B I)	1	日本語 2(文章表現 V)	1
日本語 1(口頭表現B II)	1	日本語 2(文章表現 VI)	1
日本語 1(口頭表現B III)	1	日本語 2(文章表現 VII)	1
日本語 1(口頭表現B IV)	1	日本語 2(文章表現 VIII)	1

日本語 2(文章表現IX)	1	日本の法と政治	2
日本語 2(口頭表現A I)	1	日本の歴史 1	2
日本語 2(口頭表現A II)	1	日本の歴史 2	2
日本語 2(口頭表現A VI)	1	日本の社会 1	2
日本語 2(口頭表現A VII)	1	日本の社会 2	2
日本語 2(口頭表現A VIII)	1	日本の文化 1	2
日本語 2(口頭表現A IX)	1	日本の文化 2	2
日本語 2(口頭表現B I)	1	日本の教育	2
日本語 2(口頭表現B II)	1	日本の伝統と人間形成	2
日本語 2(口頭表現B III)	1	日本の伝統と美	2
日本語 2(口頭表現B IV)	1	日本の伝統と文化	2
日本語 2(口頭表現B V)	1	日本の伝統と芸能	2
日本語 2(口頭表現B VI)	1	日本の伝統と能楽	2
日本語 2(口頭表現B VII)	1	日本の伝統と芸術	2
日本語 2(口頭表現B VIII)	1	日本の芸術 1	2
日本語 2(口頭表現B IX)	1	日本の芸術 2	2
日本語 2(文法 I)	1	世界の歴史 1	2
日本語 2(文法 II)	1	世界の歴史 2	2
日本語 2(文法 III)	1		
日本語 2(文法 IV)	1		
日本語 2(文法 V)	1	神 学 部	
日本語 2(文法 VI)	1	神 学 科	
日本語 2(文法 VII)	1	人材養成目的	
日本語 2(文法 VIII)	1	神学部神学科は、人類が作り上げ蓄積してきた、生	
日本語 2(文法 IX)	1	きるための知恵である宗教について、とりわけキリスト	
ビジネス日本語 A	1	教、イスラーム、ユダヤ教という中東生まれの3つの一	
ビジネス日本語 B	1	神教とその世界について、包括的・多角的・学際的な研	
ビジネス日本語 C	1	究をとおして、人間・言語・歴史・文化・社会に対する	
ビジネス日本語 D	1	広く深い理解と知的洞察力を身に付けて、キリスト教関	
日本の文学 A	2	連のスペシャリストや宗教に関する知識を持ったスペ	
日本の思想・宗教 1	2	シャリストとして文明の共存に貢献する人材を養成する	
日本の思想・宗教 2	2	ことを目的とする。	

科 目	履修単位	歴史神学概論	2
○必修科目		日本キリスト教史 1	2
神学入門	2	日本キリスト教史 2	2
○選択科目		東南アジアのキリスト教史	2
【1 類】		近世キリスト教史 1	2
旧約聖書学入門 1	2	近世キリスト教史 2	2
旧約聖書学入門 2	2	キリスト教史特講 1	2
旧約聖書解釈学 1	2	キリスト教史特講 2	2
旧約聖書解釈学 2	2	アメリカ史における宗教	2
旧約聖書解釈学 3	2	中世キリスト教史演習	2
旧約聖書解釈学 4	2	歴史神学概論演習	2
新約聖書学入門 1	2	宗教改革の研究演習 1	2
新約聖書学入門 2	2	宗教改革の研究演習 2	2
新約聖書解釈学 1	2	宗教改革の研究演習 3	2
新約聖書解釈学 2	2	宗教改革の研究演習 4	2
聖書とその周辺 1	2	近現代キリスト教史演習 1	2
聖書とその周辺 2	2	近現代キリスト教史演習 2	2
聖書学演習 1	2	近現代キリスト教史演習 3	2
聖書学演習 2	2	近現代キリスト教史演習 4	2
聖書学演習 3	2	日本キリスト教史演習 1	2
聖書学演習 4	2	日本キリスト教史演習 2	2
聖書解釈演習 1	2	日本キリスト教史演習 3	2
聖書解釈演習 2	2	日本キリスト教史演習 4	2
聖書解釈演習 3	2	近世キリスト教史演習 1	2
聖書解釈演習 4	2	近世キリスト教史演習 2	2
新約聖書学演習 1	2	近世キリスト教史演習 3	2
新約聖書学演習 2	2	近世キリスト教史演習 4	2
新約聖書学演習 3	2	ヨーロッパの宗教	2
新約聖書学演習 4	2	キリスト教倫理	2
キリスト教史入門 1	2	現代神学	2
キリスト教史入門 2	2	教義学 1	2
中世キリスト教史	2	教義学 2	2

現代神学の論点 1	2	牧会学	2
現代神学の論点 2	2	説教学	2
現代神学の論点 3	2	宣教学	2
現代神学の論点 4	2	賛美歌の研究	2
エキュメニカル神学	2	現代実践神学の課題 1	2
近現代思想家の宗教観演習 1	2	現代実践神学の課題 2	2
近現代思想家の宗教観演習 2	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 1	2
近現代思想家の宗教観演習 3	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 2	2
近現代思想家の宗教観演習 4	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 3	2
宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 1	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 4	2
宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 2	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 5	2
宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 3	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 6	2
宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 4	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 7	2
キリスト教からの展望(卒業論文演習) 1	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 8	2
キリスト教からの展望(卒業論文演習) 2	2	東南アジアのキリスト教演習	2
キリスト教からの展望(卒業論文演習) 3	2	牧会学演習 1	2
キリスト教からの展望(卒業論文演習) 4	2	牧会学演習 2	2
Theological Seminar 1	2	教会探検隊 1	2
Theological Seminar 2	2	教会探検隊 2	2
エコ神学演習	2	メディアと宗教 1	2
宗教改革の源流演習 1	2	メディアと宗教 2	2
宗教改革の源流演習 2	2	宗教と社会福祉	4
エキュメニカル神学演習	2	宗教と社会活動	2
実践神学総論	2	キリスト教音楽 1	2
牧会カウンセリング 1	2	キリスト教音楽 2	2
牧会カウンセリング 2	2	性と宗教	2
臨床牧会学 1	2	アメリカ映画とキリスト教	2
臨床牧会学 2	2	キャリア・ガイダンス・セミナー 1	2
宗教と差別	2	キャリア・ガイダンス・セミナー 2	2
礼拝学 1	2	パイプオルガン演習 1	2
礼拝学 2	2	パイプオルガン演習 2	2
教会教育学	2	パイプオルガン演習 3	2

パイプオルガン演習 4	2	シーア派・イスラーム論 4	2
CCM(現代的キリスト教音楽)演習	2	イスラーム史概論 1	2
ワーシップ音楽演習	2	イスラーム史概論 2	2
アフリカン・アメリカンの霊歌演習	2	現代イスラーム社会と文化 1	2
ゴスペル音楽演習	2	現代イスラーム社会と文化 2	2
イスラーム概論 1	2	初期・古典イスラーム研究 1	2
イスラーム概論 2	2	中世・近世イスラーム研究 1	2
クルアーン・ハディース学 1	2	現代イスラームの諸問題 1	2
クルアーン・ハディース学 2	2	現代イスラームの諸問題 2	2
クルアーン・ハディース学 3	2	現代イスラーム社会と文化の演習 1	2
クルアーン・ハディース学 4	2	現代イスラーム社会と文化の演習 2	2
イスラーム法学 1	2	イスラーム社会文化演習 1	2
イスラーム法学 2	2	イスラーム社会文化演習 2	2
イスラーム法学 3	2	イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 1	2
イスラーム法学 4	2	イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 2	2
イスラーム思想 1	2	イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 3	2
イスラーム思想 2	2	イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 4	2
現代イスラーム世界 1	2	ペルシア語入門 1	2
現代イスラーム世界 2	2	ペルシア語入門 2	2
イスラーム経済学演習 1	2	ペルシア語会話 1	2
イスラーム経済学演習 2	2	ペルシア語会話 2	2
イスラームと現代社会(卒業論文演習) 1	2	ペルシア語入門 3	2
イスラームと現代社会(卒業論文演習) 2	2	ペルシア語入門 4	2
イスラームと現代社会(卒業論文演習) 3	2	アッカドの言語と文化 1(歴史)	2
イスラームと現代社会(卒業論文演習) 4	2	アッカドの言語と文化 2(文学)	2
イスラーム法学演習(卒業論文演習) 1	2	ヒッタイトの言語と文化 1(歴史)	2
イスラーム法学演習(卒業論文演習) 2	2	ヒッタイトの言語と文化 2(文学)	2
イスラーム法学演習(卒業論文演習) 3	2	ヘブライ語碑文 1(起源と発達)	2
イスラーム法学演習(卒業論文演習) 4	2	ヘブライ語碑文 2(諸言語比較)	2
シーア派・イスラーム論 1	2	シュメールの言語と文化 1	2
シーア派・イスラーム論 2	2	シュメールの言語と文化 2	2
シーア派・イスラーム論 3	2	古代イスラエル史演習	2

ヒッタイト王国史演習	2	一神教研究	2
イスラエルの宗教演習	2	宗教と平和	2
古代近東学入門	2	日本宗教入門演習	2
ユダヤ学概論 1	2	一神教研究演習 1	2
ユダヤ学概論 2	2	一神教研究演習 2	2
ユダヤ学概論 3	2	宗教科教育法 A1	2
中世ユダヤ世界 1	2	宗教科教育法 A2	2
中世ユダヤ世界 2	2	宗教科教育法 B	2
ユダヤ教とその周辺文化 1	2	宗教科教育法 C	2
ユダヤ教とその周辺文化 2	2	教職実践演習(中・高)	2
アラム語 1	2	教育実習指導	1
アラム語 2	2	教育実習 A	2
アブラハム像演習 1	2	教育実習 B	2
アブラハム像演習 2	2	教育実習 C	4
モーセ像演習 1	2	アカデミック・ライティング	2
モーセ像演習 2	2	卒業論文	4
20世紀のユダヤ教演習	2	【2 類】	
ユダヤ人の祈りの演習	2	神学英語・基礎	1
ユダヤ女性演習	2	神学英語・講読 1	1
宗教研究入門	2	神学英語・講読 2	1
宗教社会学 1	2	神学英語・講読 3	1
宗教社会学 2	2	選択科目 2 類は、上記科目のほか、全学共通教養教育	
宗教人類学 1	2	科目の外国語教育科目の英語から履修すること。	
宗教人類学 2	2	実用英語技能検定試験, TOEFL(Test of English as a	
諸宗教とキリスト教	2	Foreign Language), TOEIC(Test of English for	
キリスト教的世界観	2	International Communication)で一定水準以上の成果を	
古代イスラエル宗教史 1	2	修めた者は、2 単位を限度として、選択科目 2 類の単位	
古代イスラエル宗教史 2	2	に認定する。	
仏教概論 1	2	【3 類】	
仏教概論 2	2	神学ドイツ語 1	2
同志社とキリスト教	2	神学ドイツ語 2	2
日本宗教	2	神学ドイツ語 3	2

神学ドイツ語 4	2
神学ドイツ語 5	2
神学ドイツ語 6	2
神学ドイツ語 7	2
神学ドイツ語 8	2
アラビア語入門と文法 1	2
アラビア語入門と文法 2	2
アラビア語入門と講読 1	2
アラビア語入門と講読 2	2
アラビア語講読 1	2
アラビア語講読 2	2
アラビア語会話初級 1	2
アラビア語会話初級 2	2
アラビア語会話中級 1	2
アラビア語会話中級 2	2
聖書ヘブライ語 1	2
聖書ヘブライ語 2	2
聖書ヘブライ語 3	2
聖書ヘブライ語 4	2
聖書ヘブライ語 5	2
聖書ヘブライ語 6	2
現代ヘブライ語初級 1	2
現代ヘブライ語初級 2	2
現代ヘブライ語中級 1	2
現代ヘブライ語中級 2	2
現代ヘブライ語上級 1	2
現代ヘブライ語上級 2	2
新約ギリシア語文法 1(初級 1)	2
新約ギリシア語文法 2(初級 2)	2
新約ギリシア語実践 1(中級 1)	2
新約ギリシア語実践 2(中級 2)	2

選択科目 3 類は、上記の科目のほか、全学共通教養教

育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、イタリア語)から履修すること。

【4 類】

選択科目 4 類は、全学共通教養教育科目の保健体育科目から履修すること。

【5 類】

神学とコンピュータ 2

【6 類】

選択科目 6 類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目)、日本語・日本文化教育科目(ただし、履修は外国人留学生に限る)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、早稲田大学交流協定科目、テュービンゲン大学 I E S 科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目から履修すること。

履修方法

必修科目 2 単位及び選択科目の 1 類から 68 単位以上、2 類から 6 単位以上、3 類から 8 単位以上、4 類、5 類及び 6 類から 36 単位以上を履修し、合計 124 単位以上を履修すること。

文 学 部

人材養成目的

文学部は、キリスト教主義・自由主義・国際主義に基づく人間形成を根本的な教育理念として、人文学の専門諸領域における教育・研究をとおして、現代のグローバル社会の諸課題に自立的かつ実践的に対応する力を備えた人物を養成することを目的とする。そのために、演

習・ゼミなどを中心にした少人数教育をとおして、各専門分野における基礎的な知識を修得したうえで、さらに、副専攻制度等を活用して、より幅広い有機的な教養の涵養を目指す。

英 文 学 科

人材養成目的

英文学科は、主として英米文学・英米文化、英語学・英語教育、およびこれらの関連分野における広範な基礎知識、多彩な学際的思考力・表現力、高度な領域的専門性を備えたグローバル人材の養成を目的としている。その学究過程で、グローバル社会に通用する実践的英語運用能力、複雑化・多様化する状況を正確に判断し、適切に対応しうる分析能力、問題解決能力、精緻な言語表現能力、さらに異文化理解に対する鋭敏な感性と柔軟な汎用的思考力を身につけ、広範な視野と責任ある信条に裏打ちされた主体的かつ協調的行動によって、国内外において広く社会貢献できる人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
Academic Skills	2
TOEFL Preparation	2
英文学史 I	2
英文学史 II	2
英語学 I	2
英語学 II	2
基礎演習 I	2
基礎演習 II	2
Junior Seminar I	2
Junior Seminar II	2
Senior Seminar I	2

Senior Seminar II	2
卒業論文	8
Listening A I	2
Listening A II	2
Speaking A I	2
Speaking A II	2
Reading A I	2
Reading A II	2
Writing A I	2
Writing A II	2
Oral Communication I	2
Oral Communication II	2
Reading B I	2
Reading B II	2
Writing B I	2
Writing B II	2
○選択科目 I	
A 群	
Media in English A (1)	2
Media in English A (2)	2
Media in English A (3)	2
Media in English A (4)	2
Media in English A (5)	2
Media in English A (6)	2
Media in English A (7)	2
Media in English A (8)	2
Media in English A (9)	2
Media in English A (10)	2
Sociocultural Topics in English A (1)	2
Sociocultural Topics in English A (2)	2
Sociocultural Topics in English A (3)	2
Sociocultural Topics in English A (4)	2

Sociocultural Topics in English A (5)	2	Media in English B (7)	2
Sociocultural Topics in English A (6)	2	Media in English B (8)	2
Sociocultural Topics in English A (7)	2	Media in English B (9)	2
Sociocultural Topics in English A (8)	2	Media in English B (10)	2
Sociocultural Topics in English A (9)	2	Media in English B (11)	2
Sociocultural Topics in English A (10)	2	Media in English B (12)	2
通訳入門 I	2	Media in English B (13)	2
通訳入門 II	2	Media in English B (14)	2
翻訳入門	2	Media in English B (15)	2
翻訳ワークショップ	2	Media in English B (16)	2
ビジネス英語	2	Media in English B (17)	2
TOEIC Preparation	2	Media in English B (18)	2
留学ワークショップ(1)	2	Media in English B (19)	2
留学ワークショップ(2)	4	Media in English B (20)	2
留学ワークショップ(3)	2	Sociocultural Topics in English B (1)	2
English Skills(1)	2	Sociocultural Topics in English B (2)	2
English Skills(2)	2	Sociocultural Topics in English B (3)	2
English Skills(3)	2	Sociocultural Topics in English B (4)	2
English Skills(4)	2	Sociocultural Topics in English B (5)	2
English Skills(5)	2	Sociocultural Topics in English B (6)	2
English Skills(6)	2	Sociocultural Topics in English B (7)	2
English Skills(7)	2	Sociocultural Topics in English B (8)	2
English Skills(8)	2	Sociocultural Topics in English B (9)	2
English Skills(9)	2	Sociocultural Topics in English B (10)	2
English Skills(10)	2	Sociocultural Topics in English B (11)	2
B 群		Sociocultural Topics in English B (12)	2
Media in English B (1)	2	Sociocultural Topics in English B (13)	2
Media in English B (2)	2	Sociocultural Topics in English B (14)	2
Media in English B (3)	2	Sociocultural Topics in English B (15)	2
Media in English B (4)	2	Sociocultural Topics in English B (16)	2
Media in English B (5)	2	Sociocultural Topics in English B (17)	2
Media in English B (6)	2	Sociocultural Topics in English B (18)	2

Sociocultural Topics in English B (19)	2	英語文化特論 A (9)	2
Sociocultural Topics in English B (20)	2	英語文化特論 A (10)	2
C 群		英語圏文学 A (1)	2
英米文学入門	2	英語圏文学 A (2)	2
英米文化入門	2	英語圏文学 A (3)	2
英語学入門	2	英語圏文学 A (4)	2
英語教育学入門	2	英語圏文学 A (5)	2
日英文化比較 (1)	2	キリスト教文学 (1)	2
日英文化比較 (2)	2	キリスト教文学 (2)	2
英米文学特論 A (1)	2	英語史 I	2
英米文学特論 A (2)	2	英語史 II	2
英米文学特論 A (3)	2	英語学特論 (1)	2
英米文学特論 A (4)	2	英語学特論 (2)	2
英米文学特論 A (5)	2	英語学特論 (3)	2
英米文学特論 A (6)	2	英語学特論 (4)	2
英米文学特論 A (7)	2	英語学特論 (5)	2
英米文学特論 A (8)	2	英語学特論 (6)	2
英米文学特論 A (9)	2	日英語対照研究 (1)	2
英米文学特論 A (10)	2	日英語対照研究 (2)	2
英米文学特論 A (11)	2	英語教育基礎論 (1)	2
英米文学特論 A (12)	2	英語教育基礎論 (2)	2
英米文学特論 A (13)	2	英語教育基礎論 (3)	2
英米文学特論 A (14)	2	英語教育基礎論 (4)	2
英米文学特論 A (15)	2	英語教育基礎論 (5)	2
英語文化特論 A (1)	2	英語科教育法 I	2
英語文化特論 A (2)	2	英語科教育法 II	2
英語文化特論 A (3)	2	英語科教育法 III	2
英語文化特論 A (4)	2	英語科教育法 IV	2
英語文化特論 A (5)	2	教育実習指導	1
英語文化特論 A (6)	2	教育実習 A	2
英語文化特論 A (7)	2	教育実習 B	2
英語文化特論 A (8)	2	教育実習 C	4

教職実践演習(中・高)	2	英語文化特論 B(10)	2
D 群		英語圏文学 B(1)	2
米文学史 I	2	英語圏文学 B(2)	2
米文学史 II	2	英語圏文学 B(3)	2
言語学 I	2	英語圏文学 B(4)	2
言語学 II	2	英語圏文学 B(5)	2
英語教育学	2	英語統語論 I	2
E 群		英語統語論 II	2
英米文学特論 B(1)	2	英語意味論 I	2
英米文学特論 B(2)	2	英語意味論 II	2
英米文学特論 B(3)	2	英語音声学・音韻論 I	2
英米文学特論 B(4)	2	英語音声学・音韻論 II	2
英米文学特論 B(5)	2	英語教育特論(1)	2
英米文学特論 B(6)	2	英語教育特論(2)	2
英米文学特論 B(7)	2	英語教育特論(3)	2
英米文学特論 B(8)	2	英語教育特論(4)	2
英米文学特論 B(9)	2	英語教育特論(5)	2
英米文学特論 B(10)	2	F 群	
英米文学特論 B(11)	2	ギリシャ語入門 I	2
英米文学特論 B(12)	2	ギリシャ語入門 II	2
英米文学特論 B(13)	2	ギリシャ語講読 I	2
英米文学特論 B(14)	2	ギリシャ語講読 II	2
英米文学特論 B(15)	2	ラテン語入門 I	2
英語文化特論 B(1)	2	ラテン語入門 II	2
英語文化特論 B(2)	2	ラテン語講読 I	2
英語文化特論 B(3)	2	ラテン語講読 II	2
英語文化特論 B(4)	2	卒業論文特殊研究	4
英語文化特論 B(5)	2	上記科目中から、B群2単位を含み、A・B群6単位	
英語文化特論 B(6)	2	以上、D群4単位とE群4単位を含み、C・D・E群	
英語文化特論 B(7)	2	18単位以上、合わせて24単位以上を履修すること。た	
英語文化特論 B(8)	2	だし、B群は4単位を上限とする。	
英語文化特論 B(9)	2	○選択科目II	

教職概論	2	業単位に算入する。
教育原理	2	以上、必修科目 60 単位、選択科目Ⅰ及び選択科目Ⅱ
発達と学習の心理学	2	(外国語科目 8 単位を含む)から 64 単位以上、合計 124
教育制度と学校経営	2	単位以上を履修すること。なお、国際専修コースについ
学校教育社会学	2	ては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から
人権教育論	2	20 単位以上(上限 30 単位)を履修すること。履修した単
教育課程論	2	位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。
道德教育の理論と実践	2	上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	教育インスティテュートに示された履修方法に従って履
教育方法論	2	修すること。
生徒・進路指導の理論と方法	2	○外国人留学生科目
教育相談の理論と方法	2	外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外
スクールインターンシップ	2	国人留学生入学試験により入学した者に限る。
学校教育文化論(1)	2	外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のう
学校教育文化論(2)	2	ち、日本語 1(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語 1(口頭表現 A
生涯教育計画論	2	I・II)、日本語 1(口頭表現 B I～Ⅴ)、日本語 1(文法
多文化共生社会と生涯学習	2	I～Ⅴ)、日本語 2(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語 2(口頭表
学校教育図書館論	2	現 A I・II)、日本語 2(口頭表現 B I～Ⅴ)、日本語 2
読書と豊かな人間性	2	(文法 I～Ⅴ)、ビジネス日本語 A、ビジネス日本語 B を
学校図書館サービス論	2	除く科目から選択履修すること。
選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育		履修した単位は選択科目Ⅱの単位に算入する。なお、
科目のうち、学科が定める科目から履修する。		日本語 1、日本語 2、ビジネス日本語 C、ビジネス日本
外国語科目は、全学共通教養教育科目(外国語教育科		語 D の単位は選択科目Ⅱの外国語教育科目の単位に代え
目)のドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、		ることができる。
中国語及びコリア語から 1 外国語を選択し 8 単位を履修		○自由科目
すること。なお、各外国語の会話科目は、外国語科目の		特別ニーズ教育論
必要要件には算入しない。		学校図書館メディアの構成
他学科、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科		学習指導と学校図書館
目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービ		情報メディアの活用
ンゲン大学 I E S 科目から履修した単位は、選択科目Ⅱ		自由科目は卒業単位に算入しない。
の単位として卒業単位に算入する。		
スポーツ・パフォーマンスは、4 単位を上限として卒		哲 学 科

人材養成目的

哲学科は、西洋の哲学、倫理学、宗教などの歴史、思想、意義について、古典の講読、精神史の研究及び現代の諸問題の批判的検討・討論をとおして、基礎的な教養を土台にして、世界と人間の意味を根本的原則的に考えぬく力や正しく行動する力、さらに社会の問題を的確に把握分析する力を身につけて、教育、文化、メディアをはじめ、公共機関や国際機関など、さらに広く産業界全体において活躍する人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
-----	------

○必修科目

人文演習(1)	2
人文演習(2)	2
哲学基礎演習(1)	2
哲学基礎演習(2)	2
演習 I (1)	2
演習 I (2)	2
演習 II (1)	2
演習 II (2)	2
卒業論文	12

必修科目は、上記の科目のほか、全学共通教養教育科目の「宗教学(1), (2)」を履修する。

○選択科目 I

A 群(講読系科目)

英書講読 I	2
英書講読 II	2
英書講読 III	2
英書講読 IV	2
独書講読 I	2
独書講読 II	2
独書講読 III	2
独書講読 IV	2

仏書講読 I	2
仏書講読 II	2
仏書講読 III	2
仏書講読 IV	2
ラテン語講読 I	2
ラテン語講読 II	2

A群から2言語を選択し、8単位以上履修すること。

B 群(基幹系科目)

哲学概論(1)	2
哲学概論(2)	2
倫理学概論(1)	2
倫理学概論(2)	2
宗教学概論(1)	2
宗教学概論(2)	2

B群から8単位以上履修すること。

C 群(思想史系科目)

西洋古代中世哲学史(1)	2
西洋古代中世哲学史(2)	2
西洋近世哲学史(1)	2
西洋近世哲学史(2)	2
西洋倫理学史(1)	2
西洋倫理学史(2)	2

C群から8単位以上履修すること。

D 群(領域系科目)

現代哲学(1)	2
現代哲学(2)	2
科学哲学(1)	2
科学哲学(2)	2
歴史哲学(1)	2
歴史哲学(2)	2
社会哲学(1)	2
社会哲学(2)	2

宗教哲学(1)	2	社会科・公民科教育法	2
宗教哲学(2)	2	社会科教育法 1	2
社会倫理学(1)	2	社会科教育法 2	2
社会倫理学(2)	2	地理歴史科教育法	2
哲学特論(1)	2	公民科教育法	2
哲学特論(2)	2	道徳教育の理論と実践	2
倫理学特論(1)	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
倫理学特論(2)	2	教育方法論	2
キリスト教精神史(1)	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
キリスト教精神史(2)	2	教育相談の理論と方法	2
仏教学(1)	2	教育実習指導	1
仏教学(2)	2	教育実習 A	2
東洋哲学思想史(1)	2	教育実習 B	2
東洋哲学思想史(2)	2	教育実習 C	4
東洋倫理思想史(1)	2	教職実践演習(中・高)	2
東洋倫理思想史(2)	2	スクールインターンシップ	2
ラテン語入門 I	2	学校教育文化論(1)	2
ラテン語入門 II	2	学校教育文化論(2)	2
ギリシャ語入門 I	2	生涯教育計画論	2
ギリシャ語入門 II	2	多文化共生社会と生涯学習	2
ギリシャ語講読 I	2	学校教育図書館論	2
ギリシャ語講読 II	2	読書と豊かな人間性	2
D群から 16 単位以上履修すること。		学校図書館サービス論	2
○選択科目 II		日本文化史概説(1)	2
教職概論	2	日本文化史概説(2)	2
教育原理	2	日本史学史(1)	2
発達と学習の心理学	2	日本史学史(2)	2
教育制度と学校経営	2	日本美術史(1)	2
学校教育社会学	2	日本美術史(2)	2
人権教育論	2	日本社会史(1)	2
教育課程論	2	日本社会史(2)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	考古学概論(1)	2

考古学概論(2)	2	○選択科目Ⅲ	
西洋文化史概説(1)	2	○選択科目Ⅱのうち、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語、ドイツ語、フランス語から2外国語を	
西洋文化史概説(2)	2	選択し、各8単位、合計16単位以上を履修すること。	
東洋文化史概説(1)	2	以上、必修科目32単位(卒業論文12単位を含む)、選	
東洋文化史概説(2)	2	択科目Ⅰ40単位以上、選択科目Ⅲ16単位以上、合計124	
西洋社会史(1)	2	単位以上を履修すること。なお、国際専修コースについ	
西洋社会史(2)	2	ては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から	
オリエント・西洋古代史(1)	2	20単位以上(上限30単位)を履修すること。履修した単	
オリエント・西洋古代史(2)	2	位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。	
西洋中世史(1)	2	上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際	
西洋中世史(2)	2	教育インスティテュートに示された履修方法に従って	
西洋近代史(1)	2	履修すること。	
西洋近代史(2)	2	○外国人留学生科目	
アメリカ大西洋史(1)	2	外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外	
アメリカ大西洋史(2)	2	国人留学生入学試験により入学した者に限る。	
東洋美術史(1)	2	外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のう	
東洋美術史(2)	2	ち、日本語1(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語1(口頭表現A	
人文地理学(1)	2	I・II)、日本語1(口頭表現B I～Ⅴ)、日本語1(文法	
人文地理学(2)	2	I～Ⅴ)、日本語2(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語2(口頭表	
地理学総論(1)	2	現A I・II)、日本語2(口頭表現B I～Ⅴ)、日本語2	
地理学総論(2)	2	(文法 I～Ⅴ)、ビジネス日本語A、ビジネス日本語Bを	
地誌学	2	除く科目から選択履修すること。	
日本の憲法	2	履修した単位のうち、日本語1、日本語2、ビジネス	
社会学概論	4	日本語C、ビジネス日本語Dを除く科目の単位は選択科	
経済原論	4	目Ⅱの単位に算入する。日本語1、日本語2、ビジネス	
心理学概論(1)	2	日本語C、ビジネス日本語Dの単位は、8単位を上限と	
心理学概論(2)	2	して選択科目Ⅲの外国語教育科目の単位として参入す	
選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育		る。	
科目(「宗教学(1)、(2)」を除く)、他学部・他学科科目、		○自由科目	
同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都		特別ニーズ教育論	2
単位互換科目及びチュービンゲン大学 I E S 科目から履		学校図書館メディアの構成	2
修する。			

学習指導と学校図書館	2	○選択科目 I	
情報メディアの活用	2	A 群	
教職コンピュータ基礎	2	独書講読(1)	2
自由科目は卒業単位に算入しない。		独書講読(2)	2
		仏書講読(1)	2
		仏書講読(2)	2
		漢文講読(1)	2
		漢文講読(2)	2
		A群から独書, 仏書, 漢文のうちいずれかを選択し, 4	
		単位以上履修すること。	
		B 群	
		西洋美術史概説(1)	2
		西洋美術史概説(2)	2
		日本美術史概説(1)	2
		日本美術史概説(2)	2
		美学特論(1)	2
		美学特論(2)	2
		美学特論(3)	2
		美学特論(4)	2
		美学特論(5)	2
		美学特論(6)	2
		芸術学特論(1)	2
		芸術学特論(2)	2
		芸術学特論(3)	2
		芸術学特論(4)	2
		芸術学特論(5)	2
		芸術学特論(6)	2
		芸術学特論(7)	2
		芸術学特論(8)	2
		芸術学特論(9)	2
		芸術学特論(10)	2
		東洋美術史(1)	2
美学芸術学科			
人材養成目的			
美学芸術学科は, 美学・芸術学・芸術史(美術史)の			
三領域について, 美や芸術の本質や多様性, 様々な芸術			
ジャンルの原理, 及び作品の歴史を総合的に学ぶことを			
とおして, 今日的な問題にも対処しうる, 柔軟な思考力			
と磨き抜かれた感性と豊かな表現力を身につけることに			
よって, マスコミ, 出版, 広告, 画廊, 官公庁等において,			
さらには大学院を経て美術館や博物館, 大学等にお			
いて活躍しうる人物を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位		
○必修科目			
美学芸術学基礎演習 I	2		
美学芸術学基礎演習 II	2		
美学概論(1)	2		
美学概論(2)	2		
芸術学概論(1)	2		
芸術学概論(2)	2		
芸術史概論(1)	2		
芸術史概論(2)	2		
英書講読(1)	2		
英書講読(2)	2		
演習 I (1)	2		
演習 I (2)	2		
演習 II (1)	2		
演習 II (2)	2		
卒業論文	12		

東洋美術史(2)	2	デザイン理論 II	2
美術史特論(1)	2	芸術批評論 I	2
美術史特論(2)	2	芸術批評論 II	2
美術史特論(3)	2	現代芸術論 I	2
美術史特論(4)	2	現代芸術論 II	2
美術史特論(5)	2	芸術情報論 I	2
美術史特論(6)	2	芸術情報論 II	2
文献講読(1)(英)	2	美学芸術学実地演習 I	2
文献講読(2)(英)	2	美学芸術学実地演習 II	2
文献講読(3)(独)	2	C群から12単位以上履修すること。	
文献講読(4)(独)	2	○選択科目II	
文献講読(5)(仏)	2	教職概論	2
文献講読(6)(仏)	2	教育原理	2
文献講読(7)(漢)	2	発達と学習の心理学	2
文献講読(8)(漢)	2	教育制度と学校経営	2
文献講読(9)(古)	2	学校教育社会学	2
文献講読(10)(伊)	2	人権教育論	2
文献講読(11)(古)	2	教育課程論	2
文献講読(12)(伊)	2	社会科・地理歴史科教育法	2
音楽学概論 I	2	社会科・公民科教育法	2
音楽学概論 II	2	社会科教育法 1	2
文芸学概論 I	2	社会科教育法 2	2
文芸学概論 II	2	地理歴史科教育法	2
B群から30単位以上履修すること。		公民科教育法	2
C 群		道徳教育の理論と実践	2
芸術学(1)	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
芸術学(2)	2	教育方法論	2
演劇学概論 I	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
演劇学概論 II	2	教育相談の理論と方法	2
映画学概論 I	2	教育実習指導	1
映画学概論 II	2	教育実習 A	2
デザイン理論 I	2	教育実習 B	2

教育実習 C	4	アメリカ大西洋史(2)	2
教職実践演習(中・高)	2	人文地理学(1)	2
学校教育文化論(1)	2	人文地理学(2)	2
学校教育文化論(2)	2	地理学総論(1)	2
生涯教育計画論	2	地理学総論(2)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	地誌学	2
学校教育図書館論	2	日本の憲法	2
読書と豊かな人間性	2	社会学概論	4
学校図書館サービス論	2	経済原論	4
日本文化史概説(1)	2	哲学概論(1)	2
日本文化史概説(2)	2	哲学概論(2)	2
日本史学史(1)	2	倫理学概論(1)	2
日本史学史(2)	2	倫理学概論(2)	2
日本美術史(1)	2	宗教学概論(1)	2
日本美術史(2)	2	宗教学概論(2)	2
日本社会史(1)	2	心理学概論(1)	2
日本社会史(2)	2	心理学概論(2)	2
考古学概論(1)	2	東洋哲学思想史(1)	2
考古学概論(2)	2	東洋哲学思想史(2)	2
西洋文化史概説(1)	2	東洋倫理思想史(1)	2
西洋文化史概説(2)	2	東洋倫理思想史(2)	2
東洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育	
東洋文化史概説(2)	2	科目(ただし、「芸術学(1), (2)」を除く)、他学部・他	
西洋社会史(1)	2	学科科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソー	
西洋社会史(2)	2	シアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S	
オリエント・西洋古代史(1)	2	科目のうち、学科が定める科目から履修する。	
オリエント・西洋古代史(2)	2	○選択科目Ⅲ	
西洋中世史(1)	2	選択科目Ⅲは、全学共通教養教育科目(外国語教育科	
西洋中世史(2)	2	目)のうち、学科が定める科目から履修する。	
西洋近代史(1)	2	英語科目から8単位履修すること。更に選択科目Ⅱよ	
西洋近代史(2)	2	りドイツ語、フランス語、中国語、コリア語から1外国	
アメリカ大西洋史(1)	2	語を選択し8単位を履修すること。なお、各外国語の会	

話科目は選択科目Ⅲには算入しない。

以上、必修科目 40 単位(卒業論文 12 単位を含む)、選択科目Ⅰ、Ⅱから 68 単位以上、選択科目Ⅲから 16 単位以上、合計 124 単位を履修すること。なお、国際専修コースについては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上(上限 30 単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。

外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語 1(口頭表現 A I・Ⅱ)、日本語 1(口頭表現 B I～Ⅴ)、日本語 1(文法 I～Ⅴ)、日本語 2(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語 2(口頭表現 A I・Ⅱ)、日本語 2(口頭表現 B I～Ⅴ)、日本語 2(文法 I～Ⅴ)、ビジネス日本語 A、ビジネス日本語 B を除く科目から選択履修すること。

履修した単位は選択科目Ⅱの単位に算入する。なお、日本語 1、日本語 2、ビジネス日本語 C、ビジネス日本語 D の単位は選択科目Ⅲの外国語教育科目の単位に代えることができる。

○自由科目

特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
教職コンピュータ基礎	2

自由科目は卒業単位に算入しない。

文化史学科

人材養成目的

文化史学科は、日本や世界の歴史について、政治・経済・社会・宗教・芸術・日常生活・心性など人間活動の総体を有機的に把握する文化史的研究をとおして、幅広い歴史的知識や思考能力を身につけて、社会の諸分野において活躍する人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
文化史基礎演習(1)	2
文化史基礎演習(2)	2
文化史学概論(1)	2
文化史学概論(2)	2
日本文化史演習Ⅰ(1)	2
日本文化史演習Ⅰ(2)	2
日本文化史演習Ⅱ(1)	2
日本文化史演習Ⅱ(2)	2
演習 AⅠ(1)	2
演習 AⅠ(2)	2
演習 AⅡ(1)	2
演習 AⅡ(2)	2
西洋・東洋文化史演習Ⅰ(1)	2
西洋・東洋文化史演習Ⅰ(2)	2
西洋・東洋文化史演習Ⅱ(1)	2
西洋・東洋文化史演習Ⅱ(2)	2
演習 BⅠ(1)	2
演習 BⅠ(2)	2
演習 BⅡ(1)	2
演習 BⅡ(2)	2
卒業論文	12

日本文化史演習Ⅰ(1)・(2), 日本文化史演習Ⅱ(1)・(2), 演習AⅠ(1)・(2), 演習AⅡ(1)・(2)は日本文化史コースのみ, 西洋・東洋文化史演習Ⅰ(1)・(2), 西洋・東洋文化史演習Ⅱ(1)・(2), 演習BⅠ(1)・(2), 演習BⅡ(1)・(2)は西洋・東洋文化史コースのみ履修できる。

○選択科目Ⅰ

A 群(日本文化史科目)

日本文化史概説(1)	2
日本文化史概説(2)	2
日本史学史(1)	2
日本史学史(2)	2
日本美術史(1)	2
日本美術史(2)	2
日本思想史(1)	2
日本思想史(2)	2
日本社会史(1)	2
日本社会史(2)	2
考古学概論(1)	2
考古学概論(2)	2
民俗学(1)	2
民俗学(2)	2
古文書学(1)	2
古文書学(2)	2
日本地域史研究(1)	2
日本地域史研究(2)	2

B 群(西洋・東洋文化史科目)

西洋文化史概説(1)	2
西洋文化史概説(2)	2
東洋文化史概説(1)	2
東洋文化史概説(2)	2
中東イスラーム史概説(1)	2

中東イスラーム史概説(2)	2
西洋思想史(1)	2
西洋思想史(2)	2
西洋社会史(1)	2
西洋社会史(2)	2
オリエント・西洋古代史(1)	2
オリエント・西洋古代史(2)	2
西洋中世史(1)	2
西洋中世史(2)	2
西洋近代史(1)	2
西洋近代史(2)	2
アメリカ大西洋史(1)	2
アメリカ大西洋史(2)	2
中東イスラーム史特論(1)	2
中東イスラーム史特論(2)	2
中東イスラーム史特論(3)	2
中東イスラーム史特論(4)	2
東アジア史特論(1)	2
東アジア史特論(2)	2
東アジア史特論(3)	2
東アジア史特論(4)	2
東南・南アジア史特論(1)	2
東南・南アジア史特論(2)	2
東洋文化史演習(1)	2
東洋文化史演習(2)	2
西洋・東洋文化史実地演習	2

C 群(関連・展開科目)

キリスト教精神史(1)	2
キリスト教精神史(2)	2
東洋美術史(1)	2
東洋美術史(2)	2
文化史特論(1)	2

文化史特論(2)	2	外国書講読 [英] (3)	2
文化史特論(3)	2	外国書講読 [英] (4)	2
文化史特論(4)	2	外国書講読 [独] (1)	2
文化史特論(5)	2	外国書講読 [独] (2)	2
文化史特論(6)	2	外国書講読 [独] (3)	2
文化史特論(7)	2	外国書講読 [独] (4)	2
文化史特論(8)	2	外国書講読 [仏] (1)	2
文化史演習 C (1)	2	外国書講読 [仏] (2)	2
文化史演習 C (2)	2	外国書講読 [仏] (3)	2
演習 C (1)	2	外国書講読 [仏] (4)	2
演習 C (2)	2	外国書講読 [漢] (1)	2
考古学実習(1)	2	外国書講読 [漢] (2)	2
考古学実習(2)	2	外国書講読 [漢] (3)	2
博物館概論	2	外国書講読 [漢] (4)	2
博物館経営論	2	D群の外国書講読は西洋・東洋文化史コースのみ履修	
博物館資料論	2	できる。	
博物館情報メディア論	2	日本文化史コースは、A群 16 単位を含みA・B群か	
博物館教育論	2	ら 28 単位以上、更にA・B・C群及び他学部、他学科の	
博物館資料保存論	2	歴史関係科目より 12 単位以上、選択科目 I 合計 40 単位	
博物館展示論	2	以上を履修すること。	
人文地理学(1)	2	西洋・東洋文化史コースは、B群から 16 単位以上、D	
人文地理学(2)	2	群から 8 単位以上、更にA・B・C群及び他学部、他学	
地理学総論(1)	2	科の歴史関係科目より 16 単位以上、選択科目 I 合計 40	
地理学総論(2)	2	単位以上を履修すること。	
地誌学	2	○選択科目 II	
英書講読 A (1)	2	教職概論	2
英書講読 A (2)	2	教育原理	2
英書講読 A (1)・(2)は日本文化史コースのみ履修でき		発達と学習の心理学	2
る。		教育制度と学校経営	2
D 群(西洋・東洋文化史外国書講読)		学校教育社会学	2
外国書講読 [英] (1)	2	人権教育論	2
外国書講読 [英] (2)	2	教育課程論	2

社会科・地理歴史科教育法	2	宗教学概論(2)	2
社会科・公民科教育法	2	心理学概論(1)	2
社会科教育法 1	2	心理学概論(2)	2
社会科教育法 2	2	東洋哲学思想史(1)	2
地理歴史科教育法	2	東洋哲学思想史(2)	2
公民科教育法	2	東洋倫理思想史(1)	2
道徳教育の理論と実践	2	東洋倫理思想史(2)	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	パーソナリティ心理学(感情・人格心理学Ⅱ)	2
教育方法論	2	〈外国語教育科目〉	
生徒・進路指導の理論と方法	2	イタリア語(文化史)	
教育相談の理論と方法	2	イタリア語入門Ⅰ(文化史)	2
教育実習指導	1	イタリア語入門Ⅱ(文化史)	2
教育実習 A	2	イタリア語応用Ⅰ(文化史)	1
教育実習 B	2	イタリア語応用Ⅱ(文化史)	1
教育実習 C	4	イタリア語応用Ⅲ(文化史)	1
教職実践演習(中・高)	2	イタリア語応用Ⅳ(文化史)	1
スクールインターンシップ	2	選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育	
学校教育文化論(1)	2	科目、他学部・他学科科目、同志社女子大学単位互換科	
学校教育文化論(2)	2	目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービ	
生涯教育計画論	2	ンゲン大学 I E S 科目のうち、学科が定める科目から履	
多文化共生社会と生涯学習	2	修する。	
学校教育図書館論	2	外国語教育科目は、英語から 8 単位履修すること。更	
読書と豊かな人間性	2	に日本文化史コースはドイツ語、フランス語、中国語、	
学校図書館サービス論	2	スペイン語、ロシア語、コリア語から 1 外国語を選択し	
日本の憲法	2	8 単位以上を履修すること。西洋・東洋文化史コースはド	
社会学概論	4	イツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コ	
経済原論	4	リア語、および上記のイタリア語(文化史)から 1 外国語	
哲学概論(1)	2	を選択し 8 単位以上を履修すること。	
哲学概論(2)	2	以上、必修科目 36 単位(卒業論文 12 単位を含む)、選	
倫理学概論(1)	2	択科目Ⅰ 40 単位以上、選択科目Ⅱ(外国語科目)16 単位	
倫理学概論(2)	2	以上、合計 124 単位以上を履修すること。なお、国際専修	
宗教学概論(1)	2	コースについては、別途定めた国際教育インスティ	

テュート科目から 20 単位以上(上限 30 単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。

外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語 1(口頭表現 A I・Ⅱ)、日本語 1(口頭表現 B I～Ⅴ)、日本語 1(文法 I～Ⅴ)、日本語 2(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語 2(口頭表現 A I・Ⅱ)、日本語 2(口頭表現 B I～Ⅴ)、日本語 2(文法 I～Ⅴ)、ビジネス日本語 A、ビジネス日本語 B を除く科目から選択履修すること。

履修した単位は選択科目Ⅱの単位に算入する。なお、日本語 1、日本語 2、ビジネス日本語 C、ビジネス日本語 D の単位は選択科目Ⅱの外国語教育科目の単位に代えることができる。

○自由科目

特別ニーズ教育論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
教職コンピュータ基礎	2
博物館実習 I	2
博物館実習 II	1

自由科目は卒業単位に算入しない。

国文学科

人材養成目的

国文学科は、古代から現代に至る幅広い時代の知の結晶である日本文学と日本語について、実証的かつ理論的に探求し、日本文化についての理解を深めることをとおして、精緻な読解力、卓越した自己表現力、知識や情報の創造的な運用能力を備えた、世界と真に対話できる総合的な人間力を身につけて、教育界、マスコミ・出版界をはじめとする、広範な分野で社会に貢献し、国際化にも対応できる人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
-----	------

○必修科目

日本文学基礎演習(1)	2
日本文学基礎演習(2)	2
日本文学研究演習(1)	2
日本文学研究演習(2)	2
演習 I	4
演習 II	4
卒業論文	12

○選択科目 I

A 群(講読科目)

日本文学講読(上代A)	2
日本文学講読(上代B)	2
日本文学講読(上代C)	2
日本文学講読(上代D)	2
日本文学講読(中古A)	2
日本文学講読(中古B)	2
日本文学講読(中古C)	2
日本文学講読(中古D)	2
日本文学講読(中世A)	2
日本文学講読(中世B)	2
日本文学講読(中世C)	2
日本文学講読(中世D)	2
日本文学講読(近世A)	2

日本文学講読(近世B)	2	日本文学特殊講義(近世D)	2
日本文学講読(近世C)	2	日本文学特殊講義(近現代A)	2
日本文学講読(近世D)	2	日本文学特殊講義(近現代B)	2
日本文学講読(近現代A)	2	日本文学特殊講義(近現代C)	2
日本文学講読(近現代B)	2	日本文学特殊講義(近現代D)	2
日本文学講読(近現代C)	2	日本文学特殊講義(総合A)	2
日本文学講読(近現代D)	2	日本文学特殊講義(総合B)	2
日本文学講読(広域A)	2	日本文学特殊講義(総合C)	2
日本文学講読(広域B)	2	日本文学特殊講義(総合D)	2
日本文学講読(広域C)	2	日本語学特殊講義(A)	2
日本文学講読(広域D)	2	日本語学特殊講義(B)	2
日本語学講読(A)	2	日本語学特殊講義(C)	2
日本語学講読(B)	2	日本語学特殊講義(D)	2
日本語学講読(C)	2	B群から10単位以上履修すること。	
日本語学講読(D)	2	C群(基礎・教職系科目)	
A群から14単位以上履修すること。		日本文学概論(1)	2
B群(特殊講義科目)		日本文学概論(2)	2
日本文学特殊講義(上代A)	2	日本文学史(1)	2
日本文学特殊講義(上代B)	2	日本文学史(2)	2
日本文学特殊講義(上代C)	2	日本語学概論(1)	2
日本文学特殊講義(上代D)	2	日本語学概論(2)	2
日本文学特殊講義(中古A)	2	日本語史(1)	2
日本文学特殊講義(中古B)	2	日本語史(2)	2
日本文学特殊講義(中古C)	2	日本語文法(1)	2
日本文学特殊講義(中古D)	2	日本語文法(2)	2
日本文学特殊講義(中世A)	2	漢文(1)	2
日本文学特殊講義(中世B)	2	漢文(2)	2
日本文学特殊講義(中世C)	2	言語学概論(1)	2
日本文学特殊講義(中世D)	2	言語学概論(2)	2
日本文学特殊講義(近世A)	2	書道(1)	2
日本文学特殊講義(近世B)	2	書道(2)	2
日本文学特殊講義(近世C)	2	漢文学概論(1)	2

漢文学概論(2)	2	選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育
国語科教育法 A1	2	科目、他学部・他学科科目、同志社女子大学単位互換科
国語科教育法 A2	2	目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービ
国語科教育法 B	2	ングゲン大学 I E S 科目のうち、学科が定める科目から履
国語科教育法 C	2	修する。
教育実習指導	1	全学共通教養教育科目(保健体育科目)4単位以上履修
教育実習 A	2	すること。
教育実習 B	2	全学共通教養教育科目(複合領域科目)は8単位を上
教育実習 C	4	限として卒業単位に算入する。
教職実践演習(中・高)	2	全学共通教養教育科目のドイツ文学、フランス文学、
スクールインターンシップ	2	中国文学、スペイン文学、ラテンアメリカ文学、ロシア
C群から12単位以上履修すること。		文学は4単位を上限として卒業単位に算入する。比較言
○選択科目Ⅱ		語文化論、地域言語文化論、メタ言語文化論は4単位を
教職概論	2	上限として卒業単位に算入する。
教育原理	2	○選択科目Ⅲ
発達と学習の心理学	2	選択科目Ⅲは、全学共通教養教育科目(外国語教育科
教育制度と学校経営	2	目)のうち、学科が定める科目から履修する。
学校教育社会学	2	選択科目Ⅲから8単位以上履修すること。ただし、英
人権教育論	2	語科目から4単位を履修すること。
教育課程論	2	各外国語の会話科目は2単位を上限に卒業単位に算入
道徳教育の理論と実践	2	する。
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	以上、必修科目28単位(卒業論文12単位を含む)、選
教育方法論	2	択科目Ⅰ36単位以上、保健体育科目4単位以上、選択科
生徒・進路指導の理論と方法	2	目Ⅲ8単位以上(英語4単位以上を含む)、さらに選択科
教育相談の理論と方法	2	目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから48単位以上、合計124単位以上を履
学校教育文化論(1)	2	修すること。なお、国際専修コースについては、別途定
学校教育文化論(2)	2	めた国際教育インスティテュート科目から20単位以上
生涯教育計画論	2	(上限30単位)を履修すること。履修した単位は、選択科
多文化共生社会と生涯学習	2	目Ⅱの単位として算入する。
学校教育図書館論	2	上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際
読書と豊かな人間性	2	教育インスティテュートに示された履修方法に従って履
学校図書館サービス論	2	修すること。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。

外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語1(口頭表現A I・II)、日本語1(口頭表現B I～Ⅴ)、日本語1(文法 I～Ⅴ)、日本語2(文章表現Ⅲ～Ⅴ)、日本語2(口頭表現A I・II)、日本語2(口頭表現B I～Ⅴ)、日本語2(文法 I～Ⅴ)、ビジネス日本語A、ビジネス日本語Bを除く科目から選択履修すること。

履修した単位は選択科目IIの単位に算入する。なお、日本語1、日本語2、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位は選択科目IIIの外国語教育科目の単位に代えることができる。

○自由科目

特別ニーズ教育論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
教職コンピュータ基礎	2

自由科目は卒業単位に算入しない。

○副専攻履修者用科目 (国文学科生は履修不可)

演習 I (1)	2
演習 I (2)	2

社 会 学 部

人材養成目的

社会学部は家族、職場、地域、国際社会に生起する生活、労働、コミュニケーション、人間形成の諸課題について、少人数教育を核とした議論と発表、文献研究、フィールドワーク、計量調査の学習をとおして、客観的で良

識に基づく判断力、他者に共感し協力できる感受性、

日々の努力を怠らない自制心、難題に向かう気概を身に付けて、企業、行政、マスコミ、福祉等の分野でなくてはならない人材を養成することを目的とする。

社 会 学 科

人材養成目的

社会学科は、家族・地域・組織・階層・移動・社会意識・異文化・国際社会・ネットワークについて、社会学や人類学の理論に広く深く学びつつ、計量調査やフィールドワークといった社会調査の方法論と実習を核とするカリキュラムをとおして、さまざまな社会的現実に関する情報の収集と分析の能力を身に付けて、行政や民間の各機関における立案・調査・研究といった部門等において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
-----	------

○必修科目

ファーストイヤーセミナー	2
社会学概論	4
社会調査入門	2
社会学理論	4
社会学演習 I	2
社会学演習 II (1)	2
社会学演習 II (2)	2
社会学演習 III (1)	2
社会学演習 III (2)	2
卒業論文	8

○選択科目 I

専門科目群

エリアスタディ概論	2
社会学研究法 A	2
社会学研究法 B	2

家族社会学	4	外国書講読(中国語) II	2
地域社会学	4	外国書講読(コリア語) I	2
国際社会学	4	外国書講読(コリア語) II	2
社会心理学	4	学部共通科目群	
社会人類学	4	社会問題論	2
教育社会学	2	マス・コミュニケーション論	2
情報社会学	2	現代社会と労働	2
仕事の社会学	2	多文化共生社会と教育文化	2
災害社会学	2	選択科目 I は, 専門科目群から 40 単位以上, 学部	
比較社会学	2	共通科目群から 4 単位以上を履修すること。なお, 専門	
社会調査実習 I	2	科目群からは社会学研究法 A または社会学研究法 B のい	
社会調査実習 II	2	ずれか 2 単位を履修すること。	
社会統計学 I	2	○選択科目 II	
社会統計学 II	2	教職概論	2
社会学説史	2	教育原理	2
社会問題	2	教育課程論	2
文化社会学	4	発達と学習の心理学	2
ジェンダーの社会学	4	教育制度と学校経営	2
現代社会論	2	学校教育社会学	2
社会学特講 I	4	社会科・地理歴史科教育法	2
社会学特講 II	4	社会科・公民科教育法	2
現代社会学特論 I	2	社会科教育法 1	2
現代社会学特論 II	2	社会科教育法 2	2
現代社会学特論 III	2	公民科教育法	2
情報行動論	2	道徳教育の理論と実践	2
産業社会学(1)	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
産業社会学(2)	2	教育方法論	2
外国書講読(ドイツ語) I	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
外国書講読(ドイツ語) II	2	教育相談の理論と方法	2
外国書講読(フランス語) I	2	教職実践演習(中・高)	2
外国書講読(フランス語) II	2	教育実習指導	1
外国書講読(中国語) I	2	教育実習 A	2

教育実習 B	2	西洋文化史概説(2)	2
教育実習 C	4	日本社会史(1)	2
人権教育論	2	日本社会史(2)	2
学校教育文化論(1)	2	考古学概論(1)	2
学校教育文化論(2)	2	考古学概論(2)	2
生涯教育計画論	2	西洋社会史(1)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	西洋社会史(2)	2
学校教育図書館論	2	アメリカ大西洋史(1)	2
読書と豊かな人間性	2	アメリカ大西洋史(2)	2
生涯学習概論	2	近代ヨーロッパ政治史	2
図書館情報学概論	2	現代ヨーロッパ政治史	2
図書館情報技術論	2	経済原論	4
情報資源組織論 I	2	日本経済史 1	2
情報資源組織論 II	2	日本経済史 2	2
学術情報利用教育論	2	世界経済史 1	2
図書・図書館史	2	世界経済史 2	2
哲学概論(1)	2	日本の憲法	2
哲学概論(2)	2	心理学概論(1)	2
倫理学概論(1)	2	心理学概論(2)	2
倫理学概論(2)	2	選択科目Ⅱは上記科目，全学共通教養教育科目(同志	
宗教学概論(1)	2	社科目，キャリア形成支援科目，国際教養科目，クリエイ	
宗教学概論(2)	2	ティブ・ジャパン科目，人文科学系科目，社会科学系科	
人文地理学(1)	2	目，自然・人間科学系科目，複合領域科目，プロジェクト	
人文地理学(2)	2	科目，保健体育科目)，日本語・日本文化教育科目，他学	
地理学総論(1)	2	部・他学科科目，テュービンゲン大学 I E S 科目，同志社	
地理学総論(2)	2	女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位	
地誌学	2	互換科目から履修することができる。	
日本文化史概説(1)	2	○選択科目Ⅲ	
日本文化史概説(2)	2	Contemporary Japanese Culture and	4
東洋文化史概説(1)	2	Society	
東洋文化史概説(2)	2	Principles of Sociology	4
西洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅲは上記科目及び全学共通教養教育科目の外	

国語教育科目から、英語 12 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 16 単位以上を履修すること。ただし、イタリア語は選択科目Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話科目は、2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。

○日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。なお、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、選択科目Ⅲの英語以外の外国語の単位に算入する。

以上、必修科目 30 単位、選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから 94 単位以上(選択科目Ⅰ 44 単位以上、選択科目Ⅲ 16 単位以上を含む)、合計 124 単位以上を履修すること。

なお、国際専修コースについては、国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅲの英語の単位として算入する。ただし、専門領域科目の Japanese Society and Global Culture Concentration から履修した単位は、8 単位を上限として選択科目ⅠB群の単位に算入することができる。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論Ⅰ	2
図書館情報サービス論Ⅱ	2
図書館情報資源概論	2
図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2

児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習Ⅰ	2
情報サービス演習Ⅱ	2
情報資源組織演習Ⅰ	2
情報資源組織演習Ⅱ	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
科学技術概論Ⅰ	2
科学技術概論Ⅱ	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンス・ナウ 1	2
サイエンス・ナウ 2	2
サイエンス・ナウ 3	2
サイエンス・ナウ 4	2
サイエンス・ナウ 5	2
サイエンス・ナウ 6	2
サイエンス・ナウ 7	2
サイエンスとインテリジェンス	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2

自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学技術概論Ⅰ、科学技術概論Ⅱ、アウトリーチ実習、サイエンスライティング、サイエンス・ナウ 1、サイエン

ス・ノウ2, サイエンス・ノウ3, サイエンス・ノウ4, サイエンス・ノウ5, サイエンス・ノウ6, サイエンス・ノウ7, サイエンスとインテリジェンス, ビジネスワークショップ, メディカルワークショップ, 取材・インタビュー実践講座, 未知型探索ビジネスワークショップの中から12単位以上を履修した場合は, 選択科目Ⅱの単位に算入する。

社会福祉学科

人材養成目的

社会福祉学科は, 現代社会における様々な生活問題に焦点をあてて, 個人や家族への援助活動を中心とするミクロレベルから, 地域を対象とするメゾレベル, 制度や政策を考察するマクロレベルに至る多様なレベルからの思想的・理論的かつ実践的な探求を行い, 社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)に必要な価値・知識・技術を身に付け, 様々な社会福祉の分野で活躍し, 21世紀福祉社会に貢献する人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目

ファーストイヤーセミナー	2
社会問題論	2
福祉と人権	2
社会福祉入門	2
社会福祉学基礎演習Ⅰ	2
社会福祉学基礎演習Ⅱ	2
社会福祉学基礎演習Ⅲ	2
社会福祉学専門演習Ⅰ	2
社会福祉学専門演習Ⅱ	2
社会福祉学専門演習Ⅲ	2
社会福祉学専門演習Ⅳ	2
ソーシャルワーク基礎実習Ⅰ	2

ソーシャルワーク基礎実習Ⅱ	2
卒業論文	8

○選択科目Ⅰ

A 群

社会福祉の歴史と思想	2
国際社会福祉	4
社会保障論	4
社会福祉政策	2
社会福祉施設経営論	2
権利擁護と成年後見	2

B 群

ソーシャルワーク論Ⅰ	4
ソーシャルワーク論Ⅱ	4
ソーシャルワーク論Ⅲ	4
ソーシャルワーク演習Ⅰ	4
ソーシャルワーク演習Ⅱ	4
ソーシャルワーク基礎実習Ⅲ	2
ソーシャルワーク専門実習Ⅰ	3
ソーシャルワーク専門実習Ⅱ	3
ソーシャルワーク専門実習Ⅲ	2
ソーシャルワーク専門実習Ⅳ	2
精神保健福祉の原理	4
精神保健福祉ソーシャルワーク論Ⅰ	2
精神保健福祉ソーシャルワーク論Ⅱ	2
精神保健福祉ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
精神保健福祉ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
精神保健福祉ソーシャルワーク演習Ⅲ	2
精神保健福祉ソーシャルワーク実習Ⅰ	2
精神保健福祉ソーシャルワーク実習Ⅱ	2
精神保健福祉ソーシャルワーク実習Ⅲ	2
社会問題実習	4
国際社会福祉実習	4

C 群		外国書講読(中国語) I	2
NPO・ボランティア活動論	2	外国書講読(中国語) II	2
児童・家庭福祉論	2	外国書講読(コリア語) I	2
障害者福祉論	2	外国書講読(コリア語) II	2
高齢者福祉論	2	学部共通科目群	
地域福祉論	4	現代社会論	2
家族福祉論	2	マス・コミュニケーション論	2
公的扶助	2	現代社会と労働	2
医療福祉論	2	多文化共生社会と教育文化	2
司法福祉論	2	選択科目 I は、A～D群から各 4 単位以上を含めて 24 単位以上、学部共通科目群から 4 単位以上を履修すること。	
D 群		○選択科目 II	
心理学と心理的支援	2	社会学概論	4
社会学と社会システム	2	学校教育社会学	2
ジェンダーと社会福祉	2	福祉科教育法 A	2
医学概論	2	福祉科教育法 B	2
介護概論	2	教職概論	2
精神医学と精神医療	4	教育原理	2
精神障害リハビリテーション論	2	教育課程論	2
精神保健福祉制度論	2	発達と学習の心理学	2
現代の精神保健の課題と支援	4	教育制度と学校経営	2
社会統計学 I	2	社会科・地理歴史科教育法	2
社会統計学 II	2	社会科・公民科教育法	2
社会福祉調査	2	社会科教育法 1	2
社会福祉特講 I	2	社会科教育法 2	2
社会福祉特講 II	2	公民科教育法	2
社会福祉特講 III	2	道德教育の理論と実践	2
外国書講読(英語) I	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
外国書講読(英語) II	2	教育方法論	2
外国書講読(ドイツ語) I	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
外国書講読(ドイツ語) II	2	教育相談の理論と方法	2
外国書講読(フランス語) I	2		
外国書講読(フランス語) II	2		

教職実践演習(中・高)	2	東洋文化史概説(1)	2
教育実習指導	1	東洋文化史概説(2)	2
教育実習 A	2	西洋文化史概説(1)	2
教育実習 B	2	西洋文化史概説(2)	2
教育実習 C	4	日本社会史(1)	2
人権教育論	2	日本社会史(2)	2
学校教育文化論(1)	2	考古学概論(1)	2
学校教育文化論(2)	2	考古学概論(2)	2
生涯教育計画論	2	西洋社会史(1)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	西洋社会史(2)	2
学校教育図書館論	2	アメリカ大西洋史(1)	2
読書と豊かな人間性	2	アメリカ大西洋史(2)	2
生涯学習概論	2	近代ヨーロッパ政治史	2
図書館情報学概論	2	現代ヨーロッパ政治史	2
図書館情報技術論	2	経済原論	4
情報資源組織論 I	2	日本経済史 1	2
情報資源組織論 II	2	日本経済史 2	2
学術情報利用教育論	2	世界経済史 1	2
図書・図書館史	2	世界経済史 2	2
哲学概論(1)	2	日本の憲法	2
哲学概論(2)	2	心理学概論(1)	2
倫理学概論(1)	2	心理学概論(2)	2
倫理学概論(2)	2	選択科目Ⅱから12単位以上履修すること。	
宗教学概論(1)	2	なお、選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科	
宗教学概論(2)	2	目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティ	
人文地理学(1)	2	ブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自	
人文地理学(2)	2	然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目,	
地理学総論(1)	2	保健体育科目), 日本語・日本文化教育科目, 他学部・他	
地理学総論(2)	2	学科科目, テュービンゲン大学 I E S 科目, 同志社女子	
地誌学	2	大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換	
日本文化史概説(1)	2	科目からも履修することができる。	
日本文化史概説(2)	2	○選択科目Ⅲ	

選択科目Ⅲは全学共通教養教育科目の外国語教育科目から、英語8単位、英語以外の外国語4単位、計12単位以上を履修すること。ただし、イタリア語は選択科目Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

○日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。なお、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、選択科目Ⅲの英語以外の外国語の単位に算入する。

以上、必修科目34単位、選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから90単位以上(選択科目Ⅰ28単位以上、選択科目Ⅱ12単位以上、選択科目Ⅲ12単位以上を含む)、合計124単位以上を履修すること。

なお、国際専修コースについては、国際教育インスティテュート科目から20単位以上を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱ又は選択科目Ⅲの英語の単位として算入する。ただし、専門領域科目の Japanese Society and Global Culture Concentration から履修した単位は、8単位を上限として選択科目ⅠD群の単位に算入することができる。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論Ⅰ	2
図書館情報サービス論Ⅱ	2
図書館情報資源概論	2

図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2
児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習Ⅰ	2
情報サービス演習Ⅱ	2
情報資源組織演習Ⅰ	2
情報資源組織演習Ⅱ	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
科学技術概論Ⅰ	2
科学技術概論Ⅱ	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンス・ナウⅠ	2
サイエンス・ナウⅡ	2
サイエンス・ナウⅢ	2
サイエンス・ナウⅣ	2
サイエンス・ナウⅤ	2
サイエンス・ナウⅥ	2
サイエンス・ナウⅦ	2
サイエンスとインテリジェンス	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2

自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学

技術概論Ⅰ，科学技術概論Ⅱ，アウトリーチ実習，サイエンスライティング，サイエンス・ノウ1，サイエンス・ノウ2，サイエンス・ノウ3，サイエンス・ノウ4，サイエンス・ノウ5，サイエンス・ノウ6，サイエンス・ノウ7，サイエンスとインテリジェンス，ビジネスワークショップ，メディカルワークショップ，取材・インタビュー実践講座，未知型探索ビジネスワークショップの中から12単位以上を履修した場合は，選択科目Ⅱの単位に算入する。

メディア学科

人材養成目的

メディア学科は，「メディアとジャーナリズム」「情報と社会」「コミュニケーションと文化」について，1年次からの少人数ゼミと多様な講義などをおして，メディアの社会的機能を知り，報道機関・ネットなどからの情報を的確に読み解く能力や，一市民として自ら情報をどう発信するかなどの知識を身に付けて，マスコミ業界，専門研究職，情報広告関連会社を含む一般企業などにおいて活躍する人材を養成することを目的とする。

科目	履修単位
○必修科目	
ファーストイヤーセミナー	2
メディア学実習	2
メディア学基礎演習Ⅰ	2
メディア学基礎演習Ⅱ	2
メディア学演習Ⅰ	2
メディア学演習Ⅱ	2
メディア学演習Ⅲ	2
メディア学演習Ⅳ	2
卒業論文	8
○選択科目Ⅰ	
A 群	

ジャーナリズム史	2
メディア史	2
メディア・リテラシー概論	2
比較メディア論	2
ジャーナリズム論Ⅰ	2
ジャーナリズム論Ⅱ	2
B 群	
ジェンダーとメディア	2
情報行動論	2
環境情報学	2
映像情報学	2
メディア社会論	2
広報情報論	2
世論と社会	2
メディア産業論	2
メディア法制倫理	2
C 群	
コミュニケーション論	2
メディア文化史	2
メディア心理学Ⅰ	2
メディア心理学Ⅱ	2
現代文化論	2
広告論	2
マルチメディア論	2
国際コミュニケーション論	2
放送論	2
メディア学社会調査法Ⅰ	2
メディア学社会調査法Ⅱ	2
D 群	
社会統計学Ⅰ	2
社会統計学Ⅱ	2
社会学概論	4

社会思想史	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
外国書講読(英語) I	2	教育方法論	2
外国書講読(英語) II	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
外国書講読(ドイツ語) I	2	教育相談の理論と方法	2
外国書講読(ドイツ語) II	2	教職実践演習(中・高)	2
外国書講読(フランス語) I	2	教育実習指導	1
外国書講読(フランス語) II	2	教育実習 A	2
外国書講読(中国語) I	2	教育実習 B	2
外国書講読(中国語) II	2	教育実習 C	4
外国書講読(コリア語) I	2	人権教育論	2
外国書講読(コリア語) II	2	学校教育文化論(1)	2
学部共通科目群		学校教育文化論(2)	2
現代社会論	2	生涯教育計画論	2
社会問題論	2	多文化共生社会と生涯学習	2
マス・コミュニケーション論	2	学校教育図書館論	2
現代社会と労働	2	読書と豊かな人間性	2
多文化共生社会と教育文化	2	生涯学習概論	2
選択科目 I は、A～D群から 36 単位以上、学部共通		図書館情報学概論	2
科目群から 4 単位以上を履修すること。		図書館情報技術論	2
○選択科目 II		情報資源組織論 I	2
学校教育社会学	2	情報資源組織論 II	2
教職概論	2	学術情報利用教育論	2
教育原理	2	図書・図書館史	2
教育課程論	2	哲学概論(1)	2
発達と学習の心理学	2	哲学概論(2)	2
教育制度と学校経営	2	倫理学概論(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	倫理学概論(2)	2
社会科・公民科教育法	2	宗教学概論(1)	2
社会科教育法 1	2	宗教学概論(2)	2
社会科教育法 2	2	人文地理学(1)	2
公民科教育法	2	人文地理学(2)	2
道德教育の理論と実践	2	地理学総論(1)	2

地理学総論(2)	2	保健体育科目), 日本語・日本文化教育科目, 他学部・他
地誌学	2	学科科目, テュービンゲン大学 I E S 科目, 同志社女子
エリアスタディ概論	2	大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換
日本文化史概説(1)	2	科目からも履修することができる。
日本文化史概説(2)	2	○選択科目Ⅲ
東洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅲは全学共通教養教育科目の外国語教育科目
東洋文化史概説(2)	2	から, 英語 12 単位, 英語以外の外国語 8 単位, 計 20 単
西洋文化史概説(1)	2	位以上を履修すること。ただし, イタリア語は選択科目
西洋文化史概説(2)	2	Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話科目は, 2 単位
日本社会史(1)	2	を上限として卒業必要単位に算入する。
日本社会史(2)	2	○日本語・日本文化教育科目
考古学概論(1)	2	日本語・日本文化教育科目の履修は, 外国人留学生に
考古学概論(2)	2	限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。
西洋社会史(1)	2	なお, 日本語・日本文化教育科目のうち, 日本語 1(読解
西洋社会史(2)	2	AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ), 日本語 2(読解AⅥ)～日本語
アメリカ大西洋史(1)	2	2(文法Ⅸ), ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの
アメリカ大西洋史(2)	2	単位を履修した場合は, 選択科目Ⅲの英語以外の外国語
近代ヨーロッパ政治史	2	の単位に算入する。
現代ヨーロッパ政治史	2	以上, 必修科目 24 単位, 選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから 100
経済原論	4	単位以上(選択科目Ⅰ 40 単位以上, 選択科目Ⅱ 24 単位以
日本経済史 1	2	上, 選択科目Ⅲ 20 単位以上を含む), 合計 124 単位以上
日本経済史 2	2	を履修すること。
世界経済史 1	2	なお, 国際専修コースについては, 国際教育インス
世界経済史 2	2	ティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修
日本の憲法	2	した単位は, 選択科目Ⅱ又は選択科目Ⅲの英語の単位と
心理学概論(1)	2	して算入する。ただし, 専門領域科目の Japanese
心理学概論(2)	2	Society and Global Culture Concentration から履修
選択科目Ⅱから 24 単位以上履修すること。		した単位は, 8 単位を上限として選択科目ⅠD群の単位
なお, 選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科		に算入することができる。
目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティ		上記にかかわらず, 国際教養コースについては, 国際
ブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自		教育インスティテュートに示された履修方法に従って履
然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目,		修すること。

○自由科目		ビジネスワークショップ	2
教職コンピュータ基礎	2	メディカルワークショップ	2
図書館情報サービス論 I	2	取材・インタビュー実践講座	2
図書館情報サービス論 II	2	未知型探索ビジネスワークショップ	2
図書館情報資源概論	2	自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学	
図書館情報資源特論	2	技術概論 I, 科学技術概論 II, アウトリーチ実習, サイ	
図書館制度・経営論	2	エンスライティング, サイエンス・ナウ 1, サイエ	
児童サービス論	2	ンス・ナウ 2, サイエンス・ナウ 3, サイエンス・ナウ	
図書館情報学特論	2	4, サイエンス・ナウ 5, サイエンス・ナウ 6, サイエ	
情報サービス演習 I	2	ンス・ナウ 7, サイエンスとインテリジェンス, ビジネス	
情報サービス演習 II	2	ワークショップ, メディカルワークショップ, 取材・イ	
情報資源組織演習 I	2	ンタビュー実践講座, 未知型探索ビジネスワークショッ	
情報資源組織演習 II	2	プの中から 12 単位以上を履修した場合は, 選択科目 II	
図書館演習	4	の単位に算入する。	
学校図書館メディアの構成	2		
学習指導と学校図書館	2	産 業 関 係 学 科	
情報メディアの活用	2	人材養成目的	
学校図書館サービス論	2	産業関係学科は、雇用と労働に関する実際的問題の分	
特別ニーズ教育論	2	析とその解決方法の探求について、学際的な専任教員体	
スクールインターンシップ	2	制に基づく、現場に根ざした実証的・実践的な教育・研究	
科学技術概論 I	2	を遂行することをとおして、「答えがまだ見つかってい	
科学技術概論 II	2	ない問題」に対処するために課題発見力、読解力、思考	
アウトリーチ実習	2	力、文書作成力、ヒアリング力、プレゼンテーション力	
サイエンスライティング	2	を身に付けて、企業、政府・自治体、学校、労働組合等	
サイエンス・ナウ 1	2	において活躍する人材を養成することを目的とする。	
サイエンス・ナウ 2	2	科 目	履修単位
サイエンス・ナウ 3	2	○必修科目	
サイエンス・ナウ 4	2	ファーストイヤーセミナー	2
サイエンス・ナウ 5	2	現代社会と労働	2
サイエンス・ナウ 6	2	産業関係基礎論	2
サイエンス・ナウ 7	2	産業関係文献演習 I	2
サイエンスとインテリジェンス	2	産業関係文献演習 II	2

産業関係学基礎論文	2	比較産業関係論(1)	2
産業関係論(1)	2	比較産業関係論(2)	2
産業関係論(2)	2	産業関係実習 I	2
基礎経済学(1)	2	産業関係実習 II	2
基礎経済学(2)	2	産業調査実習 I	2
産業関係学演習 I	2	産業調査実習 II	2
産業関係学演習 II	2	外国書基礎講読(英語) I	2
産業関係学演習 III	2	外国書基礎講読(英語) II	2
産業関係学演習 IV	2	外国書講読(英語) I	2
卒業論文	4	外国書講読(英語) II	2
○選択科目 I		外国書講読(ドイツ語) I	2
学科専門科目群		外国書講読(ドイツ語) II	2
労働問題(1)	2	外国書講読(フランス語) I	2
労働問題(2)	2	外国書講読(フランス語) II	2
産業社会学(1)	2	外国書講読(中国語) I	2
産業社会学(2)	2	外国書講読(中国語) II	2
社会政策(1)	2	外国書講読(韓国語) I	2
社会政策(2)	2	外国書講読(韓国語) II	2
産業関係論特講 A	2	組織行動学(1)	2
産業関係論特講 B	2	組織行動学(2)	2
産業関係論特講 C	2	労働法(1)	2
産業調査統計論(1)	2	労働法(2)	2
産業調査統計論(2)	2	グローバル人的資源管理論(1)	2
社会保障法	2	グローバル人的資源管理論(2)	2
産業技術論(1)	2	実践キャリア演習	2
産業技術論(2)	2	学部共通科目群	
労働科学論(1)	2	現代社会論	2
労働科学論(2)	2	社会問題論	2
労務管理論(1)	2	マス・コミュニケーション論	2
労務管理論(2)	2	多文化共生社会と教育文化	2
労働市場論(1)	2	選択科目 I は、学科専門科目群及び全学共通教養教育	
労働市場論(2)	2	科目の「働くということ」から 34 単位以上、学部共通	

科目群から4単位以上を履修すること。

○選択科目Ⅱ

社会学概論	4	図書館情報学概論	2
学校教育社会学	2	図書館情報技術論	2
教職概論	2	情報資源組織論Ⅰ	2
教育原理	2	情報資源組織論Ⅱ	2
教育課程論	2	学術情報利用教育論	2
発達と学習の心理学	2	図書・図書館史	2
教育制度と学校経営	2	哲学概論(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	哲学概論(2)	2
社会科・公民科教育法	2	倫理学概論(1)	2
社会科教育法 1	2	倫理学概論(2)	2
社会科教育法 2	2	宗教学概論(1)	2
公民科教育法	2	宗教学概論(2)	2
道德教育の理論と実践	2	人文地理学(1)	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	人文地理学(2)	2
教育方法論	2	地理学総論(1)	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	地理学総論(2)	2
教育相談の理論と方法	2	地誌学	2
教職実践演習(中・高)	2	日本文化史概説(1)	2
教育実習指導	1	日本文化史概説(2)	2
教育実習 A	2	東洋文化史概説(1)	2
教育実習 B	2	東洋文化史概説(2)	2
教育実習 C	4	西洋文化史概説(1)	2
人権教育論	2	西洋文化史概説(2)	2
学校教育文化論(1)	2	日本社会史(1)	2
学校教育文化論(2)	2	日本社会史(2)	2
生涯教育計画論	2	考古学概論(1)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	考古学概論(2)	2
学校教育図書館論	2	西洋社会史(1)	2
読書と豊かな人間性	2	西洋社会史(2)	2
生涯学習概論	2	アメリカ大西洋史(1)	2
		アメリカ大西洋史(2)	2
		近代ヨーロッパ政治史	2

現代ヨーロッパ政治史	2	2 (文法IX), ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの	
経済原論	4	単位を履修した場合は, 選択科目IIIの英語以外の外国語	
日本経済史 1	2	の単位に算入する。	
日本経済史 2	2	以上, 必修科目 32 単位, 選択科目 I・II・IIIから 92	
世界経済史 1	2	単位以上(選択科目 I 38 単位以上, 選択科目 II 20 単位以	
世界経済史 2	2	上, 選択科目 III 20 単位以上を含む), 合計 124 単位以上	
日本の憲法	2	を履修すること。	
心理学概論(1)	2	なお, 国際専修コースについては, 国際教育インス	
心理学概論(2)	2	ティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修	
選択科目 II から 20 単位以上履修すること。		した単位は, 選択科目 II 又は選択科目 III の英語の単位と	
なお, 選択科目 II は全学共通教養教育科目(同志社科		して算入する。ただし, 専門領域科目の Japanese	
目, キャリア形成支援科目(「働くということ」を除く),		Society and Global Culture Concentration から履修	
国際教養科目, クリエイティブ・ジャパン科目, 人文科学		した単位は, 8 単位を上限として選択科目 I 学科専門科	
系科目, 社会科学系科目, 自然・人間科学系科目, 複合領		目群の単位に算入することができる。	
域科目, プロジェクト科目, 保健体育科目), 日本語・日		上記にかかわらず, 国際教養コースについては, 国際	
本文化教育科目, 他学部・他学科科目, テュービンゲン大		教育インスティテュートに示された履修方法に従って履	
学 I E S 科目, 同志社女子大学単位互換科目及び大学コ		修すること。	
ンソーシアム京都単位互換科目からも履修することがで		○自由科目	
きる。		教職コンピュータ基礎	2
○選択科目 III		図書館情報サービス論 I	2
Industrial Relations in English I	2	図書館情報サービス論 II	2
Industrial Relations in English II	2	図書館情報資源概論	2
選択科目 III は上記科目及び全学共通教養教育科目の外		図書館情報資源特論	2
国語教育科目から, 英語 12 単位, 英語以外の外国語 8 単		図書館制度・経営論	2
位, 計 20 単位以上を履修すること。ただし, イタリア		児童サービス論	2
語は選択科目 II の履修単位に算入する。各外国語の会話		図書館情報学特論	2
科目は, 2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。		情報サービス演習 I	2
○日本語・日本文化教育科目		情報サービス演習 II	2
日本語・日本文化教育科目の履修は, 外国人留学生に		情報資源組織演習 I	2
限る。履修した単位は選択科目 II の単位として算入する。		情報資源組織演習 II	2
なお, 日本語・日本文化教育科目のうち, 日本語 1(読解		図書館演習	4
A VI)～日本語 1(文法IX), 日本語 2(読解 A VI)～日本語		学校図書館メディアの構成	2

学習指導と学校図書館	2	教育文化学科	
情報メディアの活用	2	人材養成目的	
学校図書館サービス論	2	教育文化学科は、多文化共生社会における教育文化に	
特別ニーズ教育論	2	よる人間形成に着目し、異なる文化背景を持つ人間が交	
スクールインターンシップ	2	わる際に生じる諸問題を学際的な方法を用いて究明し、問	
科学技術概論 I	2	題解決へ至る道筋を追求する活動をつうじて、学生が異	
科学技術概論 II	2	文化間の相互理解を促進する能力を養い、多様な文化の	
アウトリーチ実習	2	中で生活し、学び、働く人々に的確な援助と指導ができ	
サイエンスライティング	2	る人材の養成を目的とする。	
サイエンス・ナウ 1	2	科 目	履修単位
サイエンス・ナウ 2	2	○コア科目	
サイエンス・ナウ 3	2	X 群	
サイエンス・ナウ 4	2	ファーストイヤーセミナー I	2
サイエンス・ナウ 5	2	ファーストイヤーセミナー II	2
サイエンス・ナウ 6	2	多文化共生社会と人間形成	2
サイエンス・ナウ 7	2	基礎演習 I	2
サイエンスとインテリジェンス	2	基礎演習 II A	2
ビジネスワークショップ	2	基礎演習 II B	2
メディカルワークショップ	2	基礎演習 II C	2
取材・インタビュー実践講座	2	基礎演習 II D	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2	基礎演習 II E	2
自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学		基礎演習 II F	2
技術概論 I，科学技術概論 II，アウトリーチ実習，サイ		基礎演習 II G	2
エンスライティング，サイエンス・ナウ 1，サイエン		教育文化学演習 I	2
ス・ナウ 2，サイエンス・ナウ 3，サイエンス・ナウ		教育文化学演習 II	2
4，サイエンス・ナウ 5，サイエンス・ナウ 6，サイエン		コア科目 X群から 14 単位を履修すること。ただし，	
ス・ナウ 7，サイエンスとインテリジェンス，ビジネス		基礎演習 II A～II Gから 2 単位を超えて履修した単位は，	
ワークショップ，メディカルワークショップ，取材・イ		メジャー科目の単位に算入する。	
ンタビュー実践講座，未知型探索ビジネスワークショッ		Y 群	
プの中から 12 単位以上を履修した場合は，選択科目 II		教育文化学演習 III	2
の単位に算入する。		教育文化学演習 IV	2
		卒業論文	8

卒業研究	4	多文化共生社会と生涯学習	2
卒業論文または卒業研究のいずれかを履修しなければ ならない。なお、卒業論文を履修する場合は教育文化学演 習Ⅲ及びⅣを履修すること。		多文化共生社会と人間形成特論(1)	2
		多文化共生社会と人間形成特論(2)	2
		多文化共生社会と移民教育文化(1)	2
		多文化共生社会と移民教育文化(2)	2
○メジャー科目		学校教育文化論(1)	2
A 群		学校教育文化論(2)	2
キリスト教教育文化論(1)	2	学校教育制度論	2
キリスト教教育文化論(2)	2	生涯教育計画論	2
日本教育文化論(1)	2	教育哲学	2
日本教育文化論(2)	2	教育心理学	2
西洋教育文化論(1)	2	教育行政学	2
西洋教育文化論(2)	2	教育人間学	2
アジア教育文化論(1)	2	教育社会学	2
アジア教育文化論(2)	2		
比較教育文化論(1)	2	C 群	
比較教育文化論(2)	2	体験教育実習	2
Education and World Culture(1)	2	異文化体験実習	2
Education and World Culture(2)	2	サービスマーケティング実習	2
言語教育文化論(1)	2	I C T教育実習	2
言語教育文化論(2)	2	ホリスティック教育実習	2
B 群		冒険教育実習	2
キリスト教と人間形成	2	Field Research Practicum Kyoto	2
ジェンダーと人間形成	2	Field Research Practicum Shanghai	2
家族と人間形成	2	D 群	
Topics in Character Formation and Education	2	英書講読 I A (1)	2
Topics in Multiculturalism and Education	2	英書講読 I A (2)	2
Topics in Education and Development	2	英書講読 I B (1)	2
多文化共生社会と海外教育事情	2	英書講読 I B (2)	2
多文化共生社会と教育思想	2	英書講読 I C (1)	2
多文化共生社会と教育史	2	英書講読 I C (2)	2
		英書講読 II A (1)	2
		英書講読 II A (2)	2

英書講読 II B (1)	2	エリアスタディ概論	2
英書講読 II B (2)	2	社会人類学	4
英書講読 II C (1)	2	学校教育社会学	2
英書講読 II C (2)	2	教職概論	2
英書講読 III A (1)	2	教育原理	2
英書講読 III A (2)	2	教育課程論	2
英書講読 III B (1)	2	発達と学習の心理学	2
英書講読 III B (2)	2	教育制度と学校経営	2
独書講読 I	2	社会科・地理歴史科教育法	2
独書講読 II (1)	2	社会科・公民科教育法	2
独書講読 II (2)	2	社会科教育法 1	2
仏書講読 I	2	社会科教育法 2	2
仏書講読 II (1)	2	地理歴史科教育法	2
仏書講読 II (2)	2	公民科教育法	2
漢文古文講読 I	2	道德教育の理論と実践	2
漢文古文講読 II (1)	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
漢文古文講読 II (2)	2	教育方法論	2
メジャー科目は、A群 20 単位、B群 20 単位、C群 2 単位、D群 4 単位を含めて A～D 群から 46 単位以上(卒業研究を履修する場合は 54 単位以上)を履修すること。		生徒・進路指導の理論と方法	2
		教育相談の理論と方法	2
		教職実践演習(中・高)	2
外国人留学生が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本の教育の単位を履修した場合は、メジャー科目 B 群の履修単位に算入する。		教育実習指導	1
		教育実習 A	2
		教育実習 B	2
		教育実習 C	4
○選択科目 I		人権教育論	2
現代社会論	2	読書と豊かな人間性	2
社会問題論	2	生涯学習概論	2
マス・コミュニケーション論	2	図書・図書館史	2
現代社会と労働	2	情報資源組織論 I	2
多文化共生社会と教育文化	2	情報資源組織論 II	2
選択科目 I から 4 単位以上を履修すること。		図書館情報技術論	2
○選択科目 II		哲学概論(1)	2
社会学概論	4		

哲学概論(2)	2	世界経済史 2	2
倫理学概論(1)	2	日本の憲法	2
倫理学概論(2)	2	心理学概論(1)	2
宗教学概論(1)	2	心理学概論(2)	2
宗教学概論(2)	2	選択科目Ⅱから20単位以上履修すること。	
人文地理学(1)	2	なお、選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科	
人文地理学(2)	2	目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティ	
地理学総論(1)	2	ブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自	
地理学総論(2)	2	然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目,	
地誌学	2	保健体育科目), 日本語・日本文化教育科目, 他学部・他	
日本文化史概説(1)	2	学科科目, テュービンゲン大学 I E S 科目, 同志社女子	
日本文化史概説(2)	2	大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換	
東洋文化史概説(1)	2	科目からも履修することができる。	
東洋文化史概説(2)	2	○選択科目Ⅲ	
西洋文化史概説(1)	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目から8単位以	
西洋文化史概説(2)	2	上履修すること。ただし, イタリア語は選択科目Ⅱの履	
日本社会史(1)	2	修単位に算入する。各外国語の会話科目は, 2単位を上限	
日本社会史(2)	2	として卒業必要単位に算入する。	
考古学概論(1)	2	○日本語・日本文化教育科目	
考古学概論(2)	2	日本語・日本文化教育科目の履修は, 外国人留学生に	
西洋社会史(1)	2	限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。	
西洋社会史(2)	2	なお, 日本語・日本文化教育科目のうち, 日本語1(読解	
アメリカ大西洋史(1)	2	A VI)～日本語1(文法IX), 日本語2(読解A VI)～日本語	
アメリカ大西洋史(2)	2	2(文法IX), ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの	
ジャーナリズム史	2	単位を履修した場合は, 選択科目Ⅲの単位に算入する。	
メディア史	2	以上, コア科目26単位(卒業研究を履修する場合は18	
近代ヨーロッパ政治史	2	単位)に加えて, メジャー科目46単位以上(卒業研究を履	
現代ヨーロッパ政治史	2	修する場合は54単位以上), 選択科目Ⅰ4単位以上, 選択	
経済原論	4	科目Ⅱ20単位以上, 選択科目Ⅲ8単位以上を含めてメジ	
日本経済史 1	2	ャー科目及び選択科目Ⅰ～Ⅲから合計98単位以上(卒	
日本経済史 2	2	業研究を履修する場合は106単位以上), 合計124単位	
世界経済史 1	2	以上を履修すること。	

なお、国際専修コースについては、国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅲの卒業に必要な単位数を満たしていない場合は選択科目Ⅲの単位として、選択科目Ⅲの卒業に必要な単位数を満たしている場合はメジャー科目 D 群の単位として算入され、メジャー科目 D 群の卒業に必要な単位数を満たしている場合は選択科目Ⅱの単位として算入する。ただし、専門領域科目の Japanese Society and Global Culture Concentration から履修した単位は、メジャー科目 B 群の卒業に必要な単位数を満たしていない場合は、8 単位を上限としてメジャー科目 B 群の単位に算入する。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論 I	2
図書館情報サービス論 II	2
図書館情報資源概論	2
図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2
児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習 I	2
情報サービス演習 II	2
情報資源組織演習 I	2
情報資源組織演習 II	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2

学術情報利用教育論	2
学校教育図書館論	2
図書館情報学概論	2
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
科学技術概論 I	2
科学技術概論 II	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンス・ナウ 1	2
サイエンス・ナウ 2	2
サイエンス・ナウ 3	2
サイエンス・ナウ 4	2
サイエンス・ナウ 5	2
サイエンス・ナウ 6	2
サイエンス・ナウ 7	2
サイエンスとインテリジェンス	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2

自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学技術概論 I，科学技術概論 II，アウトリーチ実習，サイエンスライティング，サイエンス・ナウ 1，サイエンス・ナウ 2，サイエンス・ナウ 3，サイエンス・ナウ 4，サイエンス・ナウ 5，サイエンス・ナウ 6，サイエンス・ナウ 7，サイエンスとインテリジェンス，ビジネスワークショップ，メディカルワークショップ，取材・インタビュー実践講座，未知型探索ビジネスワークショップの中から 12 単位以上を履修した場合は、選択科目Ⅱの単位に算入する。

法 学 部

人材養成目的

法学部は、法学及び政治学について、体系的・専門的な知識の伝達と実践的・双方向的な教育をとおして、法学・政治学に関する幅広く深い専門知識を身に付けて、法曹三者、法律専門職、企業の法務部門・企画・総務部門、ジャーナリスト、公務員、大学・シンクタンクなどの研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

法 律 学 科

人材養成目的

法律学科は、法学について、体系的・専門的な知識の伝達と、実践的・双方向的な教育をとおして、法学の専門的知識と、それを活用して法的問題の妥当な解決を図る能力（いわゆるリーガルマインド）を身に付けて、法曹三者、企業の法務・知的財産・人事・総務部門、公務員、法律専門職、研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

科 目	履修単位
○1 類	
リーガル・リサーチ	2
○2 類	
民法概論	2
国際社会と民事法	2
民事手続法概論	2
商法概論	2
知的財産法概論	2
雇用と法	2
基本的人権概論	2

行政法概論	2
刑法概論	2
刑事手続法概論	2
国際社会と法	2
法と社会	2

上記2類科目中から、18単位以上を選択履修すること。

○3 類

A 群

民法 I a(総則①)	2
民法 I b(総則②)	2
民法 II(物権)	2
民法 IIIa(債権総論①)	2
民法 IIIb(契約)	2
民法 IVa(担保物権)	2
民法 IVb(債権総論②)	2
民法 V(不法行為)	2
民法 VIa(親族)	2
民法 VIb(相続)	2
国際財産法	2
国際家族法	2
国際民事手続法	2
国際取引法	2
民事訴訟法	4
A D R ・ 仲 裁 法	2
民事執行・保全法	2
倒産処理法 I(破産法)	2
倒産処理法 II(民事再生法・会社更生法)	2
会社法 I	2
会社法 II	2
会社法 III	2
商法総則・商行為法 I	2
商法総則・商行為法 II	2

経済法 I	2	刑事訴訟法 I	2
経済法 II	2	刑事訴訟法 II	2
手形法・小切手法	2	犯罪学	2
保険法	2	刑事政策	2
知的財産法 A	2	犯罪対策各論	2
知的財産法 B	2	国際法総論 I	2
知的財産法 C	2	国際法総論 II	2
雇用関係法 I	2	領域の国際法	2
雇用関係法 II	2	国際紛争と法	2
労使関係法	2	国際組織法	2
社会保障法 I	2	国際経済法	2
社会保障法 II	2	国際人権法	2
雇用政策法	2	国際環境法	2
国際労働法	2	西洋法史 I	2
統治の原理 I	2	西洋法史 II	2
統治の原理 II	2	日本法史 I	2
人権保障の原理 I	2	日本法史 II	2
人権保障の原理 II	2	西洋法思想史	2
比較憲法	2	近代法思想の展開	2
憲法訴訟	2	東洋法史 I	2
行政法総論 I	2	東洋法史 II	2
行政法総論 II	2	法社会学	2
行政救済法 I	2	現代法社会学の展開	2
行政救済法 II	2	法哲学	2
環境法	2	現代法哲学の展開	2
地方自治法	2	英米法総論	2
税法 I	2	アメリカ法	2
税法 II	2	イギリス法	2
刑法総論 I	2	ドイツ法	2
刑法総論 II	2	フランス法	2
刑法各論 I	2	B 群	
刑法各論 II	2	文献研究	2

C 群		合わせて 60 単位まで卒業必要単位に算入する。
2 年次演習	2	○ 4 類
3 年次演習 1	2	国際関係入門
3 年次演習 2	2	日本外交論
3・4 年次合同演習 1	2	国際関係史
3・4 年次合同演習 2	2	国際関係理論
3・4 年次合同演習 3	2	国際政治経済論
3・4 年次合同演習 4	2	国際安全保障論
4 年次演習 1	2	東アジア国際関係論
4 年次演習 2	1	日本アジア関係論
4 年次演習 3	2	アメリカ政治外交論
D 群		EU 政治論
アリゾナ大学科目 1	1	中国政治論
アリゾナ大学科目 2	2	国際開発協力論
アリゾナ大学科目 3	3	国際統合論
アリゾナ大学科目 4	4	国際機構論
E 群		東南アジア地域研究
会社法特講 I	2	南アジア地域研究
会社法特講 II	2	中東地域研究
憲法特講 I	2	ロシア・東欧地域研究
憲法特講 II	2	アフリカ地域研究
行政法特講	2	中南米地域研究
上記 3 類科目中から、52 単位以上を選択履修すること。ただし、2 類で最低必要単位数以上を履修した場合は、3 類の履修単位に算入する。		日本政治入門
文献研究は 8 単位まで 3 類の必要単位に算入し、8 単位を超えて履修した科目の単位は、7 類の履修単位に算入する。		政治思想入門
C 群の演習科目は合計 10 単位まで卒業必要単位に算入する。		政治参加と選挙
アリゾナ大学における履修科目はアリゾナ大学科目 1～4 とし、他の大学における履修科目の単位認定と		現代民主主義論
		政党政治論
		近代日本政治史
		近代ヨーロッパ政治史
		近代の政治思想
		政治思想の源流
		比較政治

官僚制と政治	2	現代政治特殊講義	2
議会政治論	2	政治史特殊講義	2
地方政府論	2	政治思想特殊講義	2
福祉国家と政治	2	経済原論	4
利益集団論	2	B 群	
政治経済学	2	特殊講義 A	2
政治行動論	2	特殊講義 B	2
現代日本政治史	2	C 群	
現代ヨーロッパ政治史	2	司法特講 I	2
アメリカ政治史	2	司法特講 II	2
中国政治史	2	司法特講 III	2
政治指導論	2	司法特講 IV	2
現代の政治思想	2	D 群	
近代日本政治思想史	2	大学院共通科目 I	2
現代日本政治思想史	2	大学院共通科目 II	4
公共経済 1	2	上記 5 類科目中から選択履修すること。ただし、5 類	
公共経済 2	2	B 群は 8 単位まで卒業必要単位に算入する。	
地域経済	2	○ 6 類	
都市経済	2	A 群	
経営学	2	原典講読(アメリカの法と政治)	1
		原典講読(イギリスの法と政治)	1
本学部が副専攻科目と認めるものにより、副専攻パッケージを構成する。副専攻科目を履修した場合、当該科目の単位のうち、法律学科設置科目は設置されている類の単位とし、その他の科目は 4 類の単位に算入する。		上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語のうち、卒業必要単位と認められるものから 8 単位以上を選択履修すること。	
○ 5 類		ただし、TOEIC, TOEFL, 実用英語技能検定試験, 国際連合公用語英語検定試験, IELTS で一定水準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、6 類 A 群の単位に認定する。	
A 群		B 群	
社会調査概論	2	原典講読(ドイツの法と政治)	1
政治データ分析	2	原典講読(フランスの法と政治)	1
国際関係特殊講義	2	原典講読(中国の法と政治)	1
行政学	2		
地方自治論	2		
政策過程論	2		

原典講読(ロシアの法と政治) 1
 原典講読(スペインの法と政治) 1
 上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語及びイタリア語以外の外国語のうち、卒業必要単位と認められるものから8単位以上を選択履修すること。

全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語及びコリア語の各外国語入門Ⅰは、2単位のみ6類B群の履修単位に算入し、各外国語入門Ⅱは、履修した外国語入門Ⅰと同一の外国語の科目2単位のみ6類B群の履修単位に算入する。

外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、6類B群の履修単位に算入する。

○7 類

社会保障論	4
労働問題(1)	2
労働問題(2)	2
社会思想史	2
同志社とキリスト教	2
古代イスラエル宗教史 1	2
古代イスラエル宗教史 2	2
宗教学概論(1)	2
宗教学概論(2)	2
NPO・ボランティア活動論	2
日本文化史概説(1)	2
日本文化史概説(2)	2
東洋文化史概説(1)	2

東洋文化史概説(2)	2
西洋文化史概説(1)	2
西洋文化史概説(2)	2
人文地理学(1)	2
人文地理学(2)	2
地誌学	2
地理学総論(1)	2
地理学総論(2)	2
哲学概論(1)	2
哲学概論(2)	2
倫理学概論(1)	2
倫理学概論(2)	2
心理学概論(1)	2
心理学概論(2)	2
社会学概論	4

上記7類科目のほか、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)及び日本語・日本文化教育科目のうち、卒業必要単位と認められる科目、同志社女子大学単位互換科目並びに大学コンソーシアム京都単位互換科目から、42単位以上を選択履修すること。ただし、同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目は、合計12単位まで、7類の履修単位に算入する。

なお、日本語・日本文化教育科目は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者が履修することができる。

また、学則第27条の2に定める留学及び早稲田大学への学生交流による履修科目を留学等単位認定科目として7類の単位に認定することができる。

1 類科目, 4 類科目及び 5 類科目の履修単位, 並びに 3 類で最低必要単位数を超えて履修した科目の単位 (2 類科目で最低必要単位数以上を履修し, 3 類の履修単位に算入したものを含む), 及び 6 類で最低必要単位数を超えて履修した科目の単位 (全学共通教養教育科目 [外国語教育科目] のドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語及び韓国語の各外国語入門 I・II で, 6 類の履修単位に算入されないものを含む) は, 7 類の履修単位に算入する。

以上 1 類~7 類のそれぞれの最低必要単位数以上を履修し, 合計 128 単位以上を履修すること。

法曹養成プログラムを置く。法曹養成プログラムの修了に必要な要件は, 別に定める。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
教職概論	2
教育原理	2
発達と学習の心理学	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
教育課程論	2
教育方法論	2
社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・公民科教育法	2
社会科教育法 1	2
社会科教育法 2	2
地理歴史科教育法	2
公民科教育法	2
道徳教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2

教職実践演習 (中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
人権教育論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
学校教育文化論 (1)	2
学校教育文化論 (2)	2
生涯教育計画論	2
多文化共生社会と生涯学習	2
学校教育図書館論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2
学校図書館サービス論	2

自由科目は, 卒業必要単位に算入しない。

希望者は, 他学部の科目であっても, 当該学部が認めた科目は, これを履修することができる。履修した他学部の科目 (本学部が副専攻科目と認めるものは除く) は, 卒業に必要な単位数に算入しない。

上記にかかわらず, 国際教養コースについては, 国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

政治学科

人材養成目的

政治学科は, 政治学について, 体系的・専門的な知識の伝達と, 実践的・双方向的な教育をとおして, 政治学の専門的知識と, 問題発見・解決能力を身に付けて, 公

務員，国際公務員，企業の企画・総務部門，ジャーナリスト，研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

科 目	履修単位		
○ 1 類		東アジア国際関係論	2
政治学入門	2	日本アジア関係論	2
国際関係入門	2	アメリカ政治外交論	2
日本政治入門	2	E U政治論	2
政治思想入門	2	中国政治論	2
○ 2 類		国際開発協力論	2
政治学基礎 A	2	国際統合論	2
政治学基礎 B	2	国際機構論	2
日本外交論	2	東南アジア地域研究	2
国際関係史	2	南アジア地域研究	2
国際関係理論	2	中東地域研究	2
国際政治経済論	2	ロシア・東欧地域研究	2
国際安全保障論	2	アフリカ地域研究	2
政治参加と選挙	2	中南米地域研究	2
現代民主主義論	2	国際関係特殊講義	2
政党政治論	2	B 群	
近代日本政治史	2	比較政治	2
近代ヨーロッパ政治史	2	官僚制と政治	2
近代の政治思想	2	議会政治論	2
政治思想の源流	2	地方政府論	2
政治学への誘い	2	福祉国家と政治	2
社会調査概論	2	利益集団論	2
政治データ分析	2	政治経済学	2
基本的人権概論	2	政治行動論	2
上記 1 類及び 2 類から合計 20 単位以上を選択履修すること。		行政学	2
○ 3 類		地方自治論	2
A 群		政策過程論	2
		現代政治特殊講義	2
		C 群	
		現代日本政治史	2
		現代ヨーロッパ政治史	2
		アメリカ政治史	2

中国政治史	2	税法 I	2
政治指導論	2	税法 II	2
現代の政治思想	2	国際法総論 I	2
近代日本政治思想史	2	国際法総論 II	2
現代日本政治思想史	2	領域の国際法	2
西洋法思想史	2	国際紛争と法	2
近代法思想の展開	2	国際組織法	2
法哲学	2	国際人権法	2
現代法哲学の展開	2	国際環境法	2
政治史特殊講義	2	経済原論	4
政治思想特殊講義	2	経済数学 I	2
国際関係特殊講義，現代政治特殊講義，政治史特殊講義及び政治思想特殊講義は，各 6 単位まで 3 類の必要単位に算入し，6 単位を超えて履修した単位は，7 類の単位に算入する。		経済数学 II	2
		公共経済 1	2
		公共経済 2	2
		統計 I	2
		統計 II	2
上記 3 類の各群から，それぞれ 4 単位以上を選択履修し，かつ A 群，B 群又は C 群のいずれか 1 つの群から，さらに 10 単位以上を選択履修すること。		○ 5 類	
		A 群	
		2 年次演習	2
		3 年次演習 1	2
		3 年次演習 2	2
		3・4 年次合同演習 1	2
		3・4 年次合同演習 2	2
		3・4 年次合同演習 3	2
		3・4 年次合同演習 4	2
		4 年次演習 1	2
		4 年次演習 2	1
		4 年次演習 3	2
		B 群	
		文献研究	2
		上記 1 類～5 類から合計 70 単位以上を選択履修すること。ただし，A 群の演習科目は合計 10 単位まで卒業	
統治の原理 I	2		
統治の原理 II	2		
人権保障の原理 I	2		
人権保障の原理 II	2		
比較憲法	2		
憲法訴訟	2		
行政法概論	2		
行政法総論 I	2		
行政法総論 II	2		
行政救済法 I	2		
行政救済法 II	2		
環境法	2		
地方自治法	2		

必要単位に算入する。

文献研究は8単位まで5類の必要単位に算入し、8単位を超えて履修した科目の単位は、7類の履修単位に算入する。

○6 類

A 群

原典講読(アメリカの法と政治) 1

原典講読(イギリスの法と政治) 1

上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語のうち、卒業必要単位と認められるものから8単位以上を選択履修すること。

ただし、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定試験、国際連合公用語英語検定試験、IELTSで一定水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、6類A群の単位に認定する。

B 群

原典講読(ドイツの法と政治) 1

原典講読(フランスの法と政治) 1

原典講読(中国の法と政治) 1

原典講読(ロシアの法と政治) 1

原典講読(スペインの法と政治) 1

上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語及びイタリア語以外の外国語のうち、卒業必要単位と認められるものから8単位以上を選択履修すること。

全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語及びコリア語の各外国語入門Ⅰは、2単位のみ6類B群の履修単位に算入し、各外国語入門Ⅱは、履修した外国語入門Ⅰと同一の外国語の科目2単位のみ6類B群の履修単位に算入する。

外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入

学した者が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、6類B群の履修単位に算入する。

○7 類

A 群

民法概論 2

国際社会と民事法 2

民事手続法概論 2

商法概論 2

知的財産法概論 2

雇用と法 2

刑法概論 2

刑事手続法概論 2

国際社会と法 2

法と社会 2

民法Ⅰa(総則①) 2

民法Ⅰb(総則②) 2

民法Ⅱ(物権) 2

民法Ⅲa(債権総論①) 2

民法Ⅲb(契約) 2

民法Ⅳa(担保物権) 2

民法Ⅳb(債権総論②) 2

民法Ⅴ(不法行為) 2

民法Ⅵa(親族) 2

民法Ⅵb(相続) 2

国際財産法 2

国際家族法 2

国際民事手続法 2

国際取引法 2

民事訴訟法 4

ADR・仲裁法	2	国際経済法	2
民事執行・保全法	2	西洋法史 I	2
倒産処理法 I (破産法)	2	西洋法史 II	2
倒産処理法 II (民事再生法・会社更生法)	2	日本法史 I	2
会社法 I	2	日本法史 II	2
会社法 II	2	東洋法史 I	2
会社法 III	2	東洋法史 II	2
商法総則・商行為法 I	2	法社会学	2
商法総則・商行為法 II	2	現代法社会学の展開	2
経済法 I	2	英米法総論	2
経済法 II	2	アメリカ法	2
手形法・小切手法	2	イギリス法	2
保険法	2	ドイツ法	2
知的財産法 A	2	フランス法	2
知的財産法 B	2	B 群	
知的財産法 C	2	特殊講義 A	2
雇用関係法 I	2	特殊講義 B	2
雇用関係法 II	2	7 類B 群は、8 単位まで卒業必要単位に算入する。	
労使関係法	2	C 群	
社会保障法 I	2	大学院共通科目 I	2
社会保障法 II	2	大学院共通科目 II	4
雇用政策法	2	D 群	
国際労働法	2	中級ミクロ経済学 1	2
刑法総論 I	2	中級ミクロ経済学 2	2
刑法総論 II	2	中級マクロ経済学 1	2
刑法各論 I	2	中級マクロ経済学 2	2
刑法各論 II	2	計量経済学 1	2
刑事訴訟法 I	2	計量経済学 2	2
刑事訴訟法 II	2	経済予測 1	2
犯罪学	2	経済予測 2	2
刑事政策	2	金融 1	2
犯罪対策各論	2	金融 2	2

労働経済 1	2	社会政策 1	2
労働経済 2	2	社会政策 2	2
福祉経済 1	2	現代資本主義 1	2
福祉経済 2	2	現代資本主義 2	2
地域経済	2	宗教経済 1	2
都市経済	2	宗教経済 2	2
経済政策 1	2	文化経済 1	2
経済政策 2	2	文科経済 2	2
開発経済 1	2	エネルギー経済 1	2
開発経済 2	2	エネルギー経済 2	2
企業経済 1	2	国際経済	2
企業経済 2	2	国際マクロ経済学	2
産業組織 1	2	政治経済学 1	2
産業組織 2	2	政治経済学 2	2
日本経済史 1	2	環境政策 1	2
日本経済史 2	2	環境政策 2	2
京都経済史 1	2	NPO・ボランティア活動論	2
京都経済史 2	2	社会保障論	4
世界経済史 1	2	労働問題(1)	2
世界経済史 2	2	労働問題(2)	2
比較社会経済	2	地域社会学	4
比較社会経済史	2	産業社会学(1)	2
経済思想史 1	2	産業社会学(2)	2
経済思想史 2	2	社会心理学	4
現代経済思想史	2	コミュニケーション論	2
日本経済思想史	2	情報行動論	2
アジア経済	2	現代哲学(1)	2
アジア経済史	2	現代哲学(2)	2
中国経済	2	社会思想史	2
中国経済史	2	日英文化比較(1)	2
アメリカ経済	2	日英文化比較(2)	2
アメリカ経済史	2	西洋社会史(1)	2

西洋社会史(2)	2	目, 外国語教育科目, 保健体育科目)及び日本語・日本文化教育科目のうち, 卒業必要単位と認められる科目, 同志社女子大学単位互換科目並びに大学コンソーシアム京都単位互換科目から, 42 単位以上を選択履修すること。	
商業史	2	ただし, 同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目は, 合計 12 単位まで, 7 類の履修単位に算入する。	
経済学	2		
メディア文化史	2		
同志社とキリスト教	2		
古代イスラエル宗教史 1	2		
古代イスラエル宗教史 2	2		
宗教学概論(1)	2	なお, 日本語・日本文化教育科目は外国人留学生のうち, 外国人留学生入学試験により入学した者が履修することができる。	
宗教学概論(2)	2		
日本文化史概説(1)	2		
日本文化史概説(2)	2	また, 学則第 27 条の 2 に定める留学及び早稲田大学への学生交流による履修科目を留学等単位認定科目として 7 類の単位に認定することがある。	
東洋文化史概説(1)	2		
東洋文化史概説(2)	2		
西洋文化史概説(1)	2	1 類~3 類, 4 類並びに 5 類で最低必要単位数を超えて履修した科目の単位, 及び 6 類で最低必要単位数を超えて履修した科目の単位(全学共通教養教育科目[外国語教育科目]のドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語及びコリア語の各外国語入門 I・II で, 6 類の履修単位に算入されないものを含む)は, 7 類の履修単位に算入する。	
西洋文化史概説(2)	2		
人文地理学(1)	2		
人文地理学(2)	2		
地誌学	2		
地理学総論(1)	2		
地理学総論(2)	2		
社会人類学	4	上記科目, 並びに, 本学部が副専攻科目と認めるものにより, 副専攻パッケージを構成する。副専攻科目を履修した場合, 当該科目の単位のうち, 政治学科設置科目は設置されている類の単位とし, その他の科目は 7 類の単位に算入する。	
哲学概論(1)	2		
哲学概論(2)	2		
倫理学概論(1)	2		
倫理学概論(2)	2		
心理学概論(1)	2	以上 1 類~7 類のそれぞれの最低必要単位数以上を履修し, 合計 128 単位以上を履修すること。	
心理学概論(2)	2		
社会学概論	4	○自由科目	
上記 7 類科目のほか, 全学共通教養教育科目(同志社科目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科		教職コンピュータ基礎	2
		教職概論	2
		教育原理	2
		発達と学習の心理学	2

教育制度と学校経営	2	自由科目は、卒業必要単位に算入しない。	
学校教育社会学	2	希望者は、他学部の科目であっても、当該学部が認め	
教育課程論	2	た科目は、これを履修することができる。履修した他学	
教育方法論	2	部の科目(本学部が副専攻科目と認めるものは除く)は、	
社会科・地理歴史科教育法	2	卒業に必要な単位数に算入しない。	
社会科・公民科教育法	2	上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際	
社会科教育法 1	2	教育インスティテュートに示された履修方法に従って履	
社会科教育法 2	2	修すること。	
地理歴史科教育法	2		
公民科教育法	2		
道徳教育の理論と実践	2	経 済 学 部	
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	経 済 学 科	
生徒・進路指導の理論と方法	2	人材養成目的	
教育相談の理論と方法	2	経済学部経済学科は、長い歴史に培われてきた教育研	
教職実践演習(中・高)	2	究環境の下で、幅広い教養を身に付けるための科目、経	
教育実習指導	1	済学の系統的・段階的理解をはかる科目、及び問題発見と	
教育実習 A	2	問題解決能力の強化をはかる科目を提供し、主体的な学	
教育実習 B	2	修を促すことにより、国際化する経済・社会の状況に対応	
教育実習 C	4	し、広く社会のために行動しうる、自治自立の人物を養	
人権教育論	2	成することを目的とする。	
特別ニーズ教育論	2	科 目	履修単位
スクールインターンシップ	2	○1 類	
学校教育文化論(1)	2	導入科目	
学校教育文化論(2)	2	経済理論入門	2
生涯教育計画論	2	日本経済入門	2
多文化共生社会と生涯学習	2	経済学の歴史	2
学校教育図書館論	2	I T基礎論 1	2
学校図書館メディアの構成	2	基礎演習	2
学習指導と学校図書館	2	基礎科目	
読書と豊かな人間性	2	初級ミクロ経済学 I	2
情報メディアの活用	2	初級ミクロ経済学 II	2
学校図書館サービス論	2	初級マクロ経済学 I	2

初級マクロ経済学 II	2	文化経済 2	2
経済数学 I	2	公共経済 1	2
経済数学 II	2	公共経済 2	2
統計 I	2	金融 1	2
統計 II	2	金融 2	2
経済史	2	財政 1	2
環境と資源の基礎	2	財政 2	2
IT基礎論 2	2	労働経済 1	2
データ処理基礎論	2	労働経済 2	2
基幹科目		福祉経済 1	2
中級ミクロ経済学 1	2	福祉経済 2	2
中級ミクロ経済学 2	2	社会政策 1	2
ゲーム理論	2	社会政策 2	2
中級マクロ経済学 1	2	経済政策 1	2
中級マクロ経済学 2	2	経済政策 2	2
応用マクロ経済学	2	環境政策 1	2
数理経済 1	2	環境政策 2	2
数理経済 2	2	エネルギー経済 1	2
国際経済	2	エネルギー経済 2	2
国際マクロ経済学	2	エコロジー経済 1	2
中級経済数学 1	2	エコロジー経済 2	2
中級経済数学 2	2	計量経済学 1	2
行動経済学	2	計量経済学 2	2
地域経済	2	計量分析実習 1	2
都市経済	2	計量分析実習 2	2
企業経済 1	2	経済予測 1	2
企業経済 2	2	経済予測 2	2
産業組織 1	2	統計実習	2
産業組織 2	2	経済思想史 1	2
宗教経済 1	2	経済思想史 2	2
宗教経済 2	2	現代経済思想史	2
文化経済 1	2	日本経済思想史	2

国際政治経済 1	2	ビジネスシステム論	2
国際政治経済 2	2	演習	
現代資本主義 1	2	2年次演習	2
現代資本主義 2	2	3年次演習 1	2
政治経済学 1	2	3年次演習 2	2
政治経済学 2	2	卒業研究	6
日本経済史 1	2	演習関連科目	
日本経済史 2	2	2年次演習関連科目	2
京都経済史 1	2	3年次演習関連科目 1	2
京都経済史 2	2	3年次演習関連科目 2	2
アジア経済	2	エコノミクス・ワークショップ	
アジア経済史	2	エコノミクス・ワークショップ・プライマリ 1	2
中国経済	2	エコノミクス・ワークショップ・プライマリ 2	2
中国経済史	2	エコノミクス・ワークショップ・アドバンスト	2
世界経済史 1	2	基礎科目から 18 単位以上、このうちグレードⅡ（初級 ミクロ経済学Ⅱ，初級マクロ経済学Ⅱ，経済数学Ⅱ，統計 Ⅱ）から 4 単位以上，基幹科目から 24 単位以上を選択 履修し，かつ 1 類から 66 単位以上を選択履修すること。	
世界経済史 2	2		
比較社会経済	2	○ 2 類	
比較社会経済史	2		
アメリカ経済	2	オフィス ICT スキルズ I	2
アメリカ経済史	2	オフィス ICT スキルズ II	2
ヨーロッパ経済	2	ビジネス ICT スキルズ I	2
ヨーロッパ経済史	2	ビジネス ICT スキルズ II	2
開発経済 1	2	上記科目のほか，全学共通教養教育科目の外国語教育 科目および日本語・日本文化教育科目のうち，卒業必要 単位と認められる科目から選択履修すること。ただし， イタリア語は 3 類科目の履修単位に算入する。 英語 8 単位または日本語 8 単位を履修し，英語 8 単位 を履修した場合は，これに加えて，英語以外の一種類の 外国語を選択し 8 単位以上またはオフィス ICT スキル ズ I・II，ビジネス ICT スキルズ I・II（以下，コンピ ュータ言語）の 8 単位を選択履修すること。また，日本	
開発経済 2	2		
ネットワークシステム論	2		
データベースシステム論	2		
システムモデリング論	2		
プログラミング 1	2		
プログラミング 2	2		
プログラミング 3	2		
スクリプティング	2		
情報システム論	2		

語 8 単位を履修した場合は、これに加えて、一種類の外国語を選択し 8 単位以上またはコンピュータ言語の 8 単位を選択履修すること。もしくは、英語 12 単位または日本語 12 単位を履修し、英語 12 単位を履修した場合は、これに加えて、英語以外の一種類の外国語を選択し 4 単位以上またはコンピュータ言語の 4 単位以上を選択履修すること。また、日本語 12 単位を履修した場合は、これに加えて、一種類の外国語を選択し 4 単位以上またはコンピュータ言語の 4 単位以上を選択履修すること。

ただし、日本語・日本文化教育科目の履修は外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。

以上のとおり履修し、2 類から合計 16 単位以上を選択履修すること。

なお、TOEIC、TOEFL、IELTS、実用英語技能検定試験、国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、8 単位を限度として 2 類の単位に認定する。

また、外国人留学生が 2 類科目から母語を履修しても卒業必要単位に算入しない。

○ 3 類

文化と社会	2
科学と技術	2
企業分析	2
日本の憲法	2
民法 1	2
民法 2	2
商法 1	2
商法 2	2
労働法 1	2
労働法 2	2
労働法 3	2
労働法 4	2

経済法 1	2
経済法 2	2
簿記学 I	2
簿記学 II	2
会計学	2
経営学	2
原価計算論	2
テュービンゲン大学 I E S 科目	2

上記科目のほか、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目のイタリア語、保健体育科目)のうち卒業必要単位と認められる科目から 16 単位以上を選択履修すること。

外国人留学生が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1、日本語 2、ビジネス日本語 C、ビジネス日本語 D を除く科目から単位を履修した場合は、3 類の履修単位に算入する。

○ 4 類

教職概論	2
人権教育論	2
教育原理	2
心理学概論(1)	2
心理学概論(2)	2
発達と学習の心理学	2
学校教育社会学	2
教育制度と学校経営	2
道德教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2

教育方法論	2	宗教学概論(1)	2
教育課程論	2	宗教学概論(2)	2
学校教育文化論(1)	2	社会学概論	4
学校教育文化論(2)	2	近代日本政治史	2
生涯教育計画論	2	現代日本政治史	2
多文化共生社会と生涯学習	2	近代ヨーロッパ政治史	2
学校教育図書館論	2	現代ヨーロッパ政治史	2
学校図書館メディアの構成	2	日本社会史(1)	2
学習指導と学校図書館	2	日本社会史(2)	2
読書と豊かな人間性	2	日本地域史研究(1)	2
情報メディアの活用	2	日本地域史研究(2)	2
社会科教育法 1	2	西洋社会史(1)	2
社会科教育法 2	2	西洋社会史(2)	2
地理歴史科教育法	2	商業史	2
公民科教育法	2	日本商業史	2
社会科・地理歴史科教育法	2	生涯学習概論	2
社会科・公民科教育法	2	日本美術史概説(1)	2
日本文化史概説(1)	2	日本美術史概説(2)	2
日本文化史概説(2)	2	西洋美術史概説(1)	2
東洋文化史概説(1)	2	西洋美術史概説(2)	2
東洋文化史概説(2)	2	日本美術史(1)	2
西洋文化史概説(1)	2	日本美術史(2)	2
西洋文化史概説(2)	2	東洋美術史(1)	2
人文地理学(1)	2	東洋美術史(2)	2
人文地理学(2)	2	西洋近代史(1)	2
地理学総論(1)	2	西洋近代史(2)	2
地理学総論(2)	2	考古学概論(1)	2
地誌学	2	考古学概論(2)	2
哲学概論(1)	2	民俗学(1)	2
哲学概論(2)	2	民俗学(2)	2
倫理学概論(1)	2	図書館情報学概論	2
倫理学概論(2)	2	図書館制度・経営論	2

図書館情報サービス論 I	2	選択した副専攻パッケージの科目は、それぞれ 20 単位を限度として卒業必要単位に算入する。20 単位を超えて修得した単位は 6 類の履修単位に算入する。ただし、1 類の科目は 1 類の、3 類の科目は 3 類の、4 類の科目は 4 類の卒業必要単位に算入する。 ○ 6 類 他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目は 6 類の履修単位に算入する。6 類科目は 12 単位を限度として卒業必要単位に算入する。 以上卒業に必要な単位として 1 類～6 類から合計 124 単位以上を履修すること。
図書館情報サービス論 II	2	
情報資源組織論 I	2	
情報資源組織論 II	2	
児童サービス論	2	
図書・図書館史	2	
図書館情報資源概論	2	
図書館情報資源特論	2	
図書館情報技術論	2	
図書館情報学特論	2	
情報サービス演習 I	2	
情報サービス演習 II	2	
情報資源組織演習 I	2	
情報資源組織演習 II	2	
図書館演習	4	
学術情報利用教育論	2	
学校図書館サービス論	2	
博物館概論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料論	2	
博物館情報メディア論	2	
博物館教育論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
上記 4 類科目は、卒業に必要な単位とは別に独自に履修することができる。		○自由科目 教職実践演習(中・高) 2 教育実習指導 1 教育実習 A 2 教育実習 B 2 教育実習 C 4 特別ニーズ教育論 2 スクールインターンシップ 2 上記科目のほか、全学共通教養教育科目(社会科学系科目)の経済学 1、経済学 2 を履修することができる。 自由科目は、卒業必要単位に算入しない。 上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○ 5 類

1 類科目、3 類科目、4 類科目、法学部設置科目、サイエンスコミュニケーター養成に関わる科目及び国際教育インスティテュートに示された科目のうち、本学部が副専攻科目と認めるものにより、副専攻パッケージを構成する。

商 学 部

商 学 科

人材養成目的

商学部商学科は、現代産業社会の経済活動について、

基礎的な知識の修得をはかるとともに豊かな教養を培い、専門領域の体系的かつ系統的な教育方針に基づく学習と実践的能力の育成をとおして、企業や産業に関わる諸問題を的確に分析し、その解決のための判断能力を身に付け、国内外の各分野において「良心を手腕に運用する」有為の人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位		
1 類 導入科目		ミクロ経済学	2
アカデミック・リテラシー I	2	マクロ経済学	2
アカデミック・リテラシー II	2	計量経済学	2
ビジネス・トピックス	2	商業史	2
2 類 入門科目		商業・金融学系	
基本統計学	2	流通論	2
現代ビジネス	2	マーケティング論	2
簿記学 I	2	金融論	2
簿記学 II	2	証券論	2
上記2類入門科目から6単位以上を履修すること。		貿易・国際学系	
3 類 学系基礎科目		貿易論	2
学系基礎科目 I		貿易業務論	2
経済・歴史学系		国際金融論	2
経済学	2	国際商取引論	2
商業・金融学系		企業・経営学系	
商業学	2	経営管理論	2
貿易・国際学系		経営組織論	2
国際経済学	2	経営戦略論	2
企業・経営学系		経営史	2
経営学	2	簿記・会計学系	
簿記・会計学系		簿記学 III	2
会計学	2	工業簿記 I	2
上記学系基礎科目 I から8単位以上を履修すること。		財務会計論	2
学系基礎科目 II		監査論	2
経済・歴史学系		上記学系基礎科目 II から各学系2単位以上、計10単位以上を履修すること。	
		4 類 学系展開科目	
		経済・歴史学系	
		経済変動論	2
		市場と人間	2
		経済統計分析	2
		戦略の経済学	2

日本商業史	2	特講	2
現代商業史	2	企業・経営学系	
オペレーションズ・リサーチ	2	労務管理論	2
特講	2	生産管理論	2
商業・金融学系		現代企業論	2
商品学	2	公企業論	2
観光論	2	中小企業論	2
交通論	2	経営分析論	2
物流システム論	2	経営統計論	2
消費者行動論	2	ビジネス・リサーチ	2
マーケティング・リサーチ	2	国際経営論	2
貨幣論	2	技術経営論	2
銀行論	2	事業システム論	2
金融政策論	2	コーポレート・ガバナンス論	2
ファイナンス論	2	特講	2
企業金融論	2	簿記・会計学系	
保険論	2	簿記学 IV	2
リスクマネジメント	2	工業簿記 II	2
金融システム論	2	財務諸表論	2
特講	2	制度会計論	2
貿易・国際学系		情報会計論	2
世界経済論	2	管理会計論	2
現代国際金融	2	原価計算論	2
経済統合論	2	税務会計論	2
欧米経済論	2	国際会計論	2
発展途上国経済論	2	財務諸表監査	2
アジア経済論	2	財務諸表分析	2
国際ビジネス・コミュニケーション論	2	特講	2
国際電子商取引論	2	5 類 実践科目	
貿易契約論	2	実践科目 I	1
貿易外国語(英)	2	実践科目 II	2
貿易外国語(中)	2	実践科目 III	4

6 類 専門外国語科目		会社法 II	2
外国書講読(英)	2	会社法 III	2
外国書講読(独)	2	手形法・小切手法	2
外国書講読(仏)	2	比較憲法	2
外国書講読(中)	2	国際法総論 I	2
外国書講読(西)	2	領域の国際法	2
外国書講読(露)	2	国際関係理論	2
外国語講読(ハンゲル)	2	国際政治経済論	2
Business English	2	商学総合コースでは主学系、副学系の二つの学系を選	
専門外国語特講	2	択し、4 類学系展開科目のうち選択した学系からそれぞ	
上記 6 類専門外国語科目から 2 単位以上を履修すること。		れ最低 4 単位以上、合計 20 単位以上を履修すること。	
7 類 演習科目		フレックス複合コースでは主学系を選択し、4 類学系	
演習 I	2	展開科目のうち選択した学系から 10 単位以上を履修す	
演習 II	2	ること。フレックス複合コースのうち専門特化型を選択	
演習 III	2	した場合は、さらに 4 類学系展開科目のうち主学系の科	
卒業研究演習 I	2	目及び 5 類実践科目と 6 類専門外国語科目の関連する科	
卒業研究演習 II	2	目から 10 単位以上を履修すること。	
卒業研究演習 III	2	上記を含め、1~8 類から、商学総合コースでは 80 単	
8 類 隣接科目		位以上、フレックス複合コースでは 70 単位以上を履修す	
社会学概論	4	ること。	
統計 I	2	9 類 教養科目	
統計 II	2	全学共通教養教育科目（同志社科目、キャリア形成支	
経済政策 1	2	援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、	
経済政策 2	2	人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科	
財政学 1	2	目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目）か	
財政学 2	2	ら 12 単位以上を履修すること。	
民法 II (物権)	2	ただし、商学は履修できない。	
民法 IIIa (債権総論①)	2	なお、外国人留学生が、クリエイティブ・ジャパン科目	
民法 IVa (担保物権)	2	のうち、日本の伝統と美、日本の伝統と文化、日本の伝	
民法 IVb (債権総論②)	2	統と芸能、日本の伝統と能楽、日本の伝統と芸術を履修	
会社法 I	2	する場合は、12 類外国人留学生科目を履修すること。	
		10 類 外国語科目	

実践英語 A	2	日本文化史概説(1)	2
実践英語 B	2	日本文化史概説(2)	2
実践英語 C	2	東洋文化史概説(1)	2
商学総合コースでは、全学共通教養教育科目の外国語教育科目(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、韓国語)から二つの外国語を選択し、卒業に必要と認められる科目各8単位、計16単位以上を履修すること。		東洋文化史概説(2)	2
		西洋文化史概説(1)	2
		西洋文化史概説(2)	2
		日本社会史(1)	2
		日本社会史(2)	2
フレックス複合コースでは、同外国語教育科目(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、韓国語)から一つの外国語を選択し、卒業に必要と認められる科目8単位以上を履修すること。		日本地域史研究(1)	2
		日本地域史研究(2)	2
		西洋思想史(1)	2
		西洋思想史(2)	2
TOEIC, TOEFL, IELTS, 実用英語技能検定試験及び国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、6単位を限度として、10類外国語科目の英語の単位として認定する。		西洋社会史(1)	2
		西洋社会史(2)	2
1 1 類 自主選択科目		近代ヨーロッパ政治史	2
		現代ヨーロッパ政治史	2
哲学概論(1)	2	近代日本政治史	2
哲学概論(2)	2	現代日本政治史	2
倫理学概論(1)	2	アメリカ政治外交論	2
倫理学概論(2)	2	日本外交論	2
宗教学概論(1)	2	商業科教育法 A	2
宗教学概論(2)	2	商業科教育法 B	2
心理学概論(1)	2	教職実践演習(中・高)	2
心理学概論(2)	2	教育実習指導	1
日本思想史(1)	2	教育実習 A	2
日本思想史(2)	2	教育実習 B	2
人文地理学(1)	2	教育実習 C	4
人文地理学(2)	2	職業指導 I	2
地理学総論(1)	2	職業指導 II	2
地理学総論(2)	2	教職情報処理実習	2
地誌学	2	博物館概論	2
		博物館経営論	2

博物館資料論	2	生涯学習概論	2
博物館情報メディア論	2	図書館情報学概論	2
博物館資料保存論	2	図書館制度・経営論	2
博物館展示論	2	図書館情報技術論	2
博物館教育論	2	図書館情報サービス論 I	2
博物館実習 I	2	図書館情報サービス論 II	2
博物館実習 II	1	児童サービス論	2
教職概論	2	情報サービス演習 I	2
教育原理	2	情報サービス演習 II	2
発達と学習の心理学	2	図書館情報資源概論	2
教育制度と学校経営	2	情報資源組織論 I	2
学校教育社会学	2	情報資源組織論 II	2
教育課程論	2	情報資源組織演習 I	2
教育方法論	2	情報資源組織演習 II	2
社会科・地理歴史科教育法	2	図書館情報学特論	2
社会科・公民科教育法	2	学術情報利用教育論	2
社会科教育法 1	2	図書館情報資源特論	2
社会科教育法 2	2	図書・図書館史	2
地理歴史科教育法	2	図書館演習	4
公民科教育法	2	学校図書館サービス論	2
道德教育の理論と実践	2	外国留学科目 (1科目各 1~8 単位)	
生徒・進路指導の理論と方法	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目, 他学部設置	
教育相談の理論と方法	2	科目及び国際教育インスティテュート科目 (副専攻パッケージ科目を含む), 同志社女子大学単位互換科目及び	
人権教育論	2	大学コンソーシアム京都単位互換科目は, 11 類科目の単	
スクールインターンシップ	2	位として卒業必要単位に算入できる。	
特別ニーズ教育論	2	以上卒業に必要な単位として 1~11 類から合計 126 単	
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	位以上を修得すること。	
学校教育図書館論	2	ただし, フレックス複合コースで副専攻型を選択した	
学校図書館メディアの構成	2	場合は, 選択した副専攻パッケージ科目から 10 単位以上	
学習指導と学校図書館	2	を履修すること。	
読書と豊かな人間性	2		
情報メディアの活用	2	1 2 類 外国人留学生科目	

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。	科 目	履修単位
日本語・日本文化教育科目の、日本語 1, 日本語 2, ビジネス日本語 C, ビジネス日本語 D から 8 単位を修得した場合は、10 類外国語科目の一つの外国語 8 単位に代えることができる。	○選択科目 I	
日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1, 日本語 2, ビジネス日本語 C, ビジネス日本語 D を除く科目から単位を修得した場合は、9 類教養科目の単位に代えることができる。	選択科目 I - 1	
なお、外国人留学生が 10 類外国語科目から母語を履修しても卒業必要単位に算入しない。	オリエンテーション科目	
上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。	First Year Experience	2
自由科目	政策学入門	2
大学院科目	基礎能力養成科目	
大学院科目の履修は、5 年一貫教育プログラムにおける履修資格者に限る。	アカデミック・スキル 1	2
自由科目は卒業必要単位に算入しない。	アカデミック・スキル 2	2
	基礎科目	
	政策思想	2
	政治学入門	2
	現代日本政治	2
	法学入門	2
	現代経済入門	2
	経済学入門	2
	組織論入門	2
	統計学入門	2
	国際教育インスティテュート A 群 - I	
	Introduction to the Japanese Economy	2
	Macroeconomics	2
	Microeconomics	2
	Introduction to Business	2
	Administration	2
	Introduction to Japanese Law	2
	Power and Politics in Japan	2
	導入科目	
	A 群	
	政策過程論	2
	日本外交	2
	憲法(人権)	2
	憲法(統治)	2
政 策 学 部		
政 策 学 科		
人材養成目的		
政策学部政策学科は、現代社会が求める高度な問題発見・解決能力について、問題発見の基礎となる、個別の学問分野にとどまらない社会諸科学相互の連携による学際的な知識や方法を学び、公共政策、企業政策、国際政策に関わる問題発見・解決の実践をとおして、時・場所を問わず、問題解決の中心で活躍できる基礎力を身に付けて、公的機関や民間企業などの政策や戦略の立案等において活躍する人材を養成することを目的とする。		

私法入門	2	アカデミック・ライティング	2
行政法入門	2	B 群	
入門ミクロ経済学	2	フィールド・リサーチ	2
入門マクロ経済学	2	リサーチ・ペーパー	2
現代の生活問題	2	プロジェクト演習	2
人と組織	2	展開科目	
経営学入門	2	A 群	
社会調査入門	2	公共性論	2
国際教育インスティテュートA群－II		政策形成論	2
Winners and Losers: Introduction to	2	政策分析	2
Political Theory		政治行動学	4
Introduction to Comparative	2	行政学	2
Policymaking		地方自治論	2
Political Behavior, Campaigns and	2	政府体系論	2
Elections		国際政治学	2
Introduction to Globalization	2	国際法	2
選択科目 I - 2		地域政策	2
導入科目		行政法(総論)	2
B 群		行政法(救済)	2
キャリアデザイン 1	2	国際貿易	2
キャリアデザイン 2	2	国際金融入門	2
政策トピックス	2	公共経済学	2
○選択科目 II		開発政策	2
選択科目 II - 1		アジア経済論	2
卒業研究プロジェクト		社会保障政策	2
A 群		社会保障制度	2
演習 I	2	現代社会と組織	2
演習 II	2	経営組織論	2
演習 III	2	意思決定論	2
卒業研究演習 I	2	人的資源管理	2
卒業研究演習 II	2	応用ミクロ経済学	2
卒業論文	2	応用マクロ経済学	2

現代国際政治	2	比較政策論	2
B 群		公務員制度	2
政策実施論	2	行政苦情救済論	2
政策評価論	2	政策法務	2
応用政策分析	2	雇用関係法	2
行政管理論	2	環境法	2
国際政治史	2	資本市場政策	2
応用公共経済学	2	金融政策	2
グローバル経済論	2	金融制度	2
国際金融市場政策	2	ベンチャー政策	2
国際協力政策	2	外書講読(英)	2
国際機構	2	E 群	
行政組織論	2	国際教育インスティテュートB群	
NGO・NPO論	2	Social Inequalities in Japan	2
現代組織論	2	Ecology and Economy in Japan	2
環境政策	2	The Financial System in Japan	2
科学技術政策	2	Economic Growth	2
文化政策	2	Citizen Politics in Japan and Beyond	2
観光政策	2	International Relations in East Asia	2
京都観光論	2	Postwar Japan - U.S. Relations	2
環境マネジメント	2	The Politics of Growth in Developing	2
ジェンダーと福祉	2	Countries	
ジェンダーと社会構造	2	Peace and Conflict	2
ジェンダー政策	2	International Human Rights Law	2
スポーツ法政策	2	Topics in Public Policy	2
教育政策	2	Mass Media in the Policymaking	2
リスク管理政策	2	Process	
国際平和政策論	2	International Law and Organizations	2
比較政治学	2	International Political Economy	2
C 群		What Makes Countries Poor?	2
コミュニティ創造政策	2	Development and Law	2
行政責任論	2	Topics in Japan's Contemporary	2

International Relations		心理学概論(2)	2
World Civilizations	2	社会学概論	4
Asian Civilizations	2	近代日本政治史	2
Migration and Transnationalism	2	現代日本政治史	2
Civic Engagement	2	近代ヨーロッパ政治史	2
Public Opinion and Political		現代ヨーロッパ政治史	2
Psychology	2	日本社会史(1)	2
Politics through Film	2	日本社会史(2)	2
選択科目Ⅱ－2		日本地域史研究(1)	2
展開科目		日本地域史研究(2)	2
D 群		西洋社会史(1)	2
政策特殊講義Ⅰ	2	西洋社会史(2)	2
政策特殊講義Ⅱ	4	日本商業史	2
○選択科目Ⅲ		生涯学習概論	2
日本文化史概説(1)	2	図書館情報学概論	2
日本文化史概説(2)	2	図書館制度・経営論	2
東洋文化史概説(1)	2	図書館情報技術論	2
東洋文化史概説(2)	2	図書館情報サービス論Ⅰ	2
西洋文化史概説(1)	2	図書館情報サービス論Ⅱ	2
西洋文化史概説(2)	2	児童サービス論	2
人文地理学(1)	2	情報サービス演習Ⅰ	2
人文地理学(2)	2	情報サービス演習Ⅱ	2
地理学総論(1)	2	図書館情報資源概論	2
地理学総論(2)	2	情報資源組織論Ⅰ	2
地誌学	2	情報資源組織論Ⅱ	2
哲学概論(1)	2	情報資源組織演習Ⅰ	2
哲学概論(2)	2	情報資源組織演習Ⅱ	2
倫理学概論(1)	2	図書館情報学特論	2
倫理学概論(2)	2	学術情報利用教育論	2
宗教学概論(1)	2	図書館情報資源特論	2
宗教学概論(2)	2	図書・図書館史	2
心理学概論(1)	2	図書館演習	4

学校図書館サービス論	2	教育制度と学校経営	2
上記の他、他学部設置科目、テュービンゲン大学 I E S 科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目及び日本語・日本文化教育科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から、選択履修すること。		学校教育社会学	2
		人権教育論	2
		発達と学習の心理学	2
		特別ニーズ教育論	2
		教育課程論	2
国際専修コースは、上記に加えて国際教育インスティテュート A 群-I, A 群-II, B 群を除く国際教育インスティテュート設置科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から、選択履修すること。		道徳教育の理論と実践	2
		社会科・地理歴史科教育法	2
		社会科・公民科教育法	2
		社会科教育法 1	2
		社会科教育法 2	2
		地理歴史科教育法	2
		公民科教育法	2
		特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
		教育方法論	2
		スクールインターンシップ	2
		生徒・進路指導の理論と方法	2
		教育相談の理論と方法	2
		教職実践演習(中・高)	2
		教育実習指導	1
		教育実習 A	2
		教育実習 B	2
		教育実習 C	4
		学校教育文化論(1)	2
		学校教育文化論(2)	2
		生涯教育計画論	2
		多文化共生社会と生涯学習	2
		学校教育図書館論	2
		学校図書館メディアの構成	2
		学習指導と学校図書館	2
		読書と豊かな人間性	2
		情報メディアの活用	2
ただし、日本語・日本文化教育科目は、外国人留学生のみ履修することができる。			
また、外国人留学生が日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1(読解 A VI)～日本語 1(文法 IX), 日本語 2(読解 A VI)～日本語 2(文法 IX), ビジネス日本語 C, ビジネス日本語 D の単位を履修した場合は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち、学部が定める科目の単位に代えることができる。			
なお、外国人留学生が全学共通教養教育科目の外国語教育科目から母国語を履修しても卒業単位に算入しない。			
○全学共通教養教育科目			
卒業必要単位と認められる科目から、選択履修すること。なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、8 単位を限度として、全学共通教養教育科目の外国語教育科目(英語)のうち、学部が定める科目の単位に認定する。また、スポーツ・パフォーマンス 1 は 2 単位まで卒業必要単位に算入する。			
○自由科目			
免許・資格関係科目			
教育原理	2		
教職概論	2		

日本の憲法 2
 教職コンピュータ実習 2
 自由科目は卒業必要単位に算入しない。

履修方法

1. 選択科目Ⅰから28単位以上、選択科目Ⅱから64単位以上、全学共通教養教育科目から12単位以上、合計124単位以上を履修すること。ただし、選択科目Ⅰについては、基礎科目12単位以上を含めて同Ⅰ-1から20単位以上、選択科目Ⅱについては、同Ⅱ-1から64単位以上、全学共通教養教育科目については、外国語教育科目のうち、学部が定める科目から英語8単位以上、英語以外の外国語4単位以上を履修すること。

国際専修コースは、選択科目Ⅰから28単位以上、選択科目Ⅱから64単位以上、全学共通教養教育科目から12単位以上、合計124単位以上を履修すること。ただし、選択科目Ⅰについては、基礎科目12単位以上(国際教育インスティテュートA群-Ⅰから4単位以上を含む)を含めて同Ⅰ-1から20単位以上、選択科目Ⅱについては、国際教育インスティテュートB群から16単位以上を含めて同Ⅱ-1から64単位以上、全学共通教養教育科目については、外国語教育科目のうち、学部が定める科目から英語8単位以上、英語以外の外国語4単位以上を履修すること。

2. 国際教養コースは、上記にかかわらず、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

文化情報学部

文化情報学科

人材養成目的

文化情報学部文化情報学科は、文化の諸事象を、デー

タサイエンスを中心とした様々な科学的手法を駆使して研究し、文化の根底にある人間の本質の理解を目指した教育研究活動をとおして、文化事象に対する理解力、課題解決能力、情報の収集・分析・判断・発信能力及び柔軟な発想力を身に付け、高い倫理観と責任感を有し、国内外の各分野において活躍できる人材を育成することを目的とする。

科目 履修単位

○必修科目

文化情報学入門	2
コロキアム	1
文化情報学演習 1	1
文化情報学演習 2	1
文化情報学演習 3	1
ジョイント・リサーチ Ⅰ	1
ジョイント・リサーチ Ⅱ	1
アドバンスト・コロキアム	1
卒業研究 Ⅰ	4
卒業研究 Ⅱ	4

○選択科目Ⅰ(専門教育科目)

A 群(文化クラスター科目群)

文化資源学科目	
日本文化史	2
文化計量学入門	2
現代文化概論	2
歴史文化情報入門	2
文献学入門	2
歴史文化情報概説	2
文献講読	2
伝統音楽論	2
文献解析	2
美術史学	2

歴史文化情報論	2	社会調査演習	2
文化記号論	2	行動計量分析法	2
古典文化論	2	計量社会学	2
文化解析	2	社会ネットワーク分析	2
音楽解析	2	人間と文化	2
文化・社会人類学	2	比較文化論	2
言語データ科学科目		A群は、18単位以上を選択履修すること。	
ことばと文化	2	B 群(データサイエンス科目群)	
ことばの科学	2	データ分析科目	
ことばと社会	2	データサイエンス入門	2
世界の諸言語	2	データサイエンス入門演習	2
コーパス言語学	2	データサイエンス基礎	2
言語研究の方法 1	2	データサイエンス演習	2
言語類型論	2	定量的データ分析	2
言語研究の方法 2	2	定量的データ分析演習	2
語用論	2	定性的データ分析	2
認知言語学	2	定性的データ分析演習	2
統語論	2	機械学習	2
言語と脳科学	2	テキストマイニング	2
音韻論	2	データハンドリング	2
行動データ科学科目		ベイズ統計	2
身体論	2	情報・コンピュータ科目	
認知科学入門	2	インターネット技術	2
人間と感性	2	情報倫理	2
感覚・知覚論	2	コンピュータの仕組み	2
身体メディア論	2	情報理論	2
認知科学の方法	2	アルゴリズムとデータ構造	2
認知科学実習	2	翻訳解析	2
視覚表現論	2	情報アクセス技術	2
認知システム論	2	ヒューマンコンピュータインタラクション	2
社会調査入門	2	データベースシステム	2
社会調査法	2	情報セキュリティ	2

プログラミング入門	2	ジネス日本語D」を除く)のうち、学部が卒業必要単位と
プログラミング基礎	2	認める科目から、16単位以上選択履修すること。
プログラミング応用	2	但し、保健体育科目のうち、「スポーツ・パフォーマンス1」から4単位、その他の保健体育科目から4単位を
基礎数理科目		限度として卒業必要単位に算入する。
論理と数理	2	
数学入門	2	日本語・日本文化教育科目は、外国人留学生のみ履修
線形代数	2	することができる。
離散数学	2	E 群
微分積分	2	E 群は、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語
確率・統計	2	のうち、学部が卒業必要単位と認める科目から、8単位
微分方程式	2	以上選択履修すること。
数理統計	2	TOEIC® LISTENING AND READING TEST, TOEFL iBT®テ
現象と数理	2	スト、実用英語技能検定、国際連合公用語英語検定にお
多変量解析	2	いて、一定水準以上の成果を修めた者は、8単位を限度と
数理モデル	2	してE群の単位として認定する。
決定理論	2	F 群
時系列解析	2	F 群は、全学共通教養教育科目 外国語教育科目 英語
数値解析	2	以外の外国語および日本語・日本文化教育科目「日本語
最適化法	2	1(読解AⅥ)」～「日本語2(文法Ⅸ)」,「ビジネス日本語
B群は、18単位以上を選択履修すること。		C」,「ビジネス日本語D」のうち、学部が卒業必要単
C 群(体験型教養科目)		位と認める科目から、4単位以上選択履修すること。
体験型教養科目	2	日本語・日本文化教育科目「日本語1(読解AⅥ)」～
C群は、異なるタイトルから2クラス以上、4単位以		「日本語2(文法Ⅸ)」,「ビジネス日本語C」,「ビジネス
上を選択履修すること。		日本語D」は、外国人留学生のみ履修することができる。
○選択科目Ⅱ(教養教育科目)		G 群
D 群		情報処理演習
D群は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア		1
形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン		代数学
科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学		2
系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科		幾何学 I
目)及び日本語・日本文化教育科目(「日本語1(読解A		2
Ⅵ)」～「日本語2(文法Ⅸ)」,「ビジネス日本語C」,「ビ		幾何学 II
		2
		教科教育法 A1(数学)
		2
		教科教育法 A2(数学)
		2
		教科教育法 B(数学)
		2

教科教育法 C(数学)	2	倫理学概論(2)	2
教科教育法 A(情報)	2	日本文化史概説(1)	2
教科教育法 B(情報)	2	日本文化史概説(2)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	地誌学	2
社会科・公民科教育法	2	西洋文化史概説(1)	2
社会科教育法 1	2	西洋文化史概説(2)	2
社会科教育法 2	2	東洋文化史概説(1)	2
地理歴史科教育法	2	東洋文化史概説(2)	2
公民科教育法	2	人文地理学(1)	2
教職実践演習(中・高)	2	人文地理学(2)	2
教育実習指導	1	地理学総論(1)	2
教育実習 A	2	地理学総論(2)	2
教育実習 B	2	社会学概論	4
教育実習 C	4	経済原論	4
教職概論	2	生涯学習概論	2
教育原理	2	心理学概論(1)	2
発達と学習の心理学	2	心理学概論(2)	2
教育制度と学校経営	2	博物館情報メディア論	2
学校教育社会学	2	日本の憲法	2
教育課程論	2	G群は、上記科目並びに他学部設置科目、同志社女子	
道德教育の理論と実践	2	大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科	
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	目、早稲田大学交流協定科目、外国協定大学における履	
教育方法論	2	修科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち、学部	
生徒・進路指導の理論と方法	2	が卒業必要単位と認める科目から履修すること。	
教育相談の理論と方法	2	○自由科目	
スクールインターンシップ	2	情報メディア	2
人権教育論	2	情報と職業	2
宗教学概論(1)	2	コンピュータと数学	2
宗教学概論(2)	2	コンピュータグラフィックス	2
哲学概論(1)	2	情報メディア実習	1
哲学概論(2)	2	情報と社会	2
倫理学概論(1)	2	特別ニーズ教育論	2

学校図書館サービス論	2	情報工学実験 II	2
自由科目は、卒業必要単位に算入しない。		情報工学応用論	1
履修方法		卒業論文 I	2
必修科目 17 単位，選択科目 I は 56 単位以上，選択科目 II は 40 単位以上，合計 124 単位以上を履修すること。		卒業論文 II	2
		○選択科目	
		A群 I 類	
		A I - 1 a	
		情報工学実験 III	2
		特別演習実習	2
		A I - 1 b	
		解析学 I	2
		線形代数学 I	2
		情報数学 I	2
		数理統計学	2
		A I - 1 c	
		Cプログラミング I	2
		Cプログラミング II	2
		J a v a プログラミング I	2
		J a v a プログラミング II	2
		A I - 1 d	
		コンピュータネットワーク	2
		コンピュータグラフィックス	2
		オペレーティングシステム	2
		言語理論	2
		通信ネットワーク	2
		計算機ハードウェア	2
		データベースシステム	2
		コンピュータ基礎実習	1
		A I - 2	
		運動学の基礎	2
		知的財産権	2
		Cプログラミング III	1
理 工 学 部			
人材養成目的			
理工学部は、同志社建学の精神を尊重しつつ各学科独自に実践される固有の教育内容について、それぞれの学問領域の真髄の修得を目指して設置された学科目とそれらを体系的に編成した履修課程をとおして、本学部学生が科学と工学の基礎及び応用理論を広く身に付けて、一国の良心として各界において活躍する人材を養成することを目的とする。			
インテリジェント情報工学科			
人材養成目的			
インテリジェント情報工学科は、情報処理について、その「インテリジェント化」、「ネットサーク化」、「ユビキタス化」、「サービス化」を指向した教育カリキュラムをとおして、情報システム開発の各領域・分野における専門性の高い技術的課題の解決を担い得る能力、ならびに企画・立案を他者と交わりながら実施できる技能を身に付けて、情報技術分野等において活躍できる人材を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位		
○必修科目			
情報工学概論 I	1		
情報工学概論 II	1		
情報工学実験 I	2		

技術英語 I	1	情報メディア	2
技術英語 II	1	応用数理統計学	2
解析学 II	2	メカトロニクス基礎	2
微分方程式 I	2	センシング制御工学	2
線形代数学 II	2	ロボティクス	2
電気の基礎	2	ソフトウェア工学	2
微分方程式 II	2	J a v a プログラミング III	1
画像処理	2	機械学習	2
フーリエ解析	2	音声処理	2
応用数理解析	2	A群II類	
情報数学 II	2	ネットワーク応用	2
複素解析	2	情報デザイン	2
情報理論	2	コラボレーション工学	2
プログラミング言語	2	数値解析	2
情報メディア実習	1	ネットワークシステム構成論	2
アルゴリズムとデータ構造	2	多変量解析	2
コンパイラ	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
計算機アーキテクチャ	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
数値計算法	2	ただし、協定校単位互換科目は、8単位を限度として	
特別講義 A	2	卒業必要単位に算入される。	
特別講義 B	2	B群I類	
学外実習 1	2	第一外国語科目	
学外実習 2	2	Academic English for Science 1	1
知識情報処理	2	Academic English for Science 2	1
パターン認識	2	Academic English for Science 3	1
自然言語処理	2	Academic English for Science 4	1
情報システム工学	2	選択科目B群I類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
符号理論	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
情報セキュリティ	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
デジタル信号処理	2	なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
不規則信号論	2	準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群	
ワイヤレス通信	2	I類の単位に認定する。	

B群Ⅱ類

第二外国語科目

選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

情報と社会	2
情報システム実習	1
情報通信ネットワーク実習	1
情報と職業	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法IX)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法IX)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択

科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目11単位、選択科目117単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群はⅠ類から77単位以上(うちAⅠ-1aから2単位、AⅠ-1bから4単位以上、AⅠ-1cから4単位以上、AⅠ-1dから10単位以上)を含めて86単位以上、B群はⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類から10単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
電気設備・法規	2
代数学	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
物理学の基礎	1
生物学概論 I	2
生物学概論 II	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
人権教育論	2
教育課程論	2
教科教育法 A(情報)	2
教科教育法 B(情報)	2
教育教育法 A1(数学)	2
教育教育法 A2(数学)	2
教育教育法 B(数学)	2
教育教育法 C(数学)	2

教育実習指導	1	情報システム応用	2
教育実習 A	2	情報システム演習実験 III	2
教育実習 B	2	ソフトウェア工学	2
教育実習 C	4	画像工学	2
教職実践演習(中・高)	2	オペレーティングシステム	2
特別ニーズ教育論	2	社会情報システム	2
		技術英語	2
		情報システム要素技術	2
情報システムデザイン学科		卒業論文 I	2
人材養成目的		卒業論文 II	2
情報システムデザイン学科は、情報システム設計について、情報技術分野全般に加えて人間・社会科学をバランス良く組み込んだ教育カリキュラムをとおして、社会や生活に役立つ新しい情報システムを設計・開発するために必要な知識・技術を身に付けて、企画・設計・開発ができる技能を有し、幅広い分野で活躍する人材を養成することを目的とする。		○選択科目	
		A群 I 類	
		物理学の基礎	2
		数理統計学	2
		数学の基礎 I	2
		数学の基礎 II	2
		線形代数学 I	2
		線形代数学 II	2
		解析学 I	2
		解析学 II	2
		論理表現	2
		情報数学の基礎	2
		シミュレーション基礎演習	2
		情報科学基礎	2
		情報システム概論	2
		人間の情報処理	2
		社会の仕組み	2
		連続表現	2
		応用数理解析	2
		電気の基礎	2
		プログラミング J a v a III	2
		マルチエージェント工学	2
科 目	履修単位		
○必修科目			
計算機構成論	2		
論理回路	2		
プログラミング J a v a I	2		
プログラミング J a v a II	2		
人間と情報システム I	1		
人間と情報システム II	1		
情報ネットワーク	2		
プログラミング C 言語 I	2		
アルゴリズムとデータ構造入門	2		
システムと制御の数理	2		
情報システム演習実験 I	2		
情報システム演習実験 II	2		
ソフトウェア設計技法	2		
データ工学	2		

情報デザイン	2	ロボティクス	2
コラボレーション工学	2	不規則信号論	2
数値解析	2	情報セキュリティ	2
特別講義 I	2	ワイヤレス通信	2
人間と学習	2	符号理論	2
情報システムと文化	2	データベースシステム	2
生産活動と情報	2	知識情報処理	2
情報システム実習	1	コンパイラ	2
特別演習実習	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
プログラミングC言語 II	2	ただし、協定校単位互換科目は、8単位を限度として	
プログラミングC言語 III	2	卒業必要単位に算入される。	
ネットワーク応用	2	B群I類	
ネットワークシステム構成論	2	第一外国語科目	
インテリジェントアルゴリズム	2	Academic English for Science 1	1
情報システム開発技法	2	Academic English for Science 2	1
多変量解析	2	Academic English for Science 3	1
自然言語処理	2	Academic English for Science 4	1
画像処理	2	選択科目B群I類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
システムプログラミング	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
特別講義 II	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
特別講義 III	2	なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
e-ラーニング	2	準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群	
企業活動と情報	2	I類の単位に認定する。	
知的財産権	2	B群II類	
学外実習 1	2	第二外国語科目	
学外実習 2	2	選択科目B群II類(第二外国語科目)は、全学共通教養	
A群II類		教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ	
メカトロニクス基礎	2	ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から	
センシング制御工学	2	選択履修すること。	
フーリエ解析	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を	
プログラミング言語	2	上限として卒業必要単位に算入する。	
情報理論	2		

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

情報と社会	2
情報メディア実習	1
情報通信ネットワーク実習	1
情報と職業	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目46単位、選択科目82単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群はⅠ類から42単位以上を含めて52単位以上、B群はⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類から10単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位

以上)を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

人権教育論	2
教育課程論	2
通信ネットワーク	2
情報メディア	2
代数学	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A(情報)	2
教科教育法 B(情報)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
特別ニーズ教育論	2

電 気 工 学 科

人材養成目的

電気工学科は、電気工学に関連する基礎知識及び最先端技術について、実験を重視した体験的な学修をとおして、電気工学の基本的知識とそれを応用・展開する能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等において独創的で高度な課題解決能力を有するエンジニアとして活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目

電気磁気学 I	3	電子回路	2
電気磁気学 II	3	電気・電子計測 I	2
電気回路学 I	3	電気エネルギー工学 I	2
電気回路学 II	3	パワーエレクトロニクス	2
コンピュータプログラミング I	1	過渡現象論	2
基礎演習実験	2	分布定数回路論	2
電気基礎実験 I	2	電気電子材料	2
電気基礎実験 II	2	A I - 2	
電気基礎実験 III	2	高電圧工学	2
電気工学実験 I	2	電気機器学 I	2
電気工学実験 II	2	電気機器学 II	2
ゼミ演習	1	電気エネルギー工学 II	2
卒業論文 I	2	アナログ電子回路	2
卒業論文 II	2	デジタル電子回路	2
○選択科目		コンピュータプログラミング II	1
A群 I類		応用解析	2
A I - 1 a		電気・電子計測 II	2
解析学 I	2	コンピュータ応用解析	2
解析学 I 演習	1	コンピュータシステム入門	2
解析学 II	2	数値解析	2
解析学 II 演習	1	応用力学	2
線形代数学 I	2	熱統計力学	2
線形代数学 II	2	数理統計学	2
ベクトル幾何	2	量子力学	2
微分方程式	2	デジタル制御	2
複素解析	2	プラズマ工学	2
フーリエ解析	2	電気設備・法規	2
基礎物理学 I	2	電気機器設計法	2
基礎物理学 II	2	制御工学	2
基礎物理学 II 演習	1	環境電磁工学	2
振動と波動	2	メカトロニクス	2
A I - 1 b		インフラストラクチャ概論	2

電気電子工学入門	2	Academic English for Science 3	1
特別講義 A	2	Academic English for Science 4	1
特別講義 B	2	選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
学外実習 1	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
学外実習 2	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
A 群 II 類		なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
電磁波論	2	準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群	
超音波エレクトロニクス I	2	I 類の単位に認定する。	
超音波エレクトロニクス II	2	B 群 II 類	
アンテナ工学	2	第二外国語科目	
情報理論	2	選択科目 B 群 II 類(第二外国語科目)は、全学共通教養	
通信方式	2	教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ	
マイクロ波工学	2	ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から	
光通信工学	2	選択履修すること。	
光エレクトロニクス	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2 単位を	
シグナルプロセッシング	2	上限として卒業必要単位に算入する。	
伝送線路論	2	B 群 III 類	
電子デバイス I	2	選択科目 B 群 III 類は、全学共通教養教育科目(同志社科	
電子デバイス II	2	目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ	
固体物性論	2	ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自	
電子工学実験 I	2	然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、	
電子工学実験 II	2	保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互	
放射線科学	2	換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュ	
知的財産権	2	ービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認め	
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必		られる科目から選択履修すること。	
要単位と認められる科目から選択履修すること。		ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス	
ただし、協定校単位互換科目は、10 単位を限度として		1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8	
卒業必要単位に算入される。		単位を限度として卒業必要単位に算入される。	
B 群 I 類		○外国人留学生科目	
第一外国語科目		外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外	
Academic English for Science 1	1	国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択	
Academic English for Science 2	1	履修し、日本語 1(読解 A VI)～日本語 1(文法 IX)、日本語	

2(読解AVI)～日本語2(文法IX), ビジネス日本語C, Dのうち4単位を, 選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は, 選択科目B群Ⅲ類の単位として, 卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 30 単位, 選択科目 98 単位以上, 合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし, 選択科目については, A群はⅠ類から 60 単位以上(うちAⅠ-1 aから 20 単位以上, AⅠ-1 bから 10 単位以上), B群はⅠ類から 8 単位以上, Ⅱ類から 4 単位以上, Ⅲ類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上を含めて 22 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
代数学	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
人権教育論	2
教育課程論	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
特別ニーズ教育論	2

電 子 工 学 科

人材養成目的

電子工学科は, 電子工学に関連する基礎知識及び最先端技術について, 実験を重視した体験的な学修をとおして, 電子工学の基本的知識とそれを応用・展開する能力を身に付けて, 民間企業や官民の研究機関, 教育機関等においてダイナミックな技術革新に柔軟に対応できるエンジニアとして活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
電気磁気学 I	3
電気磁気学 II	3
電気回路学 I	3
電気回路学 II	3
コンピュータプログラミング I	1
基礎演習実験	2
電気基礎実験 I	2
電気基礎実験 II	2
電気基礎実験 III	2
電子工学実験 I	2
電子工学実験 II	2
ゼミ演習	1
卒業論文 I	2
卒業論文 II	2
○選択科目	
A群Ⅰ類	
AⅠ-1 a	
解析学 I	2
解析学 I 演習	1
解析学 II	2
解析学 II 演習	1

線形代数学 I	2	数値解析	2
線形代数学 II	2	応用力学	2
ベクトル幾何	2	熱統計力学	2
微分方程式	2	数理統計学	2
複素解析	2	光通信工学	2
フーリエ解析	2	通信方式	2
基礎物理学 I	2	情報理論	2
基礎物理学 II	2	過渡現象論	2
基礎物理学 II 演習	1	固体物性論	2
振動と波動	2	電子デバイス II	2
A I - 1 b		インフラストラクチャ概論	2
電子回路	2	電気電子工学入門	2
電気・電子計測 I	2	特別講義 A	2
伝送線路論	2	特別講義 B	2
電磁波論	2	学外実習 1	2
電子デバイス I	2	学外実習 2	2
シグナルプロセッシング	2	A 群 II 類	
電気電子材料	2	電気機器学 I	2
A I - 2		電気機器学 II	2
アンテナ工学	2	電気エネルギー工学 I	2
超音波エレクトロニクス I	2	電気エネルギー工学 II	2
超音波エレクトロニクス II	2	制御工学	2
マイクロ波工学	2	デジタル制御	2
量子力学	2	パワーエレクトロニクス	2
コンピュータ応用解析	2	高電圧工学	2
コンピュータプログラミング II	1	プラズマ工学	2
応用解析	2	メカトロニクス	2
電気・電子計測 II	2	環境電磁工学	2
アナログ電子回路	2	電気工学実験 I	2
デジタル電子回路	2	電気工学実験 II	2
光エレクトロニクス	2	電気設備・法規	2
コンピュータシステム入門	2	電気機器設計法	2

放射線科学 2
知的財産権 2
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、協定校単位互換科目は、10単位を限度として卒業必要単位に算入される。

B群Ⅰ類

第一外国語科目

Academic English for Science 1	1
Academic English for Science 2	1
Academic English for Science 3	1
Academic English for Science 4	1

選択科目B群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群Ⅰ類の単位に認定する。

B群Ⅱ類

第二外国語科目

選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互

換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目30単位、選択科目98単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群はⅠ類から60単位以上(うちAⅠ-1aから20単位以上、AⅠ-1bから10単位以上)、B群はⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
人権教育論	2
教育課程論	2
代数学	2

教科教育法 A1(数学)	2	材料力学 I	2
教科教育法 A2(数学)	2	材料加工 I	2
教科教育法 B(数学)	2	熱力学 I・同演習	2
教科教育法 C(数学)	2	流れ学 I・同演習	2
教育実習指導	1	機械力学 I・同演習	2
教育実習 A	2	制御工学 I・同演習	2
教育実習 B	2	機械物理実験	2
教育実習 C	4	機械工学実験	2
教職実践演習(中・高)	2	製図学	2
特別ニーズ教育論	2	機械製作法	2
		機械製図学	2
		機械設計製作	2
		機械設計製図	2
		機械設計法 I	2
		英書講読	1
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
		○選択科目	
		A群I類	
		必修選択科目	
		応用数学 I	2
		コンピュータプログラミング	2
		力学 II	2
		材料力学 II	2
		熱力学 II・同演習	2
		流れ学 II・同演習	2
		機械力学 II・同演習	2
		制御工学 II・同演習	2
		機械設計法 II	2
		選択科目A群I類については、上記に掲げるすべての	
		科目を登録し、授業を受けなければならない。	
		A群II類	
教科教育法 A1(数学)	2		
教科教育法 A2(数学)	2		
教科教育法 B(数学)	2		
教科教育法 C(数学)	2		
教育実習指導	1		
教育実習 A	2		
教育実習 B	2		
教育実習 C	4		
教職実践演習(中・高)	2		
特別ニーズ教育論	2		
機 械 シ ス テ ム 工 学 科			
人材養成目的			
機械システム工学科は、ものづくりを原点とする最先端技術に必要な機械システムの構築と創成に関わる技術分野について、講義と実習をとおして、それらの基礎を十分に学習し、次世代の機械とシステムの技術開発や問題解決を行う技術者としての能力と、それらを自らの良心に基づき運用できる技術者としての倫理観を身に付けて、安全・安心な社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位		
○必修科目			
機械工学概論	2		
線形代数学 I	2		
線形代数学 II	2		
解析学 I	2		
解析学 II	2		
確率・統計 I	2		
物理学 I	2		
工業材料 I	2		
力学 I	2		

専門系共通選択科目		材料力学 III	2
A II - 1		連続体力学	2
工学共通科目		流体工学	2
数学基礎 1	1	伝熱工学	2
数学基礎 2	1	流れ学 III	2
物理基礎 1	1	熱力学 III	2
物理基礎 2	1	デジタル制御・同演習	2
管理工学	2	機械力学 III	2
電気回路基礎	2	制御工学 III	2
電子回路基礎	2	弾性力学	2
機械工学基礎科目		塑性力学	2
数値計算・同演習	2	エネルギー変換工学	2
数値シミュレーション	2	移動現象論	2
コンピュータ支援設計	2	知的財産権	2
計測工学	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
機械設計法演習	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
学外実習 1	2	ただし、協定校単位互換科目は、8 単位を限度として	
学外実習 2	2	卒業必要単位に算入される。	
特別機械工学実験	2	B 群 I 類	
A II - 2		第一外国語科目	
機械工学専門科目		Academic English for Science 1	1
応用数学 II	2	Academic English for Science 2	1
フーリエ・ラプラス解析	2	Academic English for Science 3	1
物理学 II	2	Academic English for Science 4	1
複素解析	2	選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
解析力学	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
確率・統計 II	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
統計力学	2	なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
工業材料 II	2	準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群	
材料加工 II	2	I 類の単位に認定する。	
材料力学 I 演習	2	B 群 II 類	
材料力学 II 演習	2	第二外国語科目	

選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

教職選択科目

数理統計学	2
生物学概論 I	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
代数学	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
コンピュータと数学	2
地学実験	1
物理実験	2
生物学実験	1
化学実験	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目51単位、選択科目77単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群Ⅰ類から10単位以上、A群Ⅱ類から36単位以上(うちAⅡ-1から8単位以上)、B群(うちⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)及びC群から18単位以上履修しなければならない。

○自由科目

環境経済学	2
有機化学 I	2
有機化学 II	2
有機化学 III	2
有機化学 IV	2
生物学概論 II	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
代数学 III	2
応用幾何学	2
人権教育論	2
教育課程論	2

教科教育法 A1(理科)	2	材料力学 I	2
教科教育法 A2(理科)	2	材料加工 I	2
教科教育法 B(理科)	2	熱力学 I・同演習	2
教科教育法 C(理科)	2	流れ学 I・同演習	2
教育実習指導	1	機械力学 I・同演習	2
教育実習 A	2	制御工学 I・同演習	2
教育実習 B	2	機械物理実験	2
教育実習 C	4	機械工学実験	2
教職実践演習(中・高)	2	製図学	2
特別ニーズ教育論	2	機械製作法	2
		機械製図学	2
		機械設計製作	2
		機械設計製図	2
		機械設計法 I	2
		英書講読	1
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
		○選択科目	
		A群 I 類	
		必修選択科目	
		応用数学 I	2
		コンピュータプログラミング	2
		力学 II	2
		材料力学 II	2
		熱力学 II・同演習	2
		流れ学 II・同演習	2
		機械力学 II・同演習	2
		制御工学 II・同演習	2
		機械設計法 II	2
		選択科目 A群 I 類については、上記に掲げるすべての	
		科目を登録し、授業を受けなければならない。	
		A群 II 類	

専門系共通選択科目		材料力学 III	2
A II - 1		連続体力学	2
工学共通科目		流体工学	2
数学基礎 1	1	伝熱工学	2
数学基礎 2	1	流れ学 III	2
物理基礎 1	1	熱力学 III	2
物理基礎 2	1	デジタル制御・同演習	2
管理工学	2	機械力学 III	2
電気回路基礎	2	制御工学 III	2
電子回路基礎	2	弾性力学	2
機械工学基礎科目		塑性力学	2
数値計算・同演習	2	エネルギー変換工学	2
数値シミュレーション	2	移動現象論	2
コンピュータ支援設計	2	知的財産権	2
計測工学	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
機械設計法演習	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
学外実習 1	2	ただし、協定校単位互換科目は、8 単位を限度として	
学外実習 2	2	卒業必要単位に算入される。	
特別機械工学実験	2	B 群 I 類	
A II - 2		第一外国語科目	
機械工学専門科目		Academic English for Science 1	1
応用数学 II	2	Academic English for Science 2	1
フーリエ・ラプラス解析	2	Academic English for Science 3	1
物理学 II	2	Academic English for Science 4	1
複素解析	2	選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
解析力学	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
確率・統計 II	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
統計力学	2	なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
工業材料 II	2	準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群	
材料加工 II	2	I 類の単位に認定する。	
材料力学 I 演習	2	B 群 II 類	
材料力学 II 演習	2	第二外国語科目	

選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びチュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

教職選択科目

数理統計学	2
生物学概論 I	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
代数学	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
コンピュータと数学	2
地学実験	1
物理実験	2
生物学実験	1
化学実験	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目51単位、選択科目77単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群Ⅰ類から10単位以上、A群Ⅱ類から36単位以上(うちAⅡ-1から8単位以上)、B群(うちⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)及びC群から18単位以上履修しなければならない。

○自由科目

環境経済学	2
生物学概論 II	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
人権教育論	2
教育課程論	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2

教育実習 B	2	物理化学 III	2
教育実習 C	4	物理化学 IV	2
教職実践演習(中・高)	2	物理化学 V	2
代数学 III	2	分析化学 I	2
応用幾何学	2	分析化学 II	2
有機化学 I	2	無機化学 I	2
有機化学 II	2	無機化学 II	2
有機化学 III	2	有機化学 I	2
有機化学 IV	2	有機化学 II	2
特別ニーズ教育論	2	有機化学 III	2
		有機化学 IV	2
		物理実験	2
		基礎化学実験 I	3
		基礎化学実験 II	3
		化学実験 I	3
		化学実験 II	3
		高分子化学 I	2
		生命化学 I	2
		生命化学 II	2
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
機能分子・生命化学科			
人材養成目的			
機能分子・生命化学科は、化学と化学技術について、			
教育と先端的な研究をとおして、また、本学の教育理念			
(自由主義・キリスト教主義・国際主義)に基づき、環境			
や生命を意識したナノ・バイオを含む化学の基礎と応用			
に関する幅広い学術的な知識・技術を身に付けて、「機能			
分子創成及び生命現象解明の化学」に関連する工学・薬			
学・医学に貢献できる独創性にあふれ、問題解決能力を備			
えた人材を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位	○選択科目	
○必修科目		A群 I 類	
工学倫理	2	A I - 1	
解析学 I	2	無機構造論	2
解析学 II	2	高分子化学 II	2
線形代数学 I	2	分子分光學 I	2
線形代数学 II	2	分子分光學 II	2
物理学 I	2	機能分子計測学	2
物理学 II	2	有機反応論 I	2
物理化学 I	2	有機反応論 II	2
物理化学 II	2	タンパク質化学	2

遺伝子工学	2	学外実習 2	2
高分子化学 III	2	界面・コロイド工学	2
錯体化学	2	拡散分離工学 I	2
A I - 2		電気電子材料	2
化学工学 I	2	プロセス設計	2
化学工学 II	2	プロセス制御	2
A I - 3		知的財産権	2
物理学演習	2	生物学概論 I	2
物理化学演習 I	2	生物学概論 II	2
物理化学演習 II	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
有機化学演習 I	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
有機化学演習 II	2	ただし、協定校単位互換科目は、12 単位を限度として	
A 群 II 類		卒業必要単位に算入される。	
プログラミング演習	2	B 群 I 類	
外国書講読(英)	2	第一外国語科目	
無機反応論	2	Academic English for Science 1	1
無機応用化学 I	2	Academic English for Science 2	1
無機応用化学 II	2	Academic English for Science 3	1
無機機能物質化学	2	Academic English for Science 4	1
統計力学	2	選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
高分子化学 IV	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
有機機能物質化学	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
生体分子分光学	2	なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
生物無機化学	2	準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群	
環境科学	2	I 類の単位に認定する。	
特別講義 I	2	B 群 II 類	
特別講義 II	2	第二外国語科目	
特別講義 III	2	選択科目 B 群 II 類(第二外国語科目)は、全学共通教養	
特別講義 IV	2	教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ	
応用数学 I	2	ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から	
応用数学 II	2	選択履修すること。	
学外実習 1	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2 単位を	

上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びチューービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス 1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語 1(読解 A VI)～日本語 1(文法 IX)、日本語 2(読解 A VI)～日本語 2(文法 IX)、ビジネス日本語 C、D のうち 4 単位を、選択科目 B 群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目 B 群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 64 単位、選択科目 64 単位以上(ただし、A 群は A I - 1 から 16 単位以上、A I - 2 から 2 単位以上、A I - 3 から 6 単位以上を含めて 42 単位以上、B 群は I 類から 8 単位以上、Ⅱ類から 4 単位以上、Ⅲ類から 4 単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上)を含めて 22 単位以上)、合計 128 単位以上を履修しなければならない。

○自由科目

基礎物理	2
数学基礎 1	1

数学基礎 2	1
環境経済学	2
数理統計学	2
製図学	2
管理工学	2
生物学実験	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
幾何学 I	2
幾何学 II	2
確率・統計 I	2
確率・統計 II	2
コンピュータと数学	2
教育実習指導	1
教職実践演習(中・高)	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
人権教育論	2
教育課程論	2
工業数学演習 II	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
地学実験	1
特別ニーズ教育論	2

化学システム創成工学科

人材養成目的

化学システム創成工学科は、持続可能な社会・環境づくりに貢献していく化学技術について、本学の教育理念

である自由主義・キリスト教主義・国際主義をとおして、
化学及び化学工学を基盤とする工学全般にわたる幅広い
学術的な知識・技術を身に付けて、地球環境、資源・エネ
ルギー、バイオテクノロジーなどが関わる諸問題の解決、
すなわち「新しい化学システムの創成」に貢献する人材を
養成することを目的とする。

基礎化学実験 I	3
基礎化学実験 II	3
化学システム工学実験 I	3
化学システム工学実験 II	3
卒業論文 I	2
卒業論文 II	2

科 目	履修単位	○選択科目	
○必修科目		○選択科目	
		A群 I 類	
線形代数学 I	2	工学倫理	2
線形代数学 II	2	プログラミング法 II	2
解析学 I	2	工業数学演習 I	2
解析学 II	2	工業数学演習 II	2
物理学 I	2	工業数学演習 III	2
物理学 II	2	物理化学 IV	2
プログラミング法 I 及び演習	2	物理化学 V	2
無機化学 I	2	生物化学	2
無機化学 II	2	機器分析 I	2
物理化学 I	2	機器分析 II	2
物理化学 II	2	化学工学熱力学	2
物理化学 III	2	科学英語	2
分析化学 I	2	特別講義 I	2
分析化学 II	2	特別講義 II	2
有機化学 I	2	高分子化学	2
有機化学 II	2	移動現象論 II	2
反応工学 I	2	材料力学	2
移動現象論 I	2	反応工学 II	2
拡散分離工学 I	2	粉体工学	2
拡散分離工学 II	2	生物化学工学	2
機械的分離工学	2	プロセス制御	2
化学システム創成工学概論	2	界面・コロイド工学	2
化学工学量論演習 I	2	プロセス設計	2
化学工学量論演習 II	2	材料プロセス工学	2

物理化学演習	2
A群Ⅱ類	
電子工学概論	2
数理統計学	2
製図学	2
物理実験	2
学外実習 1	2
学外実習 2	2
電子デバイス I	2
電気工学実験	2
高分子化学 III	2
無機反応論	2

上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、協定校単位互換科目は、6単位を限度として卒業必要単位に算入される。

B群Ⅰ類

第一外国語科目	
Academic English for Science 1	1
Academic English for Science 2	1
Academic English for Science 3	1
Academic English for Science 4	1

選択科目B群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水単以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群Ⅰ類の単位に認定する。

B群Ⅱ類

第二外国語科目

選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ

ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

生物学概論 I	2
生物学概論 II	2
確率・統計 I	2
確率・統計 II	2
コンピュータと数学	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法
必修科目 64 単位、選択科目 64 単位以上(ただし、A群

は I 類から 34 単位以上を含めて 42 単位以上, B 群は I 類から 8 単位以上, II 類から 4 単位以上, III 類から 4 単位以上 (うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上), C 群を含めて 22 単位以上), 合計 128 単位以上を履修しなければならない。

○自由科目

基礎物理	2
数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
管理工学	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
地学実験	1
幾何学 I	2
幾何学 II	2
人権教育論	2
教育課程論	2
代数学 III	2
応用幾何学	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4

教職実践演習(中・高)	2
代数学	2
生物学実験	1
特別ニーズ教育論	2

環境システム学科

人材養成目的
環境システム学科は、環境科学について、自然科学分野の横断的な知識をもとにシステムとしての環境の特質を理解することをおして、問題を発見し、論理的な思考と豊かな発想を持って科学的に分析する能力、そして学際的な素養をもとに問題を解決する能力を身に付けて、各種産業界や研究・教育機関等において貢献する人材を養成することを目的とする。

科目 履修単位

○必修科目

線形代数学 I	2
線形代数学 II	2
解析学 I	2
解析学 II	2
物理学 I	2
物理学 II	2
無機化学	2
有機化学 I	2
生物学 I	2
生物学 II	2
地球科学 I	2
地球科学 II	2
環境システム学概論	2
環境システム基礎実験 A	1
環境システム基礎実験 B	2
環境システム基礎実験 C	1

科学技術論	2	都市環境学	2
環境システム応用実験 A	2	数理統計学 I	2
環境システム応用実験 B	2	数理統計学 II	2
卒業論文 I	2	数値計算	2
卒業論文 II	2	環境シミュレーション	2
○選択科目		化学熱力学	2
A群I類		電気化学	2
必修選択科目		環境経済学	2
環境物質科学 I	2	地球システム科学	2
環境物質科学 II	2	地球環境変動論	2
地球環境科学 I	2	地球ダイナミクス	2
地球環境科学 II	2	地球観測技術	2
環境地球化学	2	環境影響評価	2
資源・エネルギー学 I	2	自然災害論	2
資源・エネルギー学 II	2	防災科学	2
生命環境科学	2	エネルギー環境学	2
地球物質科学	2	エネルギー反応論	2
生態学	2	保全生態学	2
A群II類		生物資源学	2
A II - 1		A II - 2	
環境系選択科目		工学系選択科目	
物理学基礎	2	移動現象論 I	2
生物学基礎	2	アナログ電子回路	2
有機化学 II	2	分析化学 I	2
応用数学 I	2	分析化学 II	2
応用数学 II	2	熱統計力学	2
プログラミング I	2	応用力学	2
プログラミング II	2	電気電子材料	2
地圏環境科学	2	デジタル電子回路	2
動物行動学	2	超音波エレクトロニクス II	2
人間環境科学	2	移動現象論 II	2
地域環境学	2	生物化学工学	2

知的財産権	2
学外実習 1	2
学外実習 2	2

上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、協定校単位互換科目は、8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

B群Ⅰ類

第一外国語科目

Academic English for Science 1	1
Academic English for Science 2	1
Academic English for Science 3	1
Academic English for Science 4	1

選択科目B群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群Ⅰ類の単位に認定する。

B群Ⅱ類

第二外国語科目

選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、

保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目40単位、選択科目88単位以上、合計128単位以上を履修すること。

ただし、選択科目については、A群はⅠ類から16単位以上、AⅡ-1から36単位以上を含めて56単位以上、B群はⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類から10単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
人権教育論	2
教育課程論	2
物理実験	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2

教科教育法 B(理科)	2	コンピュータ入門	2
教科教育法 C(理科)	2	情報処理入門	2
教育実習指導	1	コンピュータプログラミング I	2
教育実習 A	2	コンピュータプログラミング II	2
教育実習 B	2	数理ゼミナール I	2
教育実習 C	4	数理ゼミナール II	2
教職実践演習(中・高)	2	卒業論文 I	2
特別ニーズ教育論	2	卒業論文 II	2

○選択科目

数 理 シ ス テ ム 学 科

人材養成目的

数理システム学科は、数理学について、講義、問題演習及び、コンピュータ実習をとおして、数学を中心とする理学的素養及びコンピュータを用いて様々な問題を具体的に解く能力と統計処理能力を身に付けて、情報・金融関連産業など高度な数学的能力を必要とする企業や、次世代の高度な理数能力の養成を担う教育機関、または数理学の研究機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目

解析学 I	4
解析学 II	4
線形代数学 I	2
線形代数学 II	2
数学演習 I	1
数学演習 II	1
確率・統計基礎	2
数理システム演習 I	2
数理システム演習 II	2
数理システム演習 III	2
数理システム演習 IV	2

A群I類

物理学 I	2
物理学 II	2
複素解析	2
フーリエ・ラプラス解析	2
集合と位相	2
微分方程式	2
ベクトル解析	2
代数学 I	2
代数学 II	2
代数学 III	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
数学演習 III	1
数学演習 IV	1
数理モデル	2
離散数理	2
確率・統計	2
数理統計	2
応用微分方程式	2
積分論	2
応用解析学	2
応用代数学	2

応用幾何学	2	環境物質科学 I	2
数学史	2	生命環境科学	2
数値解析 I	2	地球環境科学 II	2
数値解析 II	2	デジタル信号処理	2
データサイエンス I	2	不規則信号論	2
データサイエンス II	2	コンパイラ	2
金融・投資の統計科学	2	符号理論	2
数理計画法	2	画像処理	2
計算代数 I	2	統計力学	2
計算代数 II	2	工業材料 II	2
応用数学 I	2	管理工学	2
応用数学 II	2	量子力学	2
数理システム特別講義	2	化学工学 II	2
学外実習 1	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
学外実習 2	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
A群II類		ただし、協定校単位互換科目は、10単位を限度として	
コンピュータグラフィックス	2	卒業必要単位に算入される。	
工業材料 I	2	B群I類	
有機化学 I	2	第一外国語科目	
有機化学 II	2	Academic English for Science 1	1
無機化学 I	2	Academic English for Science 2	1
無機化学 II	2	Academic English for Science 3	1
基礎物理	2	Academic English for Science 4	1
電気回路基礎	2	選択科目B群I類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
電子回路基礎	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
代数構造	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
言語理論	2	なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
情報理論	2	準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群	
電気磁気学 I	3	I類の単位に認定する。	
電気磁気学 II	3	B群II類	
応用力学	2	第二外国語科目	
化学工学 I	2	選択科目B群II類(第二外国語科目)は、全学共通教養	

教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

情報と社会	2
コンピュータネットワーク	2
情報セキュリティ	2
情報通信ネットワーク実習	1
ネットワーク応用	2
ワイヤレス通信	2
情報と職業	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択

科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目40単位、選択科目88単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群はⅠ類から40単位以上を含めて52単位以上、B群はⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類から10単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

情報メディア	2
情報メディア実習	1
人権教育論	2
デジタル制御・同演習	2
計算機ハードウェア	2
計算機アーキテクチャ	2
通信ネットワーク	2
CプログラミングⅢ	1
情報システム実習	1
教育課程論	2
コンピュータと数学	2
情報システム工学	2
ネットワークシステム構成論	2
環境経済学	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A(情報)	2
教科教育法 B(情報)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2

教育実習 B	2	代数学 II	2
教育実習 C	4	化学	2
教職実践演習(中・高)	2	生物学	2
特別ニーズ教育論	2	物理学基礎	2
知識情報処理	2	力学	2
データベースシステム	2	生命医科学概論	2
		製図学基礎	2
		コンピュータプログラミング	2
生 命 医 科 学 部		医工・医情報学概論	2
人材養成目的		材料力学 I	2
生命医科学部は、生命現象の本質を科学的に理解すると同時に、その制御機能を多角的な視点から明らかにする教育研究活動をとおして、生命医科学に関連するさまざまな課題に対して、工学ならびに理学を基盤とする総合的な知識と関連する技術を身に付けて、健康・医療に関する様々な社会的要請に対応できる人材を養成することを目的とする。		物理学 I	2
		人体の構造と機能 I	2
		材料力学 II	2
		応用数理 I	2
		医工学基礎実験	2
		医用設計工学実習 I	2
		材料工学 I	2
		生化学	2
		制御工学 I	2
医 工 学 科		制御工学 II	2
人材養成目的		医工学応用実験	2
医工学科は、ヒトを生体システムとして捉え、機械工学と医学の融合領域において、再生医療、バイオメカニクス、バイオマテリアル、及びバイオリボティクスの分野について、講義と実験実習をとおして、問題設定能力と問題解決能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。		医用設計工学実習 II	2
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
		○選択科目	
		A群 I 類	
		A群 I 類-1	
科 目	履修単位	数学基礎	2
○必修科目		応用数理 II	2
微分積分学 I	2	物理学 II	2
微分積分学 II	2	コンピュータ演習	2
代数学 I	2	電気回路・電子回路	2

電磁気学	2	超音波エレクトロニクス	2
計測工学	2	医用情報処理	2
医用機械設計法	2	医用画像工学	2
基礎数理統計学	2	生物情報	2
応用数理統計学	2	バイオインフォマティクス	2
材料工学 II	2	アンチエイジング	2
熱力学	2	機能性食品医学	2
A群 I 類-2		神経科学	2
材料力学演習 I	2	脳神経機構学	2
材料力学演習 II	2	ストレス適応科学	2
流体力学	2	バイオマーカー解析学	2
バイオマテリアル	2	解析力学	2
バイオメカニクス	2	統計力学	2
医用ロボット	2	複素解析	2
メカトロニクス	2	B群 I 類	
BioMEMS	2	選択科目 B群 I 類は、全学共通教養教育科目の外国語	
再生医科学	2	教育科目の英語から選択履修すること。	
外科学概論 (病態生理学)	2	なお、TOEIC, TOEFL, 実用英語技能検定試験及び国際	
臨床解剖学概論	2	連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた	
A群 II 類		者は、4 単位を限度として、選択科目 B群 I 類の単位に	
A群 II 類-1		認定する。	
スポーツ運動学	2	B群 II 類	
公衆衛生学	2	選択科目 B群 II 類は、全学共通教養教育科目の英語以	
ケア倫理学	2	外の外国語のうちドイツ語又はフランス語から選択履修	
スポーツ・バイオメカニクス	2	すること。	
リハビリテーション医学	2	B群 III 類	
人体の構造と機能 II	2	日本の憲法	2
臨床医学概論	2	教職概論	2
内科学概論	2	教育原理	2
特別講義	2	人権教育論	2
A群 II 類-2		教育課程論	2
放射線科学	2	発達と学習の心理学	2

教育制度と学校経営	2	の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単	
学校教育社会学	2	位に算入される。	
道徳教育の理論と実践	2	○自由科目	
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	地学概論 I	2
教育方法論	2	地学概論 II	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	地学実験	1
教育相談の理論と方法	2	化学実験	3
選択科目B群Ⅲ類は、上記の科目に加え、全学共通教		教科教育法 A1(数学)	2
養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際		教科教育法 A2(数学)	2
教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科		教科教育法 B(数学)	2
目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科		教科教育法 C(数学)	2
目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)、		教科教育法 A1(理科)	2
他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コ		教科教育法 A2(理科)	2
ンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学		教科教育法 B(理科)	2
IES科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選		教科教育法 C(理科)	2
択履修すること。		教職実践演習(中・高)	2
C 群		教育実習指導	1
計算機代数	2	教育実習 A	2
幾何学 I	2	教育実習 B	2
幾何学 II	2	教育実習 C	4
応用微分方程式	2	医生命基礎実験	2
代数学 III	2	学校図書館サービス論	2
応用代数学	2	ニューロサイエンス入門 1	2
ベクトル解析	2	ニューロサイエンス入門 2	2
集合と位相	2	科学技術概論 I	2
応用幾何学	2	科学技術概論 II	2
○日本語・日本文化教育科目		アウトリーチ実習	2
日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に		サイエンスライティング	2
限る。日本語1(読解AVI)～日本語1(文法IX)、日本語2		サイエンスとインテリジェンス	2
(読解AVI)～日本語2(文法IX)、ビジネス日本語C、ビ		サイエンス・ナウ 1	2
ジネス日本語Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のう		サイエンス・ナウ 2	2
ち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他		サイエンス・ナウ 3	2

	単 位	科 目	履修単位
サイエンス・ナウ 4	2		
サイエンス・ナウ 5	2	○必修科目	
サイエンス・ナウ 6	2	微分積分学 I	2
サイエンス・ナウ 7	2	微分積分学 II	2
ビジネスワークショップ	2	線形代数学 I	2
メディカルワークショップ	2	生物学	2
取材・インタビュー実践講座	2	物理科学実験 I	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2	物理学基礎	2
特別ニーズ教育論	2	生命医科学概論	2
スクールインターンシップ	2	医工・医情報学概論	2
特別講義アドバンス	2	化学	2
履修方法		知覚情報システム論	2
必修科目 54 単位, 選択科目 74 単位以上, 合計 128 単 位以上を履修しなければならない。		エレクトロニクス I	4
		物理科学実験 II	2
ただし, 選択科目については, A群 I 類-1 から 12 単位, I 類-2 から 14 単位を含め A群 I 類から 26 単位 以上, A群 II 類-1 から 8 単位以上を含め A群 II 類から 16 単位以上, A群全体から 42 単位以上, B群 I 類から 8 単位以上, B群 II 類から 4 単位以上, B群 III 類から 8 単 位以上を含め B群及び C群から 20 単位以上を履修しな ければならない。		エレクトロニクス II	4
		情報処理工学	2
		物理学 I	2
		医情報応用実験 I	2
		医情報応用実験 II	2
		生化学	2
		フーリエ・ラプラス解析	2
		プログラミング I	4
		人体の構造と機能 I	2
		医情報応用実験 III	2
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
		○選択科目	
		A群 I 類	
		A群 I 類-1 a	
		医用機器概論	2
		生物情報概論	2
		複素解析	2
医 情 報 学 科			
人材養成目的			
医情報学科は, 生体情報の取得・制御に関する知識や 技能と, 生体情報処理機構を次世代高度情報システムの 構築へと展開できる応用力について, 幅広いリベラルアー ツと自然科学基礎, 電子・情報工学, 生体情報, 脳科学 に関する講義や演習, 実験, 卒業研究をとおして, 自発的 に問題発見・解決を行い, それを伝えることのできる創造 力を身に付けて, 企業や研究所等において活躍する人材を 養成することを目的とする。			

デジタル信号処理	2	スポーツ運動学	2
知覚認知	2	ケア倫理学	2
電子計測	2	スポーツ・バイオメカニクス	2
プログラミング II	2	人体の構造と機能 II	2
基礎数理統計学	2	システム生物科学	2
システム思考	2	臨床医学概論	2
構造有機化学	2	内科学概論	2
A群 I 類-1 b		外科学概論 (病態生理学)	2
医情報応用実験 IV	2	再生医科学	2
特別演習実習 A	2	アンチエイジング	2
特別演習実習 B	2	薬理学	2
A群 I 類-2		神経科学	2
線形代数学 II	2	リハビリテーション医学	2
電磁気学	2	臨床解剖学概論	2
電子回路	2	神経情報伝達制御学	2
物理学 II	2	遺伝情報医学 (病態生理学)	2
応用微分方程式	2	脳神経機構学	2
放射線科学	2	特別講義	2
医用情報処理	2	ニューロサイエンス入門 1	2
特別講義 A	2	ニューロサイエンス入門 2	2
特別講義 B	2	ヒトの知的機能と遺伝要因	2
生物情報	2	A群 II 類-2	
バイオインフォマティクス	2	アナログ電子回路	2
応用数理統計学	2	画像処理	2
超音波エレクトロニクス	2	バイオメカニクス	2
プロジェクト実習	2	メカトロニクス	2
医用画像工学	2	データベースシステム	2
量子力学	2	パターン認識	2
分析化学	2	バイオマテリアル	2
A群 II 類		BioMEMS	2
A群 II 類-1		医用ロボット	2
公衆衛生学	2	コンピュータグラフィックス	2

科学技術概論 I	2	教育課程論	2
科学技術概論 II	2	発達と学習の心理学	2
アウトリーチ実習	2	教育制度と学校経営	2
サイエンスライティング	2	学校教育社会学	2
サイエンスとインテリジェンス	2	道徳教育の理論と実践	2
サイエンス・ナウ 1	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
サイエンス・ナウ 2	2	教育方法論	2
サイエンス・ナウ 3	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
サイエンス・ナウ 4	2	教育相談の理論と方法	2
サイエンス・ナウ 5	2	選択科目 B 群Ⅲ類は、上記の科目に加え、全学共通教	
サイエンス・ナウ 6	2	養教育科目（同志社科目、キャリア形成支援科目、国際	
サイエンス・ナウ 7	2	教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科	
ビジネスワークショップ	2	目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科	
メディカルワークショップ	2	目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目）、	
取材・インタビュー実践講座	2	他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コ	
未知型探索ビジネスワークショップ	2	ンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学	
B 群 I 類		I E S 科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選	
選択科目 B 群 I 類は、全学共通教養教育科目の外国語		択履修すること。	
教育科目の英語から選択履修すること。			
なお、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定試験及び国際		C 群	
連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた		計算機代数	2
者は、4 単位を限度として、選択科目 B 群 I 類の単位に		幾何学 I	2
認定する。		幾何学 II	2
B 群 II 類		代数学 III	2
選択科目 B 群 II 類は、全学共通教養教育科目の英語以		応用代数学	2
外の外国語のうちドイツ語又はフランス語から選択履修		ベクトル解析	2
すること。		集合と位相	2
B 群 III 類		応用幾何学	2
日本の憲法	2	○日本語・日本文化教育科目	
教職概論	2	日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に	
教育原理	2	限る。日本語 1(読解 AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語 2	
人権教育論	2	(読解 AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語 C、ビ	
		ジネス日本語 Dのうち 4 単位を、選択科目 B 群 II 類のう	

ち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

○自由科目

教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
製図学基礎	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
地学実験	1
化学実験	3
学校図書館サービス論	2
医療情報学	2
生物センシング工学	2
生物物理学	2
自己組織化の科学	2
医用画像システム	2
有機合成	2
有機反応 1	2
有機反応 2	2
臨床医学開発	2

神経行動科学	2
応用化学	2
超音波医科学	2
生体情報アルゴリズム	2
バイオメディカルコンピューティング	2
生物音響工学	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
特別講義アドバンス	2
スポーツ医学の未来	2
履修方法	

必修科目 54 単位，選択科目 74 単位以上，合計 128 単
位以上を履修しなければならない。

ただし，選択科目については，A群Ⅰ類－1 a から 12
単位以上，1 b から 2 単位以上を含めA群Ⅰ類から 26
単位以上，A群Ⅱ類－1 から 8 単位以上，これらを含め
A群全体から 42 単位以上，B群Ⅰ類から 8 単位以上，B
群Ⅱ類から 4 単位以上，B群Ⅲ類から 8 単位以上を含め
B群及びC群から 20 単位以上を履修しなければならない。

医 生 命 シ ス テ ム 学 科

人材養成目的

医生命システム学科は，ヒトをひとつの生命システム
と捉え，それを維持する生理機構やその破綻による各種
疾病の発症機構，さらにはその治療・予防について，生命
科学，薬学，基礎医学，臨床医学に関する講義，ならび
にこれらと密接に関連した実験実習をとおして，体系的な
理解能力と実践的な問題解決能力を身に付けて，生命科
学，基礎医学，健康科学の関連分野において活躍する人材
を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目		分子生物学 II	2
生命医科学概論	2	内科学概論	2
生物学	2	特別講義 A	2
化学	2	特別講義 B	2
微生物学	2	分子創薬科学	2
細胞生物学 I	2	バイオマーカー解析学	2
公衆衛生学	2	アンチエイジング	2
医生命基礎実験	2	機能性食品医学	2
医工・医情報学概論	2	神経科学	2
臨床医学概論	2	神経情報伝達制御学	2
人体の構造と機能 I	2	脳神経機構学	2
ケミカルバイオロジー	2	ストレス適応科学	2
分子生物学 I	2	遺伝情報医学(病態生理学)	2
生体物質分析化学	2	外科学概論(病態生理学)	2
システム生物科学	2	再生医科学	2
ケア倫理学	2	ヒトの知的機能と遺伝要因	2
ヒトの病理と防御システム I	2	創薬化学	2
ヒトの病理と防御システム II	2	ニューロサイエンス入門 1	2
生化学	2	ニューロサイエンス入門 2	2
物理学基礎	2	スポーツ医学の未来	2
コンピュータプログラミング	2	発生遺伝学概論	2
分子生物学実験	2	神経機能学	2
人体の構造と機能 II	2	A群II類	
人体の構造と機能 III	2	線形代数学 I	2
人体の構造と機能実験	2	線形代数学 II	2
薬理学	2	知覚情報システム論	2
基礎数理統計学	2	数学基礎	2
卒業論文 I	2	微分積分学 I	2
卒業論文 II	2	微分積分学 II	2
○選択科目		スポーツ運動学	2
A群I類		生物情報概論	2
細胞生物学 II	2	電気回路・電子回路	2

医用機器概論	2	サイエンス・ナウ 1	2
計測工学	2	サイエンス・ナウ 2	2
スポーツ・バイオメカニクス	2	サイエンス・ナウ 3	2
リハビリテーション医学	2	サイエンス・ナウ 4	2
医用情報処理	2	サイエンス・ナウ 5	2
制御工学 I	2	サイエンス・ナウ 6	2
バイオマテリアル	2	サイエンス・ナウ 7	2
バイオメカニクス	2	ビジネスワークショップ	2
BioMEMS	2	メディカルワークショップ	2
放射線科学	2	取材・インタビュー実践講座	2
生物情報	2	未知型探索ビジネスワークショップ	2
バイオインフォマティクス	2	海外キャリアリサーチ	2
応用数理統計学	2	B群I類	
電磁気学	2	選択科目B群I類は、全学共通教養教育科目の外国語	
画像処理	2	教育科目の英語から選択履修すること。	
医用画像工学	2	なお、TOEIC, TOEFL, 実用英語技能検定試験及び国際	
医用機械設計法	2	連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた	
流体力学	2	者は、4単位を限度として、選択科目B群I類の単位に	
医用ロボット	2	認定する。	
メカトロニクス	2	B群II類	
デジタル信号処理	2	選択科目B群II類は、全学共通教養教育科目の英語以	
知覚認知	2	外の外国語のうちドイツ語又はフランス語から選択履修	
電子計測	2	すること。	
超音波エレクトロニクス	2	B群III類	
臨床解剖学概論	2	日本の憲法	2
電磁気と生命体	2	教職概論	2
特別講義	2	教育原理	2
科学技術概論 I	2	人権教育論	2
科学技術概論 II	2	教育課程論	2
アウトリーチ実習	2	発達と学習の心理学	2
サイエンスライティング	2	教育制度と学校経営	2
サイエンスとインテリジェンス	2	学校教育社会学	2

道徳教育の理論と実践	2	地学概論 I	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	地学概論 II	2
教育方法論	2	地学実験	1
生徒・進路指導の理論と方法	2	物理実験	2
教育相談の理論と方法	2	化学実験	3
選択科目B群Ⅲ類は、上記の科目に加え、全学共通教養教育科目（同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目）、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。		学校図書館サービス論	2
		特別ニーズ教育論	2
		スクールインターンシップ	2
		特別講義アドバンス	2

履修方法

必修科目 56 単位、選択科目 72 単位以上、合計 128 単位以上を履修しなければならない。ただし、選択科目については、A群からI類 20 単位以上を含め 40 単位以上、B群I類から 8 単位以上、B群II類から 4 単位以上、B群III類から 8 単位以上を含めB群から 20 単位以上を履修しなければならない。

○日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。日本語1(読解AⅥ)～日本語1(文法IX)、日本語2(読解AⅥ)～日本語2(文法IX)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dのうち4単位を、選択科目B群II類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群III類の単位として、卒業必要単位に算入される。

○自由科目

教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4

履修方法

必修科目 56 単位、選択科目 72 単位以上、合計 128 単位以上を履修しなければならない。ただし、選択科目については、A群からI類 20 単位以上を含め 40 単位以上、B群I類から 8 単位以上、B群II類から 4 単位以上、B群III類から 8 単位以上を含めB群から 20 単位以上を履修しなければならない。

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

人材養成目的

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科は、健康とスポーツ活動及び、それらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツ健康科学の知識と理論を総合的・体系的に修得し、地域・社会、学校教育、スポーツ関連産業及びヘルスケア産業等の現場で、専門的な立場から、健康の維持・増進とスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる多様な人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目

基礎科目

ファースト・イヤー・セミナー	2	スポーツ栄養学	2
スポーツ健康科学論入門	2	スポーツ・バイオメカニクス	2
生理学	2	コンディショニング論	2
スポーツ生理学	2	スポーツ心理学	2
スポーツ社会学	2	スポーツの原理	2
基礎実習	2	スポーツ測定評価論	2
演習科目		メンタル・トレーニング論	2
演習 I	2	コーチング論	2
演習 II	2	スポーツ・マーケティング論	2
演習 III	2	障がい者スポーツ論	2
演習 IV	2	障がい者スポーツ論(応用)	2
卒業研究 A	3	スポーツ統計情報処理	2
卒業研究 B	3	スポーツ倫理学	2
○選択科目		スポーツ・トピックス 1	2
A 群(基幹科目)		スポーツ・トピックス 2	2
健康運動論	2	スポーツ行政論	2
スポーツ政策論	2	スポーツ組織文化論	2
公衆衛生学	2	身体運動制御論	2
スポーツ運動学	2	スポーツ生体ダイナミクス	2
トレーニング論	2	健康教育学	2
スポーツ教育学	2	ヒトの病理と防御システム I	2
A群より 6 単位以上履修すること。		リハビリテーション医学	2
B 群(展開科目)		スポーツ生化学	2
スポーツ機能解剖学	2	薬理学	2
生命医科学概論	2	精神保健論	2
人体の構造と機能 I	2	スポーツマッサージ・テーピング論	2
スポーツ医学 A(内科系)	2	高齢者スポーツ論	2
スポーツ医学 B(外科系)	2	競技者育成システム論	2
生活習慣病概論	2	スポーツ経済学	2
発育発達と老化	2	スポーツビジネス論	2
栄養学	2	スポーツ人類学	2
学校保健	2	スポーツ・メディア論	2

スポーツ・マネジメント論	2	スポーツ方法実習(ニュースポーツ)	1
障がい者スポーツ指導論	2	スポーツ指導法実習(フィットネス)	1
スポーツ健康外国書講読 I	2	スポーツ指導法実習(器械運動)	1
スポーツ健康外国書講読 II	2	スポーツ指導法実習(水泳)	1
環境生理学	2	スポーツ指導法実習(バスケットボール)	1
スポーツ分子生物学	2	スポーツ指導法実習(バレーボール)	1
インターンシップ演習	2	スポーツ指導法実習(サッカー)	1
スポーツ健康科学グローバル演習	2	スポーツ指導法実習(卓球)	1
スポーツ健康科学特殊講義 A	2	スポーツ指導法実習(テニス)	1
スポーツ健康科学特殊講義 B	2	スポーツ指導法実習(柔道)	1
B群より 22 単位以上履修すること。		スポーツ指導法実習(剣道)	1
C 群(応用科目)		スポーツ指導法実習(ダンス)	1
C群 I 類		スポーツ指導法実習(スキー)	1
スポーツ方法実習(フィットネス)	1	スポーツ指導法実習(ゴルフ)	1
スポーツ方法実習(器械運動)	1	スポーツ指導法実習(野外活動)	1
スポーツ方法実習(水泳)	1	スポーツ指導法実習(バドミントン)	1
スポーツ方法実習(バスケットボール)	1	スポーツ指導法実習(陸上競技)	1
スポーツ方法実習(バレーボール)	1	C群 II 類	
スポーツ方法実習(サッカー)	1	スポーツ健康科学特殊講義 S	2
スポーツ方法実習(卓球)	1	スポーツ健康科学応用演習	2
スポーツ方法実習(テニス)	1	C群 I 類より 4 単位以上を含めC群より 6 単位以上履	
スポーツ方法実習(柔道)	1	修すること。	
スポーツ方法実習(剣道)	1	D 群(隣接科目)	
スポーツ方法実習(ダンス)	1	スポーツ健康科学のための自然科学入門 A	2
スポーツ方法実習(スキー)	1	スポーツ健康科学のための自然科学入門 B	2
スポーツ方法実習(ゴルフ)	1	現代社会論	2
スポーツ方法実習(野外活動)	1	児童・家庭福祉論	2
スポーツ方法実習(バドミントン)	1	福祉社会論	2
スポーツ方法実習(フェンシング)	1	生物学	2
スポーツ方法実習(陸上競技)	1	発達と学習の心理学	2
スポーツ方法実習(ウォータースポーツ)	1	学習心理学(学習・言語心理学 I)	2
スポーツ方法実習(ソフトテニス)	1	生理心理学(神経・生理心理学)	2

学校心理学 (教育・学校心理学)	2
健康心理学 (健康・医療心理学)	2
生化学	2
内科学概論	2
外科学概論 (病態生理学)	2
臨床解剖学概論	2
E 群 (教育関連科目)	
人権教育論	2
学校教育社会学	2
保健体育科教育法 A1	2
保健体育科教育法 A2	2
教育方法論	2
保健体育科教育法 B	2
保健体育科教育法 C	2
選択科目A群, B群, C群, D群, E群より合計48単位以上(A群6単位以上, B群22単位以上, C群I類より4単位以上を含めC群より6単位以上を含む)を履修すること。	
F 群 (全学共通教養教育科目)	
全学共通教養教育科目 (「スポーツ・健康の科学A」, 「スポーツ・健康の科学B」, 「スポーツ・健康の科学C」を除く), 他学部設置科目, 同志社女子大学単位互換科目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目及びチュービンゲン大学 I E S 科目より 30 単位以上を履修すること。	
ただし, 全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち, 英語 8 単位, ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語及びコリア語のうち一つの外国語 4 単位, 並びに全学共通教養教育科目 (外国語教育科目, 「スポーツ・健康の科学A」, 「スポーツ・健康の科学B」, 「スポーツ・健康の科学C」を除く), 他学部設置科目, 同志社女子大学単位互換科目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目及びチュービンゲン大学 I E S 科目から 18 単	

位を含むこと。	
なお, 全学共通教養教育科目の「スポーツ・パフォーマンス 1」は, 2 単位を上限として卒業単位に算入する。	
TOEIC, TOEFL 等外部試験において, 一定水準以上の成果を修めた者は, 4 単位を限度として外国語教育科目の英語科目の単位として認定する。	
○日本語・日本文化教育科目	
日本語・日本文化教育科目の履修は, 外国人留学生に限る。履修した単位は, F 群の必要単位に算入する。なお, 日本語 1 (読解AⅥ)~日本語 2 (文法Ⅸ), ビジネス日本語C 及びビジネス日本語Dの単位を英語以外の外国語の単位に代えることができる。	
○自由科目	
教職概論	2
教育原理	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
教育課程論	2
教育制度と学校経営	2
道德教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
教職実践演習 (中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
健康運動指導実習	1
上記科目のほか, 全学共通教養教育科目 (保健体育科目) の「スポーツ・健康の科学A」, 「スポーツ・健康の科学B」, 「スポーツ・健康の科学C」を履修することが	

できる。

自由科目は卒業単位に算入しない。

履修方法

必修科目 26 単位(卒業研究 A・B 各 3 単位を含む), 選択科目 98 単位以上(A群, B群, C群, D群, E群, F群よりそれぞれの最低必要単位数以上を含む), 合計 124 単位以上を履修すること。

心理学実験(1)	2
心理学実験(2)	2
心理学実験(3)	2
心理学データ解析実習	2
プレ演習	2
演習(1)	2
演習(2)	2
卒業論文	8

○選択科目 I

心 理 学 部

心 理 学 科

人材養成目的

心理学部心理学科は、こころと行動の仕組みとその機能を実証的に明らかにし、それを通じて実社会への貢献を目指す学問である心理学を、専門的な講義及び少人数クラスにおける演習・実習をとおして学び、実証的なものの捉え方、そして基礎・応用心理学に関する高度な知識と技能を身に付け、ひいてはキリスト教主義の精神に基づき、こころの問題を解決する心理学の専門家、広く社会において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目

履修単位

○必修科目

心理学概論(1)	2
心理学概論(2)	2
臨床心理学概論	2
外国書講読(1)	2
外国書講読(2)	2
心理学統計法(1)	2
心理学統計法(2)	2
心理学研究法(1)	2
心理学研究法(2)	2
ファーストイヤーセミナー	2

A 群(神経・行動)

生理心理学(神経・生理心理学)	2
学習心理学(学習・言語心理学 I)	2
認知心理学(知覚・認知心理学)	2
精神生理学	2
感情心理学(感情・人格心理学 I)	2
神経科学の基礎	2
行動分析学(学習・言語心理学 II)	2
比較認知心理学	2
食行動の心理学	2
スポーツ心理学	2

B 群(臨床・社会)

パーソナリティ心理学(感情・人格心理学 II)	2
健康心理学(健康・医療心理学)	2
環境心理学	2
臨床社会心理学	2
心理学的支援法	2
精神疾患とその治療	2
実験社会心理学(1)(社会・集団・家族心理学 I)	2
実験社会心理学(2)(社会・集団・家族心理学 II)	2
産業・組織心理学	2

犯罪心理学(司法・犯罪心理学)	2	て履修した単位は、選択科目Ⅱに算入する。	
交通心理学	2	○選択科目Ⅱ	
リスク心理学	2	学校教育社会学	2
C 群(発達・教育)		教育原理	2
発達心理学	2	道徳教育の理論と実践	2
乳幼児心理学	2	教育方法論	2
障害者・障害児心理学	2	社会科・地理歴史科教育法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	社会科・公民科教育法	2
ヒューマン・モチベーション	2	社会科教育法 1	2
家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅲ)	2	社会科教育法 2	2
高齢者心理学	2	公民科教育法	2
学校心理学(教育・学校心理学)	2	教育制度と学校経営	2
教育相談の理論と方法	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
福祉心理学	2	教育実習 A	2
D 群(共通)		教育実習 B	2
心理学史	2	教育実習 C	4
心理学特論	2	教職概論	2
多変量解析法の基礎	2	教職実践演習(中・高)	2
心理学情報機器基礎	2	教育実習指導	1
心理学実験演習(上級)	2	教育課程論	2
心理学実験プロジェクト演習	2	哲学概論(1)	2
心理的アセスメント	2	哲学概論(2)	2
発達と学習の心理学	2	倫理学概論(1)	2
E 群(公認心理師共通)		倫理学概論(2)	2
公認心理師の職責	2	宗教学概論(1)	2
人体の構造と機能及び疾病	2	宗教学概論(2)	2
関係行政論	2	人文地理学(1)	2
心理演習	2	人文地理学(2)	2
心理実習(1)	2	地理学総論(1)	2
心理実習(2)	2	地理学総論(2)	2
選択科目Ⅰは、A群、B群及びC群から各6単位以上		地誌学	2
を含め32単位以上履修すること。なお、32単位を超え		日本文化史概説(1)	2

日本文化史概説(2)	2	スクールインターンシップ	2
東洋文化史概説(1)	2	学校図書館サービス論	2
東洋文化史概説(2)	2	日本の憲法	2
西洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅱは上記の科目のほか、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目及び	
西洋文化史概説(2)	2	大学コンソーシアム京都単位互換科目のうち、学部が定める科目から履修する。	
社会学概論	4		
経済原論	4		
人権教育論	2	ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラムにおいて、テュービンゲン大学 I E S 科目を修得した場合は、その単位を認定することがある。	
学校教育図書館論	2		
読書と豊かな人間性	2		
学校図書館メディアの構成	2	なお、全学共通教養教育科目の同志社科目及び宗教学	
学習指導と学校図書館	2	(1)、宗教学(2)より4単位以上、保健体育科目から2単位以上を含め46単位以上履修すること。	
情報メディアの活用	2		
生涯学習概論	2	○選択科目Ⅲ	
図書館情報学概論	2	選択科目Ⅲは、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のうち、学部が定める科目から履修する。英語8単位、英語以外の外国語4単位、計12単位以上を履修すること。	
図書館制度・経営論	2		
図書館情報技術論	2		
図書館情報サービス論Ⅰ	2		
図書館情報サービス論Ⅱ	2	TOEIC, TOEFL 等、学部が定める外部試験において、一定水準以上の成果を修めた場合は、4単位を上限として認定する。	
児童サービス論	2		
情報サービス演習Ⅰ	2		
情報サービス演習Ⅱ	2	ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラムにおいて、テュービンゲン大学 I E S 科目を修得した場合は、12単位を上限として認定することがある。	
図書館情報資源概論	2		
情報資源組織論Ⅰ	2		
情報資源組織論Ⅱ	2	なお、12単位を超えて履修、または認定された単位は、選択科目Ⅱに算入する。	
情報資源組織演習Ⅰ	2		
情報資源組織演習Ⅱ	2	○自由科目	
図書館情報学特論	2	特別ニーズ教育論	2
学術情報利用教育論	2	○外国人留学生科目	
図書館情報資源特論	2	外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修する。履修した単位は選択科目Ⅱの必要単位に算入	
図書・図書館史	2		
図書館演習	4		

する。なお、日本語 1(読解AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ)、日本語 2(読解AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ)およびビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位を選択科目Ⅲの単位に代えることができる。

以上、必修科目 42 単位（卒業論文 8 単位を含む）、選択科目Ⅰ 32 単位以上、選択科目Ⅱ 46 単位以上、選択科目Ⅲ 12 単位以上、合計 132 単位以上を履修すること。

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

人材養成目的

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科は、グローバル化した社会に対する幅広い教養と国際的センス、強い自立心と倫理観を養わせると同時に、高度で実践的・実用的外国語運用能力を習得させることをとおして、ビジネス関連の諸分野や教育機関、また国際政治や文化交流に係わる非営利事業の諸分野などの国際的舞台上、facilitator, negotiator, administrator として活躍できる人材を養成することを目的とする。

英語コース：現代における世界共通言語としての英語の重要性に鑑み、卓越した英語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び英語圏文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、グローバル時代を牽引する人材を養成することを目的とする。

中国語コース：国境を越えて地球規模で展開する中国語の重要性に鑑み、卓越した中国語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び中国

語圏文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、中国語圏への架け橋となる人材を養成することを目的とする。

日本語コース：留学生を対象とする日本語コースでは、日本文化・社会への深い造詣を持つ人材育成の重要性に鑑み、卓越した日本語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び日本文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、日本と世界を結ぶ架け橋となる人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
【各コース共通】	
Introduction to Global Communication	2
Seminar Project 1	2
Seminar Project 2	2
【英語コース】	
Introduction to English-Speaking Cultures	2
Introduction to Japanese Culture	2
Progress in Reading 1	2
Progress in Reading 2	2
Progress in Writing 1	2
Progress in Writing 2	2
Preparation for TOEFL	2
Preparation for Academic Study	2
Communicative Performance 1	4
Communicative Performance 2	4
Threshold Seminar 1	2
Threshold Seminar 2	2
Intermediate Seminar 1	2

Intermediate Seminar 2	2	グローバル化と日本社会 2	2
Advanced Seminar 1	2	応用演習 1	2
Advanced Seminar 2	2	応用演習 2	2
【中国語コース】		専門演習 1	2
基幹中国語Ⅰ会話	4	専門演習 2	2
基幹中国語Ⅱ会話	4	ワークショップ現代日本社会 1	2
基幹中国語Ⅲ会話	4	ワークショップ現代日本社会 2	2
基幹中国語Ⅰ講読	4	○選択科目Ⅰ	
基幹中国語Ⅱ講読	4	【英語コース】	
基幹中国語Ⅲ講読	4	A 群(English Proficiency Skills)	
上級中国語精読	2	Business English 1	2
上級中国語ライティング	2	Business English 2	2
基礎演習 1	2	Critical Reading	2
基礎演習 2	2	Critical Writing	2
基礎演習 3	2	Interpretation 1	2
専門演習 1	2	Interpretation 2	2
専門演習 2	2	Advanced Interpretation	2
専門演習 3	2	Translation 1	2
中国総合研究	2	Translation 2	2
【日本語コース】		Preparation for TOEIC	2
プレゼンテーション 1	2	Advanced Communicative Performance 1	2
プレゼンテーション 2	2	Advanced Communicative Performance 2	2
アカデミックライティング 1	2	B 群(Global Issues)	
アカデミックライティング 2	2	Environmental Issues	2
クリティカルリーディング 1	2	Media and Globalization	2
クリティカルリーディング 2	2	Technology and Communication	2
日本語コミュニケーションの基礎 1	2	World Economy and Business	2
日本語コミュニケーションの基礎 2	2	International Political Issues	2
日本語コミュニケーションの基礎 3	2	Special Topics in Global Issues 1	2
日本語コミュニケーションの基礎 4	2	Special Topics in Global Issues 2	2
ファーストイヤーセミナー	2	C 群(Cultural Issues)	
グローバル化と日本社会 1	2	Cultural Interaction	2

Intercultural Communication	2	教育実習 C	4
Japanese Culture and Society	2	教職実践演習 (中・高)	2
Cultural Issues in Literature	2	英語コースの者は選択科目 I A群から 8 単位以上, B	
Introduction to British Literature	2	群から 6 単位以上, C群から 6 単位以上, D群から 6 単	
Introduction to American Literature	2	位以上, E群から 1 言語を選択して 6 単位 (ただし, 6	
Special Topics in Cultural Issues 1	2	単位を超えて履修した単位は, 卒業要件単位に算入す	
Special Topics in Cultural Issues 2	2	る) に A群~F群 4 単位を加えた合計 36 単位以上を履	
D 群(Language Issues)		修すること。なお, これに加えて中国語コースの B・	
Knowledge of English	2	C・D群, 日本語コースの B・C・D群からも履修する	
Structure of English	2	ことができる。中国語コースの B・C・D群, 日本語コ	
History of English and World	2	ースの B・C・D群の単位は 6 単位を上限として卒業要	
Englishes	2	件単位に含めることができる。	
Contrastive Study of English and	2	【中国語コース】	
Japanese	2	A 群 1 類(基礎中国語)	
Special Topics in Language Issues 1	2	基幹中国語 I リスニング	1
Special Topics in Language Issues 2	2	基幹中国語 II リスニング	1
E 群(The German, French or Chinese Language)		基幹中国語 III リスニング	1
Communicative Skills in German I	3	基幹中国語 I ライティング	1
Communicative Skills in German II	3	基幹中国語 II ライティング	1
Communicative Skills in French I	3	基幹中国語 III ライティング	1
Communicative Skills in French II	3	基幹中国語応用 1	2
Communicative Skills in Chinese I	3	基幹中国語応用 2	2
Communicative Skills in Chinese II	3	基幹中国語応用 3	2
F 群(English Education)		A 群 2 類(実践的中国語)	
I C T活用基礎	2	ビジネス中国語会話	2
英語科教育法 A1	2	時事中国語	2
英語科教育法 A2	2	中国語コミュニケーション	2
英語科教育法 B	2	中国語速読技法	2
英語科教育法 C	2	ビジネス中国語ライティング	2
教育実習指導	1	日中翻訳技法	2
教育実習 A	2	中日翻訳技法	2
教育実習 B	2	中国語検定試験特別講座	2

通訳の理論と実践	2	履修すること。E群については、英語を母語とする者、	
B 群(グローバル論)		又はそれに準ずる者は英語コースの選択科目 I E群のド	
中国語圏の経済と貿易	2	イツ語、フランス語いずれかの言語を選択履修するもの	
中国語圏の資源と環境	2	とし、また中国語コースの選択科目 I E群の英語能力試	
現代中国の社会と文化	2	験特殊講座の単位認定を受けることとする。なお、これ	
中国語圏の政治事情	2	に加えて英語コースのB・C・D群、日本語コースの	
C 群(異文化間交渉論)		B・C・D群からも履修することができる。英語コース	
異文化間交渉概論	2	のB・C・D群、日本語コースのB・C・D群の単位は	
日中組織運営論	2	6単位を上限として卒業要件単位に含めることができ	
国際交流支援論	2	る。	
発信型日本学	2	【日本語コース】	
D 群(中国語論)		A 群(実践日本語)	
中国語文法論	2	ビジネス日本語 1	2
中国語の方言と諸言語	2	ビジネス日本語 2	2
中国語と日本語	2	通訳翻訳の基礎 1	2
コンテンポラリー・チャイニーズ論	2	通訳翻訳の基礎 2	2
E 群(英語)		通訳翻訳の実践 1	2
英語リーディング 1	1	通訳翻訳の実践 2	2
英語リーディング 2	1	時事日本語	2
英語リーディング 3	1	日本語検定試験講座	2
英語リーディング 4	1	B 群(グローバル論)	
英語コミュニケーション 1	1	グローバル化と日本企業	2
英語コミュニケーション 2	1	多文化間コミュニケーション	2
英語コミュニケーション 3	1	多文化共生社会と日本	2
英語コミュニケーション 4	1	多言語社会と言語政策	2
英語リーディング (上級)	2	C 群(日本文化論)	
英語コミュニケーション (上級)	2	日本の現代文学	2
英語能力試験特殊講座	2	日本のマンガとアニメ	2
中国語コースの者は選択科目 I A群1類から6単位以		京都学	2
上、A群2類から8単位以上、B群から4単位以上、C		日本のツーリズム	2
群から4単位以上、D群から4単位以上、E群から8単		D 群(日本語論)	
位以上にA群～E群2単位を加えた合計36単位以上を		社会の中の日本語	2

外国語から見た日本語	2	Improving German, French or Chinese 2	2
日本語教育	2	Current Trends in World Business 1	2
日本語コミュニケーションの諸相	2	Current Trends in World Business 2	2
E 群(日本語および第二外国語)		Current Trends in the World Economy 1	2
日本語インテンシヴ 1	3	Current Trends in the World Economy 2	2
日本語インテンシヴ 2	3	Current Trends in World Politics 1	2
英語リーディング 1	1	Current Trends in World Politics 2	2
英語リーディング 2	1	Current Trends in World Environmental	2
英語リーディング 3	1	Policy 1	
英語リーディング 4	1	Current Trends in World Environmental	2
英語コミュニケーション 1	1	Policy 2	
英語コミュニケーション 2	1	Topics in Globalization and Local	2
英語コミュニケーション 3	1	Issues 1	
英語コミュニケーション 4	1	Topics in Globalization and Local	2
英語リーディング(上級)	2	Issues 2	
英語コミュニケーション(上級)	2	Topics in Globalization and Local	2
英語初級インテンシヴ 1	3	Issues 3	
英語初級インテンシヴ 2	3	Topics in Globalization and Local	2
日本語コースの者は選択科目 I A群から 6 単位以上、		Issues 4	
B 群から 6 単位以上、C 群から 6 単位以上、D 群から 6		Topics in Communication and	2
単位以上、E 群から 6 単位以上、合わせて 30 単位以上履		Interaction 1	
修すること。なお、英語コースの B・C・D 群、中国語コ		Topics in Communication and	2
ースの B・C・D 群からも履修することができる。英語コ		Interaction 2	
ース B・C・D 群、中国語コース B・C・D 群の単位は、		Topics in Communication and	2
6 単位ずつ(合計 12 単位)を上限として卒業要件単位に含		Interaction 3	
めることができる。		Topics in Communication and	2
○選択科目 II		Interaction 4	
【英語コース】		Cultural Survey in Oceania 1	2
Communicative Skills in English A1	4	Cultural Survey in Oceania 2	2
Communicative Skills in English A2	4	Depth in American History 1	2
Communicative Skills in English B	2	Depth in American History 2	2
Improving German, French or Chinese 1	2	Depth in Oceanian History 1	2
		Depth in Oceanian History 2	2

Cultural Survey of Japan 1	2
Cultural Survey of Japan 2	2
Japan viewed from English-Speaking Countries 1	2
Japan viewed from English-Speaking Countries 2	2
Science of Language 1	2
Science of Language 2	2
Cultural Survey in Americas 1	2
Cultural Survey in Americas 2	2
Cultural Survey in Europe 1	2
Cultural Survey in Europe 2	2
Depth in European History 1	2
Depth in European History 2	2
Studies on Asian Countries 1	2
Studies on Asian Countries 2	2
Basics in Social Science 1	2
Basics in Social Science 2	2
Basics in Communication 1	2
Basics in Communication 2	2
Art and Communication 1	2
Art and Communication 2	2
Human and Science 1	2
Human and Science 2	2
Human and Science 3	2
Human and Science 4	2

英語コースの者は Study Abroad を通じて、各研修先で単位を修得し、選択科目Ⅱの科目から2単位以上の単位認定を受けること。ただし研修先大学の本科で修得した科目の中で上記科目に該当しない科目については選択科目Ⅲとして認定可能な場合がある。なお、災害、事故、感染症等により、Study Abroad が実施できなかった場合は、

選択科目Ⅱの科目を本学で開講し、代替とする場合がある。

【中国語コース】

展開中国語会話 1	2
展開中国語会話 2	2
展開中国語会話 3	2
展開中国語会話 4	2
展開中国語講読 1	2
展開中国語講読 2	2
展開中国語講読 3	2
展開中国語講読 4	2
展開中国語作文 1	2
展開中国語作文 2	2
展開中国語作文 3	2
展開中国語作文 4	2
中国の社会と文化 1	2
中国の社会と文化 2	2
中国の社会と文化 3	2
中国の社会と文化 4	2

中国語コースの者は Study Abroad を通じて、各研修先で単位を修得し、選択科目Ⅱの科目から2~30単位の単位認定を受けること。なお、災害、事故、感染症等により、Study Abroad が実施できなかった場合は、選択科目Ⅱの科目を本学で開講し、代替とする場合がある。

【日本語コース】

日本の伝統文化演習 A	2
日本の伝統文化演習 B	2
日本の社会実習 A	1
日本の社会実習 B	1

日本語コースの者は選択科目Ⅱから3単位以上履修すること。

○選択科目Ⅲ

【英語コース】

選択科目Ⅲとして全学共通教養教育科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目の中から 14 単位以上を履修すること。

ただし、全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち、英語に関しては、「アカデミック・イングリッシュ A・B」「プロフェッショナル・イングリッシュ A・B」「サマープログラム・英語 A・B・C」「スプリングプログラム・英語 A・B・C・D」「セメスタープログラム・英語 I・II」及び「Intensive Courses for TOEFL(Practice・Tutorial)」のみ履修することができる。英語以外の外国語に関しては、選択科目 I E 群で選択した外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）科目のうち、入門 I・II、インテンシヴ I・II は履修することができない。

【中国語コース】

選択科目Ⅲとして全学共通教養教育科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目の中から 14 単位以上を履修すること。

ただし、全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち、英語に関しては、「アカデミック・イングリッシュ A・B」「プロフェッショナル・イングリッシュ A・B」「サマープログラム・英語 A・B・C」「スプリングプログラム・英語 A・B・C・D」「セメスタープログラム・英語 I・II」及び「Intensive Courses for TOEFL(Practice・Tutorial)」のみ履修することができる。英語以外の外国語に関しては、中国語科目を履修することはできない。

【日本語コース】

選択科目Ⅲとして全学共通教養教育科目、他学部設置科目、日本語・日本文化教育科目（ただし、日本事情科目に限る）、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソ

ーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目の中から 1 単位以上を履修すること。

履修方法

【英語コース】

以上、必修科目 42 単位、選択科目 I から 36 単位以上、選択科目 II から 2 単位以上、選択科目 III から 14 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。

【中国語コース】

以上、必修科目 48 単位、選択科目 I から 36 単位以上、選択科目 II から 2～30 単位、選択科目 III から 14 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。

【日本語コース】

以上、必修科目 44 単位、選択科目 I から 30 単位以上、選択科目 II から 3 単位以上、選択科目 III から 1 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。

グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学科

人材養成目的

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科は、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカ 3 つの諸地域における文化の歴史的背景や現状を正確に理解しつつ、グローバル社会に対応できる幅広い教養をもって国内外のあらゆる場面で活躍し、本学の教育理念のひとつである国際主義を更に推進できる、良心と自由な精神を備えた人物の育成を目的としている。従って、本学部では、世界の中で自身の地歩をしっかりと持つ自立心と独創性、自身とは異なる価値観を受け入れることのできる、広い識見に支えられた寛容さと柔軟さ、および隣人との関係性の内に地球規模の課題を発見し、希望ある共生社会を構想する高い志を身に付けさせる。

科 目	履修単位	グローバル・イシュー 10	2
○必修科目		グローバル・イシュー 11	2
【共通科目】		(グローバル地域文化教養セミナー科目)	
グローバル地域文化論 I	2	グローバル地域文化教養セミナー 1	2
グローバル地域文化論 II	2	グローバル地域文化教養セミナー 2	2
グローバル地域文化導入セミナー	2	グローバル地域文化教養セミナー 3	2
グローバル地域文化入門セミナー	2	グローバル地域文化教養セミナー 4	2
グローバル地域文化発展セミナー I	2	グローバル地域文化教養セミナー 5	2
グローバル地域文化発展セミナー II	2	グローバル地域文化教養セミナー 6	2
グローバル地域文化専門セミナー I	2	グローバル地域文化教養セミナー 7	2
グローバル地域文化専門セミナー II	2	グローバル地域文化教養セミナー 8	2
卒業論文	8	グローバル地域文化教養セミナー 9	2
【ヨーロッパ】		グローバル地域文化教養セミナー 10	2
ヨーロッパ研究入門 I	2	グローバル地域文化教養セミナー 11	2
ヨーロッパ研究入門 II	2	グローバル地域文化教養セミナー 12	2
【アジア・太平洋】		グローバル地域文化教養セミナー 13	2
アジア・オセアニア研究入門 I	2	○選択必修科目B群 (スタディ・アブロード科目群)	
アジア・オセアニア研究入門 II	2	サマープログラム・英語 A	4
【アメリカ】		サマープログラム・英語 B	3
南北アメリカ研究入門 I	2	サマープログラム・英語 C	2
南北アメリカ研究入門 II	2	サマープログラム・ドイツ語 A	4
○選択必修科目A群		サマープログラム・ドイツ語 B	3
(グローバル・イシュー科目)		サマープログラム・フランス語	4
グローバル・イシュー 1	2	サマープログラム・中国語	4
グローバル・イシュー 2	2	サマープログラム・スペイン語	4
グローバル・イシュー 3	2	サマープログラム・ロシア語	4
グローバル・イシュー 4	2	サマープログラム・ロシア語	3
グローバル・イシュー 5	2	スプリングプログラム・英語 A	4
グローバル・イシュー 6	2	スプリングプログラム・英語 B	3
グローバル・イシュー 7	2	スプリングプログラム・英語 C	2
グローバル・イシュー 8	2	スプリングプログラム・英語 D	1
グローバル・イシュー 9	2	スプリングプログラム・ドイツ語	3

スプリングプログラム・フランス語	3	アカデミック・イングリッシュ B	2
スプリングプログラム・中国語	1	プロフェッショナル・イングリッシュ A	2
スプリングプログラム・スペイン語 B	3	プロフェッショナル・イングリッシュ B	2
スプリングプログラム・コリア語	3	プレ・イングリッシュ・プラクティクム	4
セメスタープログラム・英語 I	4	イングリッシュ・プラクティクム 1	4
セメスタープログラム・英語 II	4	イングリッシュ・プラクティクム 2	4
セメスタープログラム・ドイツ語 I	4	言語文化研究 1	2
セメスタープログラム・ドイツ語 II	4	言語文化研究 2	2
スタディ・ツアー	2	現代地域事情・上級講読(英語圏) 1	2
海外インターンシップ	2	現代地域事情・上級講読(英語圏) 2	2
海外語学プログラム(英語) I	4	Intensive Courses for TOEFL	1
海外語学プログラム(英語) II	4	(Practice)	1
海外語学プログラム(英語) III	1	Intensive Courses for TOEFL	1
留学とキャリア形成	1	(Tutorial)	1
派遣留学プログラム 1	1	ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A1	2
派遣留学プログラム 2	2	ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A2	2
		ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A3	2
		ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A4	2
		ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ B1	2
		ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ B2	2
選択必修科目B群から1単位履修すること。1単位以上履修した場合は、超過分の単位を選択必修科目C群(外国語関連科目群)の卒業要件単位に算入する。			
○選択必修科目C群(外国語関連科目群)			
(英語)		(ドイツ語)	
コミュニケーション・イングリッシュ 1	1	ドイツ語入門 I	2
コミュニケーション・イングリッシュ 2	1	ドイツ語入門 II	2
アナリティカル・リーディング 1	1	ドイツ語応用 1	1
アナリティカル・リーディング 2	1	ドイツ語応用 2	1
イングリッシュ・セミナー 1	1	ドイツ語応用 3	1
イングリッシュ・セミナー 2	1	ドイツ語応用 4	1
イングリッシュ・セミナー 3	2	ドイツ語インテンシヴ I	3
イングリッシュ・ワークショップ 1	1	ドイツ語インテンシヴ II	3
イングリッシュ・ワークショップ 2	1	ドイツ語インテンシヴ III	3
イングリッシュ・ワークショップ 3	2	ドイツ語インテンシヴ IV	3
アカデミック・イングリッシュ A	2	ドイツ語インテンシヴ V	2

ドイツ語インテンシヴ VI	2	フランス語表現法 1	2
ドイツ語文化事情 1	2	フランス語表現法 2	2
ドイツ語文化事情 2	2	言語文化原典演習(フランス語) 1	2
ドイツ語表現法 1	2	言語文化原典演習(フランス語) 2	2
ドイツ語表現法 2	2	現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 1	2
言語文化原典演習(ドイツ語) 1	2	現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 2	2
言語文化原典演習(ドイツ語) 2	2	フランス語会話初級 1	1
現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 1	2	フランス語会話初級 2	1
現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 2	2	フランス語会話中級 1	1
ドイツ語会話初級 1	1	フランス語会話中級 2	1
ドイツ語会話初級 2	1	フランス語会話上級 1	1
ドイツ語会話中級 1	1	フランス語会話上級 2	1
ドイツ語会話中級 2	1	(中国語)	
ドイツ語会話上級 1	1	中国語入門 I	2
ドイツ語会話上級 2	1	中国語入門 II	2
(フランス語)		中国語応用 1	1
フランス語入門 I	2	中国語応用 2	1
フランス語入門 II	2	中国語応用 3	1
フランス語応用 1	1	中国語応用 4	1
フランス語応用 2	1	中国語インテンシヴ I	3
フランス語応用 3	1	中国語インテンシヴ II	3
フランス語応用 4	1	中国語インテンシヴ III	3
フランス語インテンシヴ I	3	中国語インテンシヴ IV	3
フランス語インテンシヴ II	3	中国語インテンシヴ V	2
フランス語インテンシヴ III	3	中国語インテンシヴ VI	2
フランス語インテンシヴ IV	3	中国語インテンシヴ VII	2
フランス語インテンシヴ V	2	中国語インテンシヴ VIII	2
フランス語インテンシヴ VI	2	中国語文化事情 1	2
フランス語インテンシヴ VII	2	中国語文化事情 2	2
フランス語インテンシヴ VIII	2	中国語表現法 1	2
フランス語文化事情 1	2	中国語表現法 2	2
フランス語文化事情 2	2	言語文化原典演習(中国語) 1	2

言語文化原典演習(中国語) 2	2	スペイン語会話中級 1	1
現代地域事情・上級講読(中国語圏) 1	2	スペイン語会話中級 2	1
現代地域事情・上級講読(中国語圏) 2	2	スペイン語会話上級 1	1
中国語会話初級 1	1	スペイン語会話上級 2	1
中国語会話初級 2	1	(ロシア語)	
中国語会話中級 1	1	ロシア語入門 I	2
中国語会話中級 2	1	ロシア語入門 II	2
中国語会話上級 1	1	ロシア語応用 1	1
中国語会話上級 2	1	ロシア語応用 2	1
(スペイン語)		ロシア語応用 3	1
スペイン語入門 I	2	ロシア語応用 4	1
スペイン語入門 II	2	ロシア語インテンシヴ I	3
スペイン語応用 1	1	ロシア語インテンシヴ II	3
スペイン語応用 2	1	ロシア語インテンシヴ III	3
スペイン語応用 3	1	ロシア語インテンシヴ IV	3
スペイン語応用 4	1	ロシア語文化事情 1	2
スペイン語インテンシヴ I	3	ロシア語文化事情 2	2
スペイン語インテンシヴ II	3	ロシア語表現法 1	2
スペイン語インテンシヴ III	3	ロシア語表現法 2	2
スペイン語インテンシヴ IV	3	言語文化原典演習(ロシア語) 1	2
スペイン語インテンシヴ V	2	言語文化原典演習(ロシア語) 2	2
スペイン語インテンシヴ VI	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2
スペイン語文化事情 1	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2
スペイン語文化事情 2	2	ロシア語会話初級 1	1
スペイン語表現法 1	2	ロシア語会話初級 2	1
スペイン語表現法 2	2	ロシア語会話中級 1	1
言語文化原典演習(スペイン語) 1	2	ロシア語会話中級 2	1
言語文化原典演習(スペイン語) 2	2	ロシア語会話上級 1	1
現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 1	2	ロシア語会話上級 2	1
現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 2	2	(ロシア語)	
スペイン語会話初級 1	1	ロシア語入門 I	2
スペイン語会話初級 2	1	ロシア語入門 II	2

コリア語応用 1	1	地域文化理解のためのインドネシア語 4	2
コリア語応用 2	1	(講読)	
コリア語応用 3	1	地域文化理解のためのインドネシア語 5	2
コリア語応用 4	1	(講読)	
コリア語インテンシヴ I	3	(トルコ語)	
コリア語インテンシヴ II	3	地域文化理解のためのトルコ語 1(文法)	2
コリア語インテンシヴ III	3	地域文化理解のためのトルコ語 2(文法)	2
コリア語インテンシヴ IV	3	地域文化理解のためのトルコ語 3	
コリア語インテンシヴ V	2	(コミュニケーション)	2
コリア語インテンシヴ VI	2	地域文化理解のためのトルコ語 4(講読)	2
コリア語文化事情 1	2	地域文化理解のためのトルコ語 5(講読)	2
コリア語文化事情 2	2	(ポルトガル語)	
コリア語表現法 1	2	地域文化理解のためのポルトガル語 1	2
コリア語表現法 2	2	(文法)	
言語文化原典演習(コリア語) 1	2	地域文化理解のためのポルトガル語 2	2
言語文化原典演習(コリア語) 2	2	(文法)	
現代地域事情・上級講読(コリア語圏) 1	2	地域文化理解のためのポルトガル語 3	2
現代地域事情・上級講読(コリア語圏) 2	2	(コミュニケーション)	
コリア語会話初級 1	1	地域文化理解のためのポルトガル語 4	2
コリア語会話初級 2	1	(講読)	
コリア語会話中級 1	1	地域文化理解のためのポルトガル語 5	2
コリア語会話中級 2	1	(講読)	
コリア語会話上級 1	1	(アラビア語)	
コリア語会話上級 2	1	地域文化理解のためのアラビア語 1(文法)	2
(インドネシア語)		地域文化理解のためのアラビア語 2(文法)	2
地域文化理解のためのインドネシア語 1	2	地域文化理解のためのアラビア語 3	2
(文法)		(コミュニケーション)	
地域文化理解のためのインドネシア語 2	2	地域文化理解のためのアラビア語 4(講読)	2
(文法)		地域文化理解のためのアラビア語 5(講読)	2
地域文化理解のためのインドネシア語 3	2	(イタリア語)	
(コミュニケーション)		イタリア語初級 I	1
		イタリア語初級 II	1

地域文化理解のためのイタリア語 1 (コミュニケーション)	2
イタリア語中級 I	1
イタリア語中級 II	1
地域文化理解のためのイタリア語 2(講読)	2
地域文化理解のためのイタリア語 3(講読)	2
地域文化理解のためのイタリア語 4 (コミュニケーション)	2
(フランス語・カナダ)	
地域文化理解のためのフランス語 (カナダ) 1(総合)	2
地域文化理解のためのフランス語 (カナダ) 2(総合)	2

選択必修科目C群(外国語関連科目群)のうち、英語及び英語以外の外国語から1言語、計2言語を選択し、第一言語14単位以上、第二言語10単位以上履修すること。

外国人留学生が日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(読解AVI)～日本語2(文法IX)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、選択必修科目C群(外国語関連科目群)の英語以外の外国語の単位として卒業要件単位に算入する。

TOEIC® LISTENING AND READING TEST, TOEIC® LISTENING AND READING TEST(IP), TOEFL iBT®テスト, TOEFL ITP®テスト, IELTS, 実用英語技能検定試験, 国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、8単位を限度として、選択必修科目C群(外国語関連科目群)の英語の単位として認定する。

【ヨーロッパコース】

第一言語は英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語の中から選択すること。第一言語としてドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語を選択した場合

は、第二言語として英語を履修すること。

【アジア・太平洋コース】

第一言語は英語、中国語、韓国語の中から選択すること。第一言語として中国語、韓国語を選択した場合は、第二言語として英語を履修すること。

【アメリカコース】

第一言語は英語、スペイン語の中から選択すること。第一言語としてスペイン語を選択した場合は、第二言語として英語を履修すること。

○選択科目A群(地域文化研究科目群)

【ヨーロッパ】

(地域の歴史)

ヨーロッパ地域の歴史 1	2
ヨーロッパ地域の歴史 2	2
ヨーロッパ地域の歴史 3	2

(地域の文化)

ヨーロッパ地域の文化 1	2
ヨーロッパ地域の文化 2	2
ヨーロッパ地域の文化 3	2
ヨーロッパ地域の文化 4	2
ヨーロッパ地域の文化 5	2

(地域と地球規模の課題)

ヨーロッパ地域の課題 1	2
ヨーロッパ地域の課題 2	2
ヨーロッパ地域の課題 3	2
ヨーロッパ地域の課題 4	2
ヨーロッパ地域の課題 5	2
ヨーロッパ地域の課題 6	2
ヨーロッパ地域の課題 7	2
ヨーロッパ地域の課題 8	2

【アジア・太平洋】

(地域の歴史)

アジア・オセアニア地域の歴史 1	2	(地域の文化)	
アジア・オセアニア地域の歴史 2	2	南北アメリカ地域の文化 1	2
アジア・オセアニア地域の歴史 11	2	南北アメリカ地域の文化 2	2
アジア・オセアニア地域の歴史 12	2	南北アメリカ地域の文化 3	2
アジア・オセアニア地域の歴史 13	2	南北アメリカ地域の文化 4	2
(地域の文化)		南北アメリカ地域の文化 5	2
アジア・オセアニア地域の文化 1	2	南北アメリカ地域の文化 6	2
アジア・オセアニア地域の文化 2	2	南北アメリカ地域の文化 7	2
アジア・オセアニア地域の文化 3	2	(地域と地球規模の課題)	
アジア・オセアニア地域の文化 4	2	南北アメリカ地域の課題 1	2
アジア・オセアニア地域の文化 11	2	南北アメリカ地域の課題 2	2
アジア・オセアニア地域の文化 12	2	南北アメリカ地域の課題 3	2
アジア・オセアニア地域の文化 13	2	南北アメリカ地域の課題 4	2
アジア・オセアニア地域の文化 14	2	南北アメリカ地域の課題 5	2
アジア・オセアニア地域の文化 15	2	南北アメリカ地域の課題 6	2
アジア・オセアニア地域の文化 16	2	南北アメリカ地域の課題 7	2
(地域と地球規模の課題)		南北アメリカ地域の課題 8	2
アジア・オセアニア地域の課題 1	2	○選択科目A群 (実践科目群)	
アジア・オセアニア地域の課題 2	2	発信スキル実践	1
アジア・オセアニア地域の課題 3	2	選択科目A群 (地域文化研究科目群), 選択科目A群	
アジア・オセアニア地域の課題 4	2	(実践科目群) より計 20 単位以上履修すること。	
アジア・オセアニア地域の課題 5	2	【ヨーロッパコース】	
アジア・オセアニア地域の課題 6	2	上記 20 単位のうち, 選択科目A群 (地域文化研究科	
【アメリカ】		目群) のヨーロッパ科目から 14 単位以上履修するこ	
(地域の歴史)		と。	
南北アメリカ地域の歴史 1	2	【アジア・太平洋コース】	
南北アメリカ地域の歴史 2	2	上記 20 単位のうち, 選択科目A群 (地域文化研究科	
南北アメリカ地域の歴史 3	2	目群) のアジア・太平洋科目から 14 単位以上履修する	
南北アメリカ地域の歴史 4	2	こと。	
南北アメリカ地域の歴史 5	2	【アメリカコース】	
南北アメリカ地域の歴史 6	2	上記 20 単位のうち, 選択科目A群 (地域文化研究科	
南北アメリカ地域の歴史 7	2	目群) のアメリカ科目から 14 単位以上履修すること。	

○選択科目B群（地域文化研究隣接科目群）

【共通科目】

世界の言語 1	1
世界の言語 2	1
世界の言語 3	1
世界の言語 4	1
世界の言語 5	1
世界の言語 6	1
世界の言語 7	1
世界の言語 8	1
世界の言語 9	1
世界の言語 10	1
グローバル地域文化特殊講義 1	2
グローバル地域文化特殊講義 2	2
グローバル地域文化特殊講義 3	2
グローバル地域文化特殊講義 4	2
グローバル地域文化特殊講義 5	2
グローバル地域文化特殊講義 6	2
グローバル地域文化特殊講義 7	2
グローバル地域文化特殊講義 8	2
グローバル地域文化特殊講義 9	2
グローバル地域文化特殊講義 10	2
グローバル地域文化研究の実践 1	1
グローバル地域文化研究の実践 2	1

【ヨーロッパ】

ヨーロッパの思想史	2
ヨーロッパ社会史 1	2
ヨーロッパ社会史 2	2
ヨーロッパの政治史	2
ヨーロッパの経済	2
ヨーロッパの経済史	2
ロシア・東ヨーロッパの政治	2

EUの政治

2

【アジア・太平洋】

アジアの教育と社会 1	2
アジアの教育と社会 2	2
中国の政治	2
南アジアの政治と社会	2
東アジアの国際関係	2
アジアの経済	2
中国の経済	2
アセアンの経済	2
韓国の経済	2

【アメリカ】

アメリカ文化の歴史 1	2
アメリカ文化の歴史 2	2
アメリカの経済	2
アメリカの経済史	2
アメリカの政治と外交	2
ラテンアメリカの政治と社会	2

○選択科目C群

【共通科目】

テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 1	2
テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 2	2
テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 3	2
テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 4	2
テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 5	2
テュービンゲン大学 I E S 単位互換科目 6	2

(免許・資格関連科目)

日本史概論	4
西洋文化史概説(1)	2
西洋文化史概説(2)	2
地理学 1	2
地理学 2	2

地誌学	2	地理歴史科教育法	2
社会学概論	4	生涯学習概論	2
経済原論	4	図書館情報学概論	2
哲学概論(1)	2	図書館制度・経営論	2
哲学概論(2)	2	図書館情報技術論	2
倫理学概論(1)	2	図書館情報サービス論 I	2
倫理学概論(2)	2	図書館情報サービス論 II	2
宗教学概論(1)	2	児童サービス論	2
宗教学概論(2)	2	情報サービス演習 I	2
教育原理	2	情報サービス演習 II	2
教職概論	2	図書館情報資源概論	2
教育制度と学校経営	2	情報資源組織論 I	2
学校教育社会学	2	情報資源組織論 II	2
人権教育論	2	情報資源組織演習 I	2
発達と学習の心理学	2	情報資源組織演習 II	2
特別ニーズ教育論	2	図書館情報学特論	2
教育課程論	2	学術情報利用教育論	2
道德教育の理論と実践	2	図書館情報資源特論	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	図書・図書館史	2
教育方法論	2	図書館演習	4
生徒・進路指導の理論と方法	2	学校図書館サービス論	2
教育相談の理論と方法	2	選択科目C群は上記科目に加え、全学共通教養教育科目(外国語教育科目を除く)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目の中から16単位以上履修すること。	
スクールインターンシップ	2	外国人留学生が、日本語・日本文化教育科目(日本語1(読解AⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語D及び日本の文学Bを除く)を履修した場合は、選択科目C群の卒業要件単位に算入する。	
学校教育図書館論	2	○選択科目D群(原語で学ぶ地域文化研究科目群)	
学校図書館メディアの構成	2	英語で読む地域文化研究 1	2
学習指導と学校図書館	2	英語で読む地域文化研究 2	2
読書と豊かな人間性	2		
情報メディアの活用	2		
社会科・地理歴史科教育法	2		
社会科・公民科教育法	2		
社会科教育法 1	2		
社会科教育法 2	2		

英語で読む地域文化研究 3	2
英語で読む地域文化研究 4	2
英語で読む地域文化研究 5	2
Global and Regional Cultural Studies Seminar 1	2
Global and Regional Cultural Studies Seminar 2	2
Global and Regional Cultural Studies Seminar 3	2
Global and Regional Cultural Studies Seminar 4	2
ドイツ語で読む地域文化研究 1	2
ドイツ語で読む地域文化研究 2	2
フランス語で読む地域文化研究 1	2
フランス語で読む地域文化研究 2	2
中国語で読む地域文化研究 1	2
中国語で読む地域文化研究 2	2
スペイン語で読む地域文化研究 1	2
スペイン語で読む地域文化研究 2	2
ロシア語で読む地域文化研究 1	2
ロシア語で読む地域文化研究 2	2
ロシア語で読む地域文化研究 1	2
ロシア語で読む地域文化研究 2	2
韓国語で読む地域文化研究 1	2
韓国語で読む地域文化研究 2	2
○自由科目	
情報機器の操作	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
履修方法	
【全コース共通】	

以上、必修科目の共通科目から 24 単位、各コースの必修科目からそれぞれ 4 単位、選択必修科目 A 群のグローバル・イシュー科目から 4 単位以上、グローバル地域文化教養セミナー科目から 2 単位以上、選択必修科目 B 群（スタディ・アブロード科目群）から 1 単位、選択必修科目 C 群（外国語関連科目群）から 24 単位以上、選択科目 A 群（地域文化研究科目群）、選択科目 A 群（実践科目群）から計 20 単位以上、選択科目 C 群から 16 単位以上、合計 124 単位以上履修すること。

国際教育インスティテュート

人材養成目的

国際教育インスティテュートは、キリスト教主義、国際主義、自由主義の同志社建学の理念に基づき、社会・文化・経済・ビジネス・法律・政治・政策・国際協力等の分野において、国際的に活躍するために必要な幅広い学際的教養及び国際的コミュニケーションの技能を身に付け、日本と各国の架け橋となる人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○演習・卒業論文	
入門ゼミ	
Introductory Seminar A	2
Introductory Seminar B	2
Introductory Seminar C	2
Introductory Seminar D	2
Introductory Seminar E	2
展開ゼミ	
Intermediate Seminar A	2
Intermediate Seminar B	2
Intermediate Seminar C	2

Intermediate Seminar D	2	Japanese Issues and Topics	2
Intermediate Seminar E	2	Introduction to Kyoto	2
発展ゼミ・卒業論文		Doshisha and Christianity	2
Advanced Seminar 1	2	Geography of Japan	2
Advanced Seminar 2	2	Nature and the Environment in Japan	2
Honors Thesis	2	Religion in Japan	2
入門ゼミから 8 単位以上, 展開ゼミから 4 単位以上, 発展ゼミから Advanced Seminar 1, Advanced Seminar 2 を含み 4 単位以上, 計 16 単位以上を履修すること。		Understanding and Experiencing Work in Japan	2
○基幹科目		アカデミック・リサーチスキル科目から 12 単位以上, 日本・京都理解基礎科目から 4 単位以上, 計 16 単位以上 を履修すること。	
アカデミック・リサーチスキル科目		○専門領域科目	
Library Research Skills	2	Japanese Society and Global Culture Concentration	
Introduction to Information Systems	2	<入門>	
Academic Presentations and Debate	2	What Makes Humans Human?	2
Academic Writing	2	Introduction to Japanese History	2
Mathematical Methods for the Social Sciences	2	Manga and Anime Studies	2
Probability for the Social Sciences	2	Japanese Society and Culture	2
Introduction to Asian Philosophy and Thought	2	Introduction to the Arts	2
Introduction to Social, Political, and Economic Thought	2	Introduction to Media and Communications	2
Introduction to Philosophy and Ethics	2	Introduction to Globalization	2
Introduction to Qualitative Research Methods	2	World Civilizations	2
Introduction to Quantitative Research Methods	2	<展開>	
Advanced Mathematical Methods for the Social Sciences	2	Media in Japan	2
日本・京都理解基礎科目		Japanese and World Literature	2
Basic Japanese	2	World, Youth, and Pop Culture	2
Communities of Practice in Japan	2	Ethnicity in Japan	2
		Japan in the World: Cultural Flows and Diasporas	2
		Social Foundations of Language	2
		Asian Civilizations	2

Modern Japanese History	2	Japanese Corporations	2
<発展>		<発展>	
Social Foundations of Education	2	Economic Growth	2
Nations and Nationalism	2	International Economics	2
Advanced Themes in Anthropology	2	Corporate Strategy and Organization	2
Disaster Studies	2	Management Accounting in Japan	2
Social Inequalities in Japan	2	International Marketing	2
Colonialism and Imperialism	2	International Business Communication	2
Advanced Media Studies	2	Industry and Corporation in Kyoto	2
Migration and Transnationalism	2	Contemporary Issues in Business and Economics	2
Japanese Business and the Global Economy Concentration		Japanese Politics and Global Studies Concentration	
<入門>		<入門>	
Introduction to Contemporary Economics and Business	2	The Politics of Growth in Developing Countries	2
Introduction to the Japanese Economy	2	Winners and Losers: Introduction to Political Theory	2
Macroeconomics	2	Introduction to Japanese Law	2
Microeconomics	2	Power and Politics in Japan	2
Introduction to Finance	2	Introduction to Comparative Policymaking	2
Introduction to Business Administration	2	Introduction to International Relations	2
Introduction to Accounting	2	Comparative Politics	2
Society and Economy in Kyoto	2	Peace and Conflict	2
<展開>		<展開>	
Consumers and the Market in Japan	2	Citizen Politics in Japan and Beyond	2
Ecology and Economy in Japan	2	International Relations in East Asia	2
Industry and Labor in Japan	2	Postwar Japan - U.S. Relations	2
The Creative Industries in Contemporary Japan	2	What Makes Countries Poor?	2
The Financial System in Japan	2	International Human Rights Law	2
Financial Accounting in Japan	2	Political Behavior, Campaigns and Elections	2
Introduction to Marketing	2		

Civic Engagement	2
Public Opinion and Political Psychology	2
<発展>	
Topics in Public Policy	2
Mass Media in the Policymaking Process	2
International Law and Organizations	2
International Political Economy	2
Development and Law	2
Topics in Japan's Contemporary International Relations	2
Social Movements and Contentious Politics	2
Politics through Film	2

選択したコンセントレーションの入門・展開・発展から各4単位以上を含む30単位以上を履修すること。

○選択科目

Special Lecture Series (1科目1~8単位)
 Recognized Transfer Credits (1科目1~8単位)
 上記のほか、日本語・日本文化教育科目、全学共通教養教育科目、学部及び大学院設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及び同志社女子大学単位互換科目のうち国際教育インスティテュートが定める科目から選択履修すること。学則第9条の2及び第9条の4により修得した単位をRecognized Transfer Creditsとして認定することがある。全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語及び母語の履修は認めない。

以上、演習・卒業論文、基幹科目、専門領域科目及び選択科目から124単位以上を履修すること。

教育職員免許状を得るための課程

高等学校教諭一種免許状及び中学校教諭一種免許状を得ようとする者は、学士の学位を有し、教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目、大学が独自に設定する科目について下記の所定の単位及び日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位、情報機器の操作2単位を修得しなければならない。

ただし、「学士の学位を有し」には、学校教育法第102条第2項の規定により本学大学院への入学が認められた場合を含むものとする。

なお、学部・学科において取得できる免許状の種類(教科)は次のとおりとする。

神学部神学科	中一種免(宗教), 高一種免(宗教)
文学部	
英文学科	中一種免(英語), 高一種免(英語)
哲学科	中一種免(社会), 高一種免(地理歴史), 高一種免(公民)
美学芸術学科	中一種免(社会), 高一種免(地理歴史), 高一種免(公民)
文化史学科	中一種免(社会), 高一種免(地理歴史), 高一種免(公民)
国文学科	中一種免(国語), 高一種免(国語)
社会学部	
社会学科	中一種免(社会), 高一種免(公民)

社会福祉学科	中一種免(社会), 高一種免(公民), 高一種免(福祉)	理工学部	インテリジェント情報工学科 中一種免(数学), 高一種免(数学), 高一種免(情報)
メディア学科	中一種免(社会), 高一種免(公民)	情報システムデザイン学科	中一種免(数学), 高一種免(数学), 高一種免(情報)
産業関係学科	中一種免(社会), 高一種免(公民)	電気工学科	中一種免(数学), 高一種免(数学)
教育文化学科	中一種免(社会), 高一種免(地理歴史), 高一種免(公民)	電子工学科	中一種免(数学), 高一種免(数学)
法学部		機械システム工学科	中一種免(数学), 高一種免(数学), 中一種免(理科), 高一種免(理科)
法律学科	中一種免(社会), 高一種免(地理歴史), 高一種免(公民)	機械理工学科	中一種免(数学), 高一種免(数学), 中一種免(理科), 高一種免(理科)
政治学科	中一種免(社会), 高一種免(地理歴史), 高一種免(公民)	機能分子・生命化学科	中一種免(理科), 高一種免(理科)
経済学部		化学システム創成工学科	中一種免(数学), 高一種免(数学), 中一種免(理科), 高一種免(理科)
経済学科	中一種免(社会), 高一種免(地理歴史), 高一種免(公民)	環境システム学科	中一種免(理科), 高一種免(理科)
商学部		数理システム学科	中一種免(数学), 高一種免(数学), 高一種免(情報)
商学科	中一種免(社会), 高一種免(地理歴史), 高一種免(公民), 高一種免(商業)	生命医科学部	
政策学部		医工学科	中一種免(数学), 高一種免(数学), 中一種免(理科), 高一種免(理科)
政策学科	中一種免(社会), 高一種免(公民)	医情報学科	中一種免(数学), 高一種免(数学), 中一種免(理科), 高一種免(理科)
文化情報学部		医生命システム学科	中一種免(理科), 高一種免(理科)
文化情報学科	中一種免(社会), 高一種免(地理歴史), 高一種免(公民), 中一種免(数学), 高一種免(数学), 高一種免(情報)		

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

中一種免(保健体育),

高一種免(保健体育)

心理学部

心理学科 中一種免(社会), 高一種免(公民)

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

英語コース 中一種免(英語), 高一種免(英語)

グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学科

中一種免(社会),

高一種免(地理歴史)

英語

(高等学校

及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位, 中学校 28 単位を修得しなければならない。

教科の指導法 4 単位以上又は 8 単位以上

英語学 1 単位以上

英語文学 1 単位以上

英語コミュニケーション 1 単位以上

異文化理解 1 単位以上

計 24 単位又は 28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 高等学校 12 単位, 中学校 4 単位を修得しなければならない。

教科及び教科の指導法に関する科目

大学が独自に設定する科目

免許教科名

単位修得の方法

国語

(高等学校

及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位, 中学校 28 単位を修得しなければならない。

教科の指導法 4 単位以上又は 8 単位以上

国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)

国文学 1 単位以上

(国文学史を含む。)

漢文学 1 単位以上

計 24 単位又は 28 単位

高等学校の場合は上のおりであるが, 中学校の場合は書道(書写を中心とする。)1 単位以上を履修すること。本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 高等学校 12 単位, 中学校 4 単位を修得しなければならない。

宗教

(高等学校

及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位, 中学校 28 単位を修得しなければならない。

教科の指導法 4 単位以上又は 8 単位以上

宗教学 1 単位以上

宗教史 1 単位以上

『教理学, 哲学』 1 単位以上

計 24 単位又は 28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 高等学校 12 単位, 中学校 4 単位を修得しなければならない。

地理歴史
(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について24単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
日本史	1 単位以上
外国史	1 単位以上
人文地理学・ 自然地理学	1 単位以上
地誌	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位を修得しなければならない。

公民
(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について24単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
『法律学(国際法を 含む。), 政治学 (国際政治を含む。)]	1 単位以上
『社会学, 経済学(国際 経済を含む。)]	1 単位以上
『哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学』	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位を修得しなければならない。

福祉
(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について24単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
社会福祉学 (職業指導を含む。)	1 単位以上
高齢者福祉・児童福祉・ 障害者福祉	1 単位以上
社会福祉援助技術	1 単位以上
介護理論・介護技術	1 単位以上
社会福祉総合実習	1 単位以上

(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)

人体構造に関する理 解・日常生活行動に 関する理解	1 単位以上
加齢に関する理解・障 害に関する理解	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位を修得しなければならない。

社会

(中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について28単位を修得しなければならない。

教科の指導法	8 単位以上
日本史・外国史	1 単位以上
地理学(地誌を含む。)	1 単位以上
『法学, 政治学』	1 単位以上
『社会学, 経済学』	1 単位以上
『哲学, 倫理学, 宗教学』	1 単位以上
計	28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、中学校4単位を修得しなければならない。

商業

(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について24単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
商業の関連科目	1 単位以上
職業指導	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位を修得しなければならない。

理科

(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について24単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
物理学	1 単位以上
化学	1 単位以上
生物学	1 単位以上
地学	1 単位以上
『物理学実験(コンピュータ活用を含む。), 化学実験(コンピュータ活用を含む。), 生物学実験(コンピュータ活用を含む。), 地学実験(コンピュータ活用を含む。)]	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位を修得しなければならない。

理科
(中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について28単位を修得しなければならない。

教科の指導法	8 単位以上
物理学	1 単位以上
物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	1 単位以上
化学	1 単位以上
化学実験(コンピュータ活用を含む。)	1 単位以上
生物学	1 単位以上
生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	1 単位以上
地学	1 単位以上
地学実験(コンピュータ活用を含む。)	1 単位以上
計	28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、中学校4単位を修得しなければならない。

数学
(高等学校及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校24単位、中学校28単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上又は8 単位以上
代数学	1 単位以上
幾何学	1 単位以上
解析学	1 単位以上
『確率論, 統計学』	1 単位以上
コンピュータ	1 単位以上
計	24 単位又は28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位、中学校4単位を修得しなければならない。

情報
(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について24単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
情報社会・情報倫理	1 単位以上
コンピュータ・情報 処理(実習を含む。)	1 単位以上
情報システム(実習を 含む。)	1 単位以上
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	1 単位以上
マルチメディア表現・ マルチメディア技術 (実習を含む。)	1 単位以上
情報と職業	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位を修得しなければならない。

保健体育
(高等学校
及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校24単位、中学校28単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上又 は8 単位以上
体育実技	1 単位以上
『体育原理, 体育心理 学, 体育経営管理学, 体育社会学, 体育史』 ・運動学(運動方法学 を含む。)	1 単位以上
生理学 (運動生理学を含む。)	1 単位以上
衛生学・公衆衛生学	1 単位以上
学校保健(小児保健, 精 神保健, 学校安全及 び救急処置を含む。)	1 単位以上
計	24 単位又は28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位、中学校4単位を修得しなければならない。

教育の基礎的理解に関する科目

○必修科目

科 目	履修単位
教育原理	2
教職概論	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
人権教育論	2

発達と学習の心理学	2
特別ニーズ教育論	2
教育課程論	2

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、
教育相談等に関する科目

○必修科目

科 目	履修単位
道徳教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法論	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2

教育実践に関する科目

○必修科目

科 目	履修単位
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2

- 1 教育の基礎的理解に関する科目は、14 単位以上を履修しなければならない。
- 2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目は、高等学校の場合 8 単位以上、中学校の場合 10 単位以上を履修しなければならない。
- 3 教育実践に関する科目は、高等学校の場合 5 単位以上、中学校の場合 7 単位以上を履修しなければならない。

4 教科の指導法は、申請する免許状の教科ごとに修得しなければならない。本学では宗教・国語・理科・数学・保健体育科(高一種免 4 単位, 中一種免 8 単位), 商業・情報科(各 4 単位), 英語・社会科(8 単位), 地理歴史・公民・福祉科(各 4 単位)の教科教育法を設けている。

「商業」, 「数学」又は「理科」の教科について高等学校教諭免許状の授与を受ける場合の各教科の指導法に関する科目, 教諭の教育の基礎的理解に関する科目等の単位数のうちその半数までの単位は, 当該免許状に係る教科に関する専門的事項に関する科目について修得することができる。

附 記

中学校教諭二種免許状を得ようとする者は, 基礎資格として大学に 2 年以上在学し, 62 単位以上〔内, 外国語コミュニケーション 2 単位及び情報機器の操作 2 単位, 日本国憲法 2 単位, 体育 2 単位とする〕を修得すること。また, 大学において修得することを必要とする科目は, 教科及び教科の指導法に関する科目 12 単位, 教育の基礎的理解に関する科目 6 単位, 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目 6 単位, 教育実践に関する科目 7 単位, 大学が独自に設定する科目 4 単位を修得しなければならない。